

独立行政法人 国立病院機構
北海道がんセンター

年 報

平成 27 年度

序文

「病院年報の発刊に寄せて」

平成27年度北海道がんセンター年報を刊行します。

本冊子は毎年の当施設の病院概要、診療部門・薬剤部・看護部・事務部門・医療情報部門などの活動報告、当院の診療に関する各種統計、研究業績および各種研究参加状況などにより構成されています。

平成27年度は28年度DPCに移行するため、専門病院の7:1を取得しました。大型治療器ダヴィンチの導入、リニアックの更新も経て順調に臨床に使われています。来年から着工が見込まれる病院建替の実施設計もほぼ終わり3月の入札を待つばかりです。

一方都道府県のがん診療連携拠点病院として、がん対策を総合的に推進し、道民が心身共に健康で心豊かな生活を送ることのできる社会の実現に寄与することに邁進することが使命と感じています。昨年5月沖縄のがん診療連携協議会を視察に行き、感じる事が一杯ありました。ただひと言でいえば北海道はがん対策が遅れていると言うことです。5月末がん政策サミット参加、10月北海道新聞社の「がんフォーラム」に参加し、今年の六位一体での「北海道がんサミット」につなげました。そういう意味では平成27年度は当院にとって転換点だったと考えています。病院内外の皆様、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

平成28年12月

北海道がんセンター 院長 近藤 啓史

国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のためにたゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。

独立行政法人



国立病院機構

北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

(基本方針)

1. 特に、「がん克服」に寄与することを目指します。
2. 常に医療の質と技術の向上を目指します。
3. 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
4. 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
5. 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。

目 次

巻 頭 言「病院年報の発刊に寄せて」
理 念

I 病院概要

沿革・環境	1
病院の組織及び職員の状況	3
現 況	6
診療機能等	8
(1) 運営方針	8
(2) がん診療	8
(3) 臨床研究部	11
(4) 治験実績	12
(5) 教育・研修	12
(6) 医療連携	13
(7) がん相談支援情報室	14
病院経営の状況	15
施設基準の届出状況	18

II 診療部門活動報告

循環器内科	19
呼吸器内科	20
消化器内科	21
血液内科	22
緩和ケア内科	23
消化器外科	24
呼吸器外科	25
乳 腺 外 科	26
腫瘍整形外科	27
皮 膚 科	28
泌 尿 器 科	29
婦 人 科	30
眼 科	31
頭頸部外科	32
リハビリテーション科	33
放射線診断科	34
放射線治療科	35
麻 酔 科	36
脳神経外科	37
形 成 外 科	37
病理診断科	38
臨床検査科	39
薬 剤 科	41
診療放射線科	42
栄養管理室	43
治験管理室	45

看護部	46
2 F 病棟	47
4A ICU病棟	48
4 B 病棟	48
5 A 病棟	49
5 B 病棟	50
6 A 病棟	51
6 B 病棟	51
7 F 病棟	52
手術センター	53
外来	54
感染対策室	54
院内感染対策委員会	56
医療安全管理室	58
医療安全管理委員会	59
がん相談支援情報室	60
地域医療連携室	61
医療情報管理室	62
がん登録室	64
臨床工学室	66
III 各院内センター活動報告	
呼吸器センター	69
サルコーマセンター	70
高度先進内視鏡外科センター	72
内視鏡センター	73
外来化学療法センター	74
緩和ケアセンター	75
IV 統計	
年度別入院・外来患者数等	77
年度別・診療科別死亡患者数・剖検件数	78
診療科別退院患者延数及びがん患者延数	79
第10回修正国際疾病分類による退院患者延数	80
調剤数・製剤数	82
薬物体液中濃度測定検体数	84
薬剤管理指導料実施患者数	84
治験事務局取扱件数	84
年度別手術件数	84
臨床検査件数	85
輸血検査取扱件数	86
放射線業務集計報告書	87
V 研究業績	89
VI 各種研究参加状況	161
VII 平成27年度 病院行事	165

I 病 院 概 要

1. 沿革・環境

1 名称・所在地

独立行政法人 国立病院機構
北海道がんセンター
札幌市白石区菊水4条2丁目3番54号

2 沿革

- ・明治29年 札幌衛戍病院（その後札幌陸軍病院）として開院（月寒）
- ・昭和20年12月 国立札幌病院（厚生省に移管）に改称
- ・昭和27年 当地（菊水）に進出して市内診療所を開設
- ・昭和32年 16診療科450床 鉄筋の総合病院となる
- ・昭和42年 道内初の放射線治療機器 リニアックを導入
- ・昭和43年 北海道の要請により北海道地方がんセンターを併設
がん病棟100床増築
- ・昭和58年 第三次救急医療施設併設
- ・昭和61年 更新築工事（7期）完了
- ・昭和63年10月 臨床研究部設置
- ・平成16年4月 独立行政法人移行に伴い「北海道がんセンター」と名称変更
- ・平成17年1月 地域がん診療拠点病院に指定
- ・平成21年2月 都道府県がん診療連携拠点病院に指定
- ・平成22年3月 救命救急センター部門が北海道医療センターに機能移転
- ・平成24年4月 歯科口腔外科を新設し、26診療科460床の運用となる

明治29年札幌衛戍病院（その後札幌陸軍病院）として創立、終戦により昭和20年12月厚生省に移管、国立札幌病院として発足した。当時施設は豊平町月寒に所在し、主に復員軍人や引揚者の1次診療施設として国策医療に専念していた。また同時に移管された旧航空隊八雲分院を昭和23年国立八雲病院として独立、分離する。

一方、交通が不便で外来患者の受診が見込めない事情や、建物の老朽化等から将来の役割・診療機能を展望して、札幌市内進出に積極的に取り組み、昭和27年現在地に外来診療棟を新築し市内診療所を開設した。

翌昭和28年、念願であった基幹病院として第1次近代化整備が開始され、病棟等の工事の進捗状況に合わせ月寒庁舎より逐次移転し、昭和32年月寒本院を閉鎖、現在地に16診療科450床の鉄筋化された建物で総合病院として診療を開始した。

さらに、昭和42年道内初の放射線治療器 リニアックの導入、翌昭和43年北海道及び関係機関の癌診療に対する要請と支援により北海道地方がんセンターが併設され、がん病棟100床が増築された。がんの分野においても基幹施設としての人材の確保がはかられて治療、研究に専念し、全道的診療圏を形成するに至った。

その後、医学の著しい発展と医療の高度化に対応すべく昭和54年度から7期にわたって建物等の更新築工事が施工され、昭和61年7月全容を一新して完成をみたところである。この間昭和58年には北海道及び札幌市の強い要望を受けて、道央地区の第三次救急医療施設に承認され、設備・機能が拡充されて、高度先駆的病院、地方基幹施設と位置づけられ、その専門性を高めてきた。

平成16年4月1日国立病院・療養所の独立行政法人への移行により、その名称も「独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター」と改め、新たな歩みを開始した。

平成17年1月17日に地域がん診療拠点病院に、その後、平成21年2月23日に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定された。

平成22年3月1日には、国立病院機構北海道医療センターの開設に伴い救命救急センター部門などの機能移転を行った。

平成24年4月よりがん患者の口腔管理のため歯科口腔外科を新設し、現在は26診療科460床で運用している。

3 環 境

札幌市（人口約1,900千人）東部の白石区（人口約210千人）に位置する。

周囲は新しい高層建築が多くなったが、近くには札幌市を南北に貫流する豊平川が流れ、病院の高層階からは手稲連峰が望め、冬は大倉山のジャンプ台が浮かんで見える恵まれた環境にある。

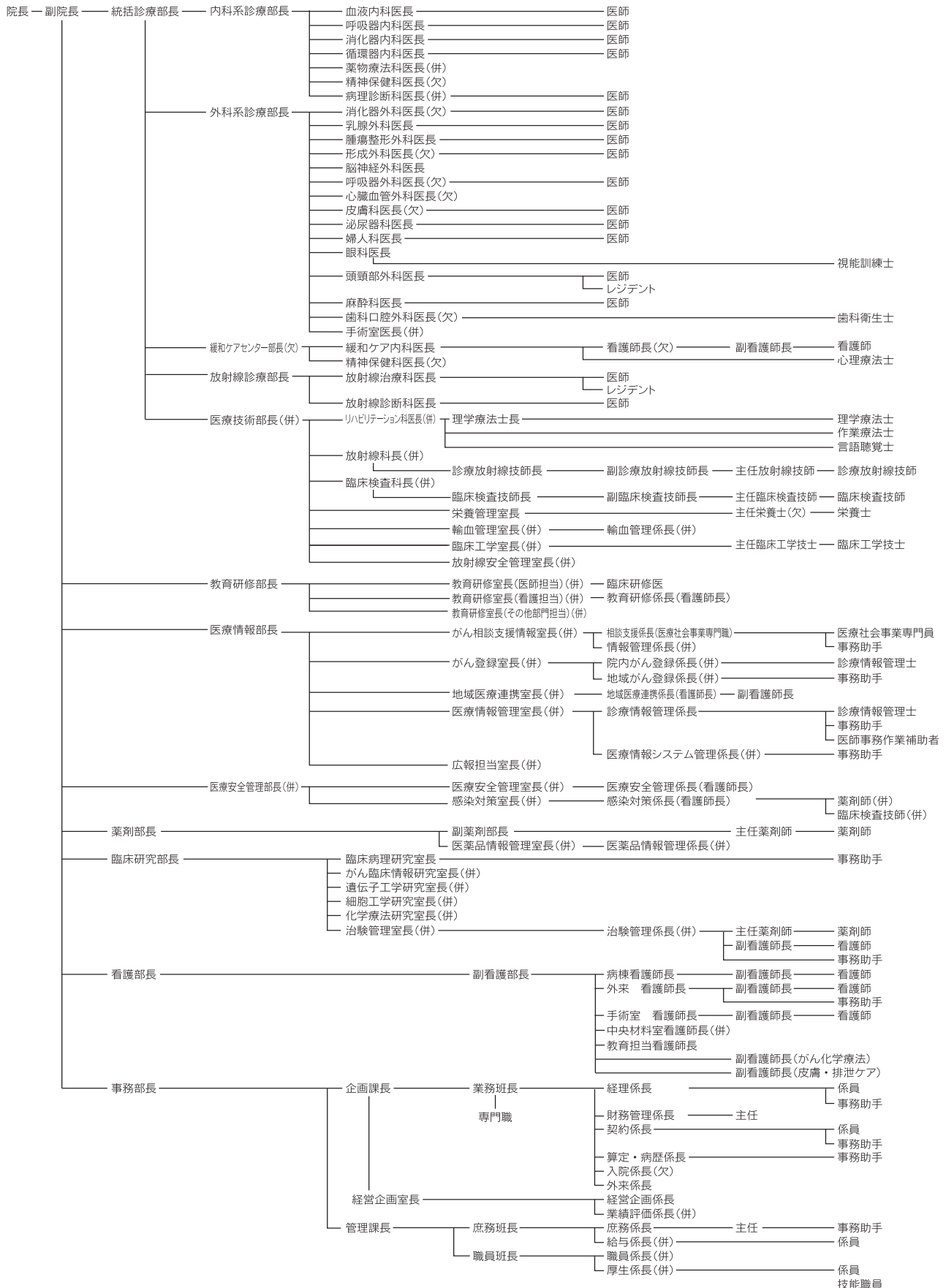
札幌市内には大学附属病院をはじめとした公的医療機関が多く存在するが、白石区においては当院が唯一の公的医療機関である。

交通の便は非常に良く、JR札幌駅から直線で2 km圏内、地下鉄東西線菊水駅から徒歩3分に位置する。道央自動車道からも近く、新千歳空港から道央自動車道北郷 I C 下車で50分と至便である。

2. 病院の組織及び職員の状況

平成27年4月1日現在

1 北海道がんセンター組織図



2 職員の状況

平成27年4月1日現在

職 種 ・ 区 分		常 勤 員	期 間 員	非 常 勤 員	備 考	
院 長 職	院長	1				
医 療 職 (一)	副院長	1			統括診療部長・臨床研究部長 内科系診療部長、外科系診療部長、放射線診療部長、教育研修部長	
	部長(理事長任命)	2				
	部長(ブロック担当理事任命)	4				
	医長・科長・室長	18				
	医師	45		1		
	レジデント		3			
	臨床研修医		3			
	計	71	6	1		
医 療 職 (二)	薬剤師	22			(再雇用フルタイム) 診療放射線技師 1名 (臨時的任用) 臨床検査技師 2名	
	診療放射線技師	22				
	臨床検査技師	22		1		
	栄養士	4		1		
	理学療法士	5				
	作業療法士	1				
	臨床工学技士	4				
	言語聴覚士	1				
	医療技術職員			4	(非常勤内訳) 心理療法士 1名 視能訓練士 1名 歯科衛生士 2名	
	計	81	0	6		
医 療 職 (三)	看護部長	1				
	副看護部長	2				
	看護師長	14				
	副看護師長	22				
	看護師等	助産師				
		看護師	277		30	
		准看護師	1			
	計	278	0	30		
	計	317	0	30		
事 務 職	事務部長	1				
	課長・室長	3				
	班長・専門職	4				
	係長	7				
	主任	2				
	一般職員	7		51		
	計	24	0	51		
診 療 情 報 管 理 職	係長	1				
	診療情報管理士	4		1		
	計	5	0	1		
技 能 職	電話交換手			3		
	ボイラー技士	2		2	(再雇用フルタイム) ボイラー技士 1名 (再雇用短時間) ボイラー技士 1名	
	自動車運転手					
	調理師	9				
	看護助手	3		26	※育児休業等(別掲) 看護師 25名 理学療法士 1名 検査技師 2名	
	エックス線助手	1				
	臨床検査助手			1		
	薬剤助手			4		
	計	15	0	36		
福 祉 職	医療社会事業専門員	1				
	医療社会事業専門員	1		2		
	計	2	0	2		
合 計		515	6	127		

3 医師の診療科別配置

平成27年4月1日現在

診療科	部長 (院長、副 院長含む)	医長	医員		期間職員 (レジデント)	非常勤	計	備考
			院内医長	医員				
(内科系診療部) 血液内科		1	2	1			4	
呼吸器内科		1	1	3			5	
消化器内科	1	1	1	2			5	
循環器内科		1		1			2	
精神保健科							0	
薬物療法科							0	(医長1名兼任)
緩和ケア内科		1					1	
病理診断科				1			1	(医長1名兼任)
腫瘍内科			1				1	
腫瘍免疫科			1				1	
(外科系診療部) 消化器外科	1		3	1			5	
乳腺外科	1	1	1	3		1	7	(非常勤1名)
腫瘍整形外科		1	1	1			3	
形成外科			1				1	
脳神経外科		1					1	
呼吸器外科	1		2	2			5	
心臓血管外科							0	(医長1名兼任)
皮膚科			1				1	
泌尿器科	1	2		1			4	
婦人科	1	2	1	4			8	
眼科		1					1	
頭頸部外科		1		1	1		3	
麻酔科		1	1	3			5	
歯科口腔外科							0	(診療援助3名)
(放射線診療部) 放射線治療科	1	1		2			4	
放射線診断科		1		2	2		5	
(医療技術部) リハビリテーション科							0	(医長1名兼任)
臨床検査科							0	(医長1名兼任)
(臨床研究部) 臨床研究部	1	1					2	
計	8	18	17	28	3	1	75	臨床研修医 3名 専修医 0名

3. 現 況

1 敷地・建物

区 分	土 地	建 物	
		建 面 積	延 面 積
病 院	18,927.27㎡	7,930.83㎡	33,241.29㎡
宿 舎	913.51㎡	241.38㎡	1,197.80㎡
合 計	19,840.78㎡	8,172.21㎡	34,439.09㎡

2 病床数等

医療法承認病床数				
総 数	一 般	結 核	精 神	伝 染
520床	520床	一床	一床	一床

病棟単位	入 院 基 本 料		特定入院料
	専門病院入院基本料	10対1入院基本料	
9	8		1

3 診 療 科 (25科)

循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、精神科、
 緩和ケア内科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、腫瘍整形外科、皮膚科、
 泌尿器科、婦人科、眼科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線診断科、
 放射線治療科、麻酔科、脳神経外科、心臓血管外科、形成外科、病理診断科、
 臨床検査科、歯科口腔外科

4 病院機能

- ・臨床研修病院
- ・臨床修練病院
- ・札幌市災害時基幹病院
- ・原子力災害緊急被ばく医療施設
- ・日本医療機能評価機構認定病院
- ・都道府県がん診療連携拠点病院
- ・全国がん（成人病）センター協議会加盟病院
- ・各学会専門医認定医指導施設
- ・エイズ治療拠点病院等

5 病棟別定床・運用病床数

平成27年4月1日現在

病床単位	主な診療科	医療法定床	運 定 床	運用病床数内訳							特 別 室 数	重症者 室 数
				1人室	2人室	3人室	4人室	5人室	6人室	計		
2 F 病棟	放射線科・頭頸部外科 血液内科	77	60	18	2		8		1	60	12	4
ICU 病棟	術後ICU	8	4				1			4		
4 A 病棟	消化器外科、呼吸器外科 呼吸器内科	60	60	12	1		1		7	60	5	5
4 B 病棟	呼吸器内科	50	50	7	2	1	3		4	50	3	2
5 A 病棟	婦人科	58	58	9	1	1	2		6	58	4	4
5 B 病棟	血液内科	49	49	5	4				6	49		3
6 A 病棟	消化器内科	64	60	6	3		3		6	60	1	5
6 B 病棟	泌尿器科・皮膚科・眼科 循環器内科	59	59	6	8	3	1		4	59	4	2
7 F 病棟	腫瘍整形外科・乳腺外科 形成外科	95	60	19	4	3	6			60	14	5
合 計		520	460	82	25	8	25	0	34	460	43	30

※特別室、重症者室は再掲

4. 診療機能等

1 運営方針

当院は平成22年3月に都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、北海道内におけるがん拠点病院としての役割を従来以上に期待されている。

具体的な診療機能等については下記に示すとおりであるが、病院完結型の医療を目指すのではなく、北海道や札幌市などの自治体、北海道対がん協会などの検診機関、2次医療圏の基幹病院そして病院・診療所・介護施設などと連携し、新たながん診療提供体制を作成しつつ、がん医療の実施を行っていく必要がある。

また、今後の医療制度改革や道内の2次医療圏ごとの人口動態の推移を踏まえると、高齢化に伴う合併症対応や国が提唱する地域包括ケアシステムの中に積極的に参加し、広域圏を対象とした診療体制の強化が欠かせない。

これらに対応するためには、ハード面においては老朽化した病院建替えが急務である。患者さんに対して安全快適な療養環境を提供するとともに、職員にも優しくかつ先端医療にも対応できる建替えを、交通の便の良い現地にて行う。

ソフト面においては高度専門化する医療に対応すべく、医師はもちろん看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師等にも、がん専門や各種認定を取得させるなどの人材育成の強化や、ITを活用した広域圏の医療連携推進などを行っていく。また、がん対策の教育・啓蒙活動とそれにリンクしたがん検診の強化にも力を入れていく。

これらを成し遂げるためには安定した経営基盤の確立は必須であり、無駄を省き、コストを下げるとともに、懸案だったDPC病院への移行や更なる地域医療連携の強化など、たゆまぬ経営改善を図っていく。

2 がん診療

当院の入院患者は約80%ががん患者で占められており、また診療圏は北海道全域にわたり、札幌圏以外の20の2次医療圏からも25%の患者が適切ながん治療を求めて来院する。これらは従来からの診断能力の高さとともに放射線療法、化学療法、手術療法とそれらの組み合わせである高度集学的治療、新薬などの治験を実施してきた実績の上に成り立っているものとする。

今後も安心かつ安全で、エビデンスに沿った質の高いがん医療の提供を図るとともに、治療に困難を極める患者にはチャレンジした医療も提供したい。具体的には血液がんに対する末梢血幹細胞移植の推進、ダヴィンチ手術の婦人科領域・消化管領域への適応拡大、新たな分子標的薬などを使った導入療法などの応用、難治性がんやサルコーマなどの希少がんには多職種チームによる拡大手術・再建手術などを行っていききたい。

また、診断時から身体的、精神的、社会的苦痛に対して適切な緩和ケアが行える体制整備も行っていく。最終的には患者家族とのコミュニケーションを図り満足あるいは納得していただく医療を提供する。

【年度別・診療科別一日平均取扱患者数及び癌患者数比率（入院）】

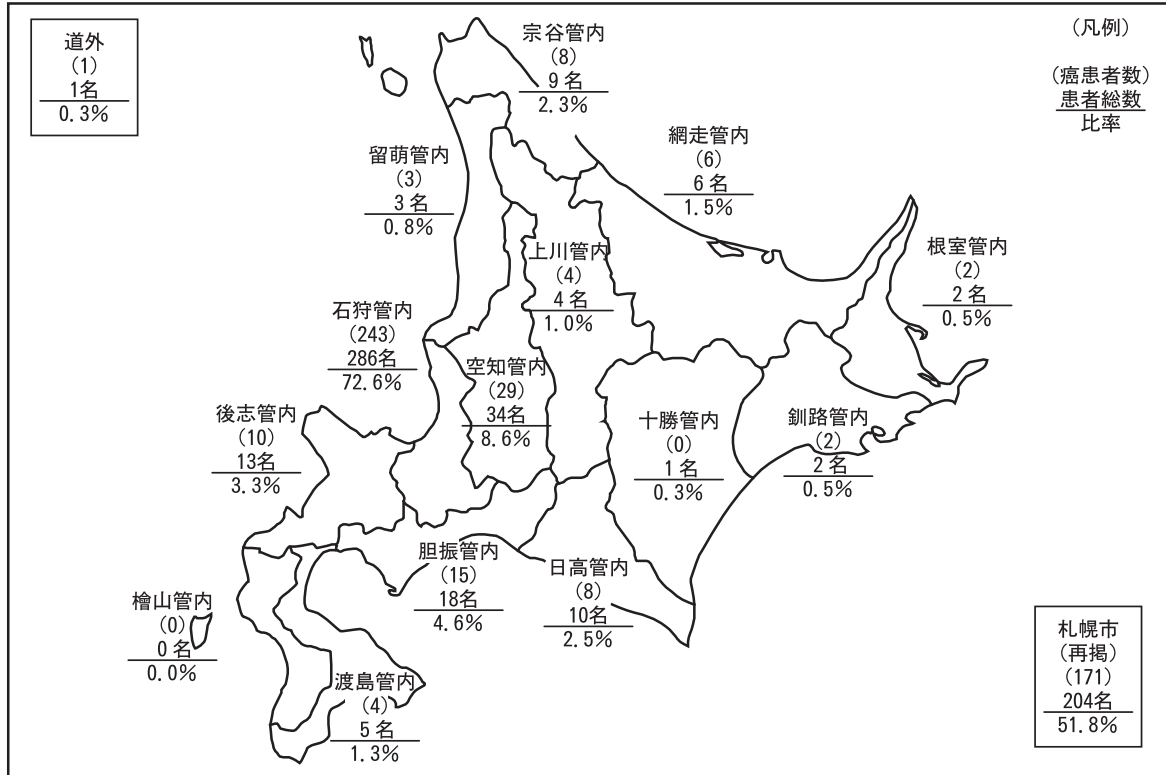
診療科	24年度		25年度		26年度		27年度	
	1日平均 在院患者数	がん 患者の 比率	1日平均 在院患者数	がん 患者の 比率	1日平均 在院患者数	がん 患者の 比率	1日平均 在院患者数	がん 患者の 比率
血液内科	51.9	81.4	50.1	81.9	50.6	87.9	46.7	84.7
精神保健科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼吸器内科	47.5	88.6	47.3	88.6	46.8	82.2	45.0	86.0
消化器内科	58.5	66.2	58.4	67.3	52.9	69.2	57.7	69.8
循環器内科	0.9	0.0	0.5	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
消化器外科	27.8	72.9	27.3	75.6	25.1	70.6	21.2	76.8
乳腺外科	31.9	88.2	32.4	88.3	30.8	91.3	32.7	92.6
腫瘍整形外科	27.0	60.9	25.5	62.4	25.6	55.9	22.3	52.0
形成外科	0.5	21.6	0.9	35.1	1.1	32.1	1.5	59.2
脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼吸器外科	24.1	72.6	24.1	77.1	19.8	76.3	23.1	82.4
心臓血管外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
皮膚科	0.5	34.5	0.3	44.8	0.1	50.0	0.2	77.8
泌尿器科	41.0	77.8	43.2	85.9	38.1	85.0	37.9	84.5
婦人科	50.0	82.2	50.8	84.1	49.9	83.7	47.5	78.8
眼科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
頭頸部外科	18.4	67.3	17.2	68.7	15.8	65.0	15.4	72.6
放射線治療科	25.1	98.8	20.7	98.8	20.7	94.3	20.4	95.1
麻酔科	1.2	84.6	2.4	84.6	0.8	100.0	0.1	0.0
合計	406.2	77.8	401.1	80.2	378.2	79.4	371.6	79.2

◎緩和ケア内科の「1日平均在院患者数」「がん患者の比率」は、麻酔科に含めます。

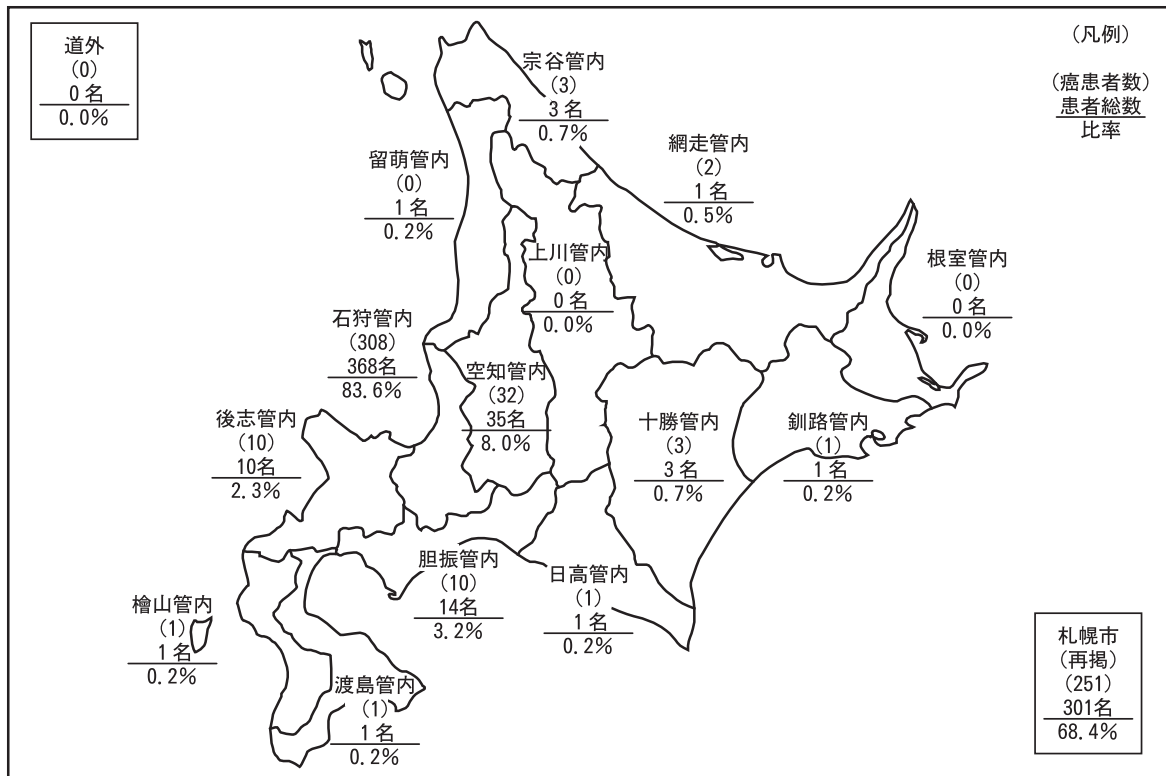
【癌部位別入院患者数（平成27年4月1日現在）】

病名	患者数	比率(%)	病名	患者数	比率(%)
舌 癌	2	0.6	卵 巣 癌	15	4.5
咽 頭 癌	3	0.9	前 立 腺 癌	19	5.7
食 道 癌	8	2.4	精 巣 癌	1	0.3
胃 癌	19	5.7	膀 胱 癌	13	3.9
大 腸 癌	22	6.6	腎 癌	4	1.2
肝・胆道癌	4	1.2	膣 癌	1	0.3
膵 癌	2	0.6	脳 腫 瘍	0	0.0
上顎・喉頭癌	4	1.2	悪性リンパ腫	27	8.1
気管・肺癌	66	19.9	多発性骨髄腫	6	1.8
骨 肉 腫	2	0.6	リンパ性白血病	1	0.3
軟部腫瘍	5	1.5	骨髄・単球性白血病	1	0.3
甲状腺癌	2	0.6	そ の 他	41	12.3
乳 癌	36	10.8	合 計	332	100.0
子 宮 癌	28	8.4			

【入院患者診療圏調（平成27年4月1日調査）】 394名

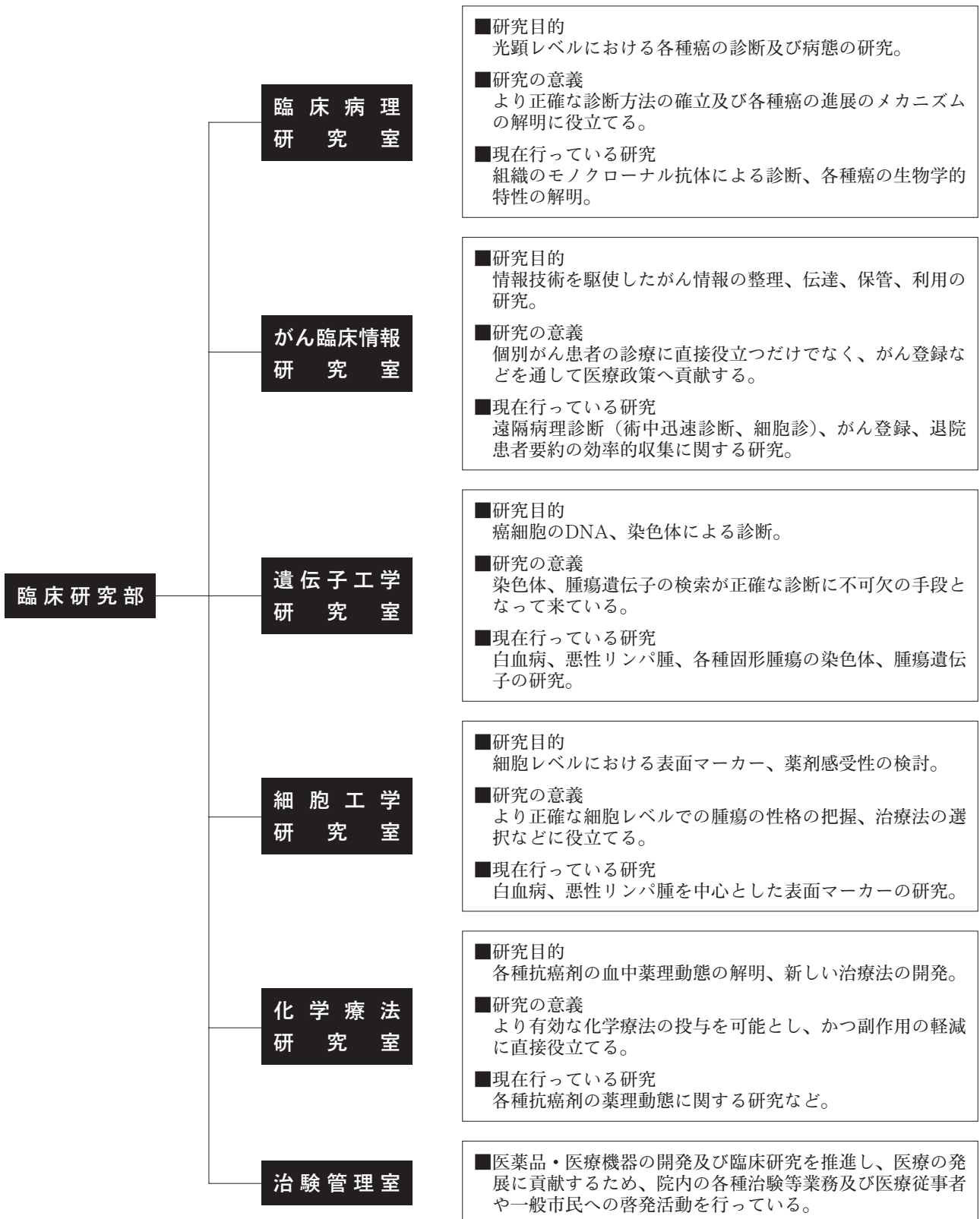


【外来患者診療圏調（平成27年4月1日調査）】 440名（他科受診を除く）

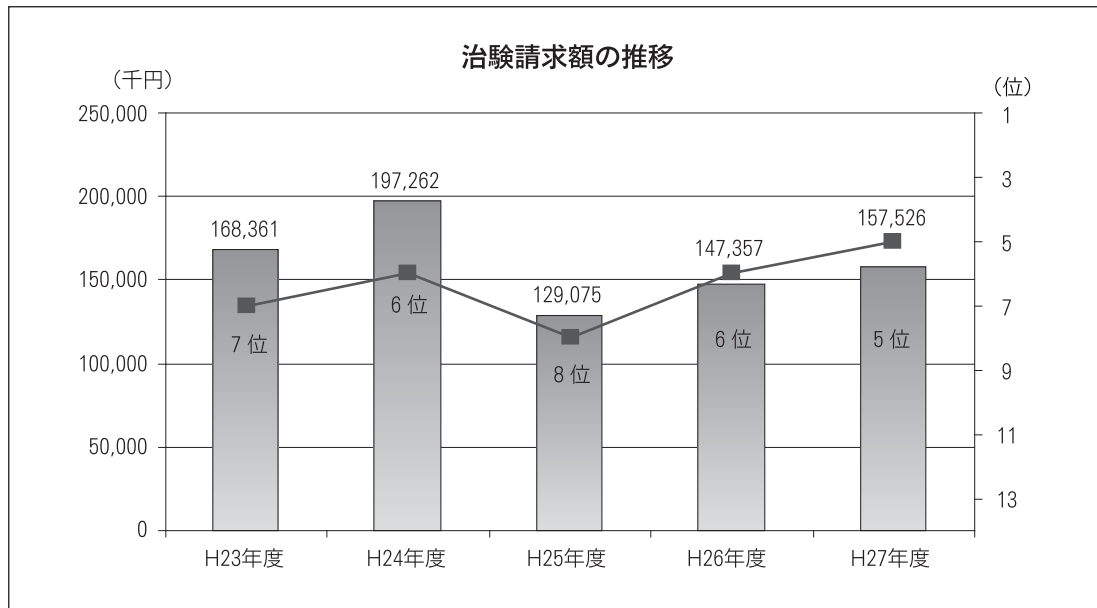


3 臨床研究部

当院臨床研究部は、昭和63年10月に設置され、全入院患者の8割を占める悪性腫瘍の集学的治療と関連して、臨床病理・がん臨床情報・腫瘍マーカー遺伝子診断などによる診断技術の研究、臨床と密着した化学療法の研究を行っている。



4 治験実績



※順位は、全国機構病院内です。

5 教育・研修

- ① 当院は医師の卒後教育・生涯教育及び専門領域の教育・研修を行うに適した施設として、国及び各学会から各種の指定を受けており、その状況は次のとおりである。

臨床研修指定病院	昭和46年3月31日	から引き続き
臨床修練指定病院	昭和63年3月29日	から引き続き
日本麻酔科学会指導病院	昭和47年12月8日	から引き続き
日本眼科学会専門医制度研修施設	平成11年10月1日	から引き続き
日本外科学会認定医制度修練施設	平成12年1月1日	から引き続き
日本消化器外科学会専門医修練施設	平成12年1月1日	から引き続き
日本消化器内視鏡学会認定指導施設	昭和59年12月1日	から引き続き
日本整形外科学会認定医研修施設	昭和59年12月1日	から引き続き
日本脳神経外科学会認定医研修指導施設	昭和60年4月1日	から引き続き
日本泌尿器科学会専門医教育施設	昭和61年4月1日	から引き続き
母体保護法指定医研修施設	昭和61年11月1日	から引き続き
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	平成11年4月1日	から引き続き
日本産科婦人科学会認定医制度卒後研修指導施設	昭和63年4月1日	から引き続き
日本消化器病学会認定医認定施設	平成15年12月1日	から引き続き
日本血液学会認定医研修施設	平成16年4月1日	から引き続き
日本大腸肛門病学会専門医修練施設	平成3年2月1日	から引き続き
日本内科学会認定内科専門医教育病院	平成3年4月1日	から引き続き
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関	平成3年4月1日	から引き続き
日本放射線腫瘍学会認定施設	平成13年11月21日	から引き続き

日本乳癌学会認定施設	平成15年1月1日	から引き続き
日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設	平成4年1月1日	から引き続き
日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設	平成5年5月1日	から引き続き
日本呼吸器学会認定医制度認定施設	平成6年4月1日	から引き続き
日本皮膚科学会認定医研修施設	平成12年4月1日	から引き続き
厚生省薬剤師実務研修施設	平成13年1月1日	から引き続き
日本臨床腫瘍学会認定研修施設	平成17年4月1日	から引き続き
日本臨床細胞学会認定施設	平成15年4月1日	から引き続き
日本消化器集団検診学会認定指導施設	平成8年4月1日	から引き続き
プレアボイド報告施設	平成17年4月1日	から引き続き
日本病院薬剤師会がん専門薬剤師研修認定施設	平成18年4月1日	から引き続き
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修認定施設	平成22年1月1日	から引き続き
日本カプセル内視鏡学会認定指導施設	平成25年2月1日	から引き続き
日本消化管学会胃腸科指導施設	平成27年11月1日	から引き続き

② 臨床研修医及びレジデントの教育

昭和46年3月に臨床研修指定病院、昭和63年3月に臨床修練指定病院となり、多数の臨床研修医・レジデントの一般教育、専門医の育成を行ってきた。

なお、平成16年からは2年間の卒後臨床研修を行っており、現在臨床研修医2名、レジデント6名の教育を行っている。

③ 実習生の教育

その他の医療従事者育成の実習施設として、年間約400余名の医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・栄養士・臨床工学技士・理学療法士の実習生を受け入れ、実習教育の機関としての機能を発揮している。

④ その他

がんの診断や治療についての普及啓発活動の一環として、市民を対象にした「北海道がん講演会」を昭和58年から実施しており、本年までに36回開催している。

また、平成25年度からは若い世代にがんに対する正しい知識の普及啓発を図るため、北海道、札幌市教育委員会と協力して「がん教育出前講座」という授業を小学生に行なっている。

また、平成26年度からは北海道教育委員会などが中心となって、がんの教育総合支援事業により中学生、高校生に対して、いずれも院長自ら授業を行なっている。

6 医療連携

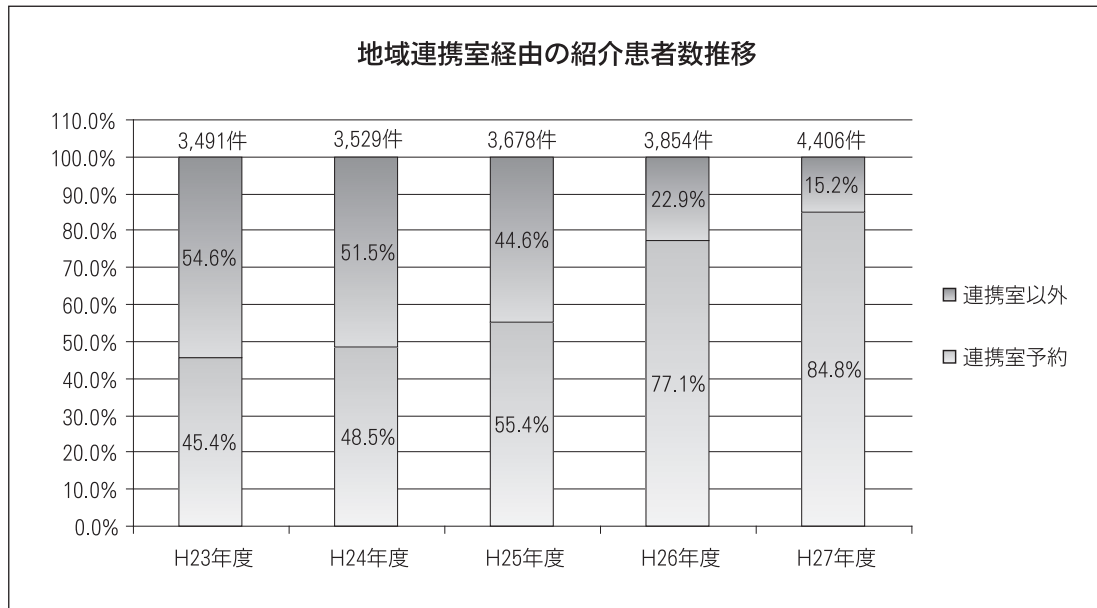
① 医療連携室・相談室

平成15年8月から札幌市内17番目になる地域医療連携室をスタートさせた。当院と道内の医療機関・介護施設などと前方及び後方連携をスムーズに行うことが目的である。

② セカンドオピニオン外来

平成16年8月、北海道で初めてのセカンドオピニオン（治療方針について他の専門医の意見を聞く）外来を開設した。

外来診療とは別に30分単位で完全予約制で平成27年度は286件の実施です。

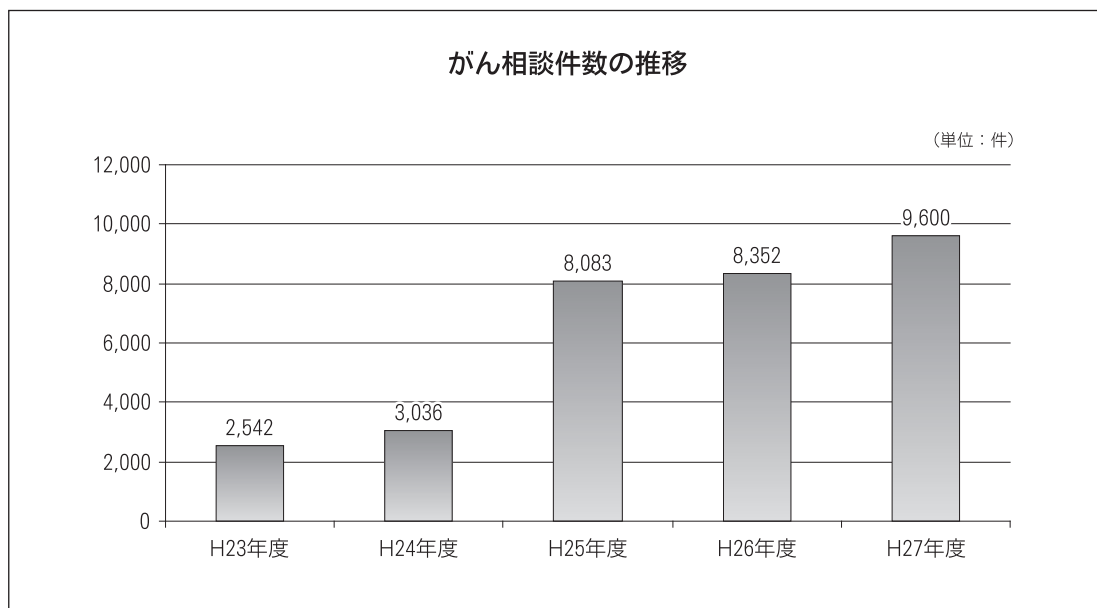


7 がん相談支援情報室

平成19年4月、相談支援機能を充実させるため、がん相談支援情報室を開設した。

同室には、専任の看護師や医療ソーシャルワーカー等を配置している。

平成27年度がん相談件数は9,600件となっており、平成26年4月より社会保険労務士による就労相談、平成27年8月よりハローワーク札幌東による就労支援を開始した。



5. 病院経営の状況

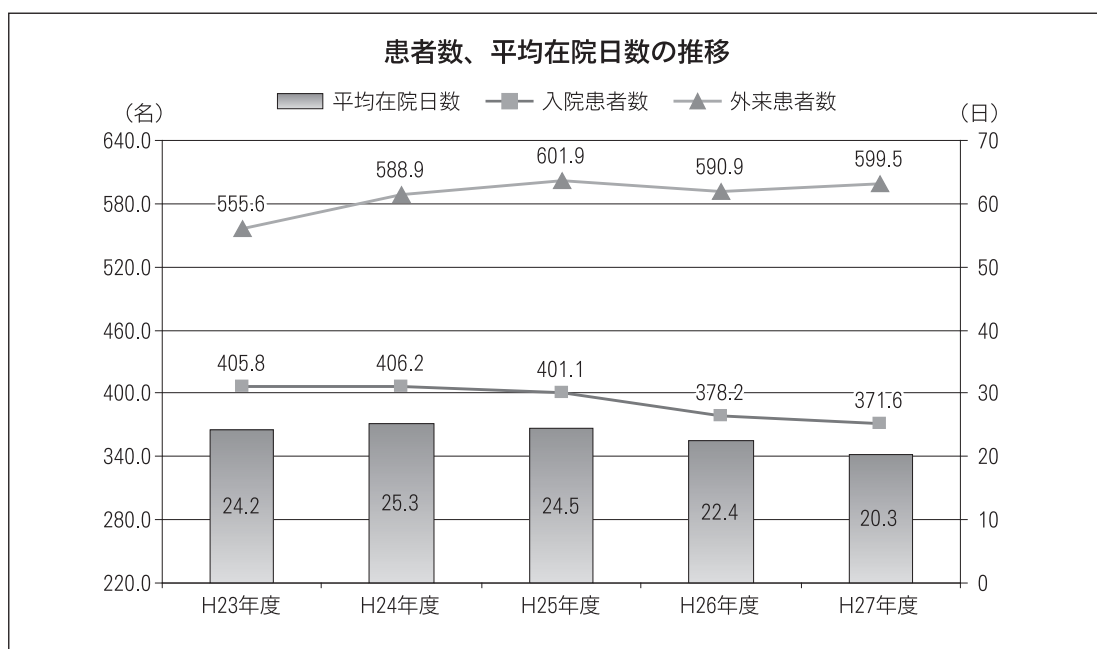
1 患者の状況

① 病床の利用状況

区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収容可能病床数	460	460	460	460	443
入院患者数	5,701	5,831	5,984	6,165	6,688
退院患者数	5,711	5,873	5,974	6,161	6,733
在院延患者数	148,510	148,280	146,405	138,060	136,006
1日平均在院患者数	405.8	406.2	401.1	378.2	371.6
病床利用率	88.2	88.3	87.2	82.9	80.8
平均在院日数	24.2	25.3	24.5	22.4	20.3
病床回転数	14.0	14.4	14.9	16.3	18.0
死亡者数	252	241	232	255	255
剖検者数	9	4	1	3	4

② 外来の利用状況

区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
新患者数	6,167	6,468	6,395	6,159	6,709
再来患者数	129,406	137,818	140,458	138,032	138,977
患者延数	135,573	144,286	146,853	144,191	145,686
1日平均患者数	555.6	588.9	601.9	590.9	599.5
新患率	4.5	4.5	4.4	4.3	4.6
紹介率	59.6	63.0	64.1	67.2	69.2
逆紹介率	31.8	29.6	30.5	34.8	32.8
平均通院回数	22.0	22.3	23.0	23.4	21.7



2 診療点数の状況

① 入院（1人1日当りの点数）

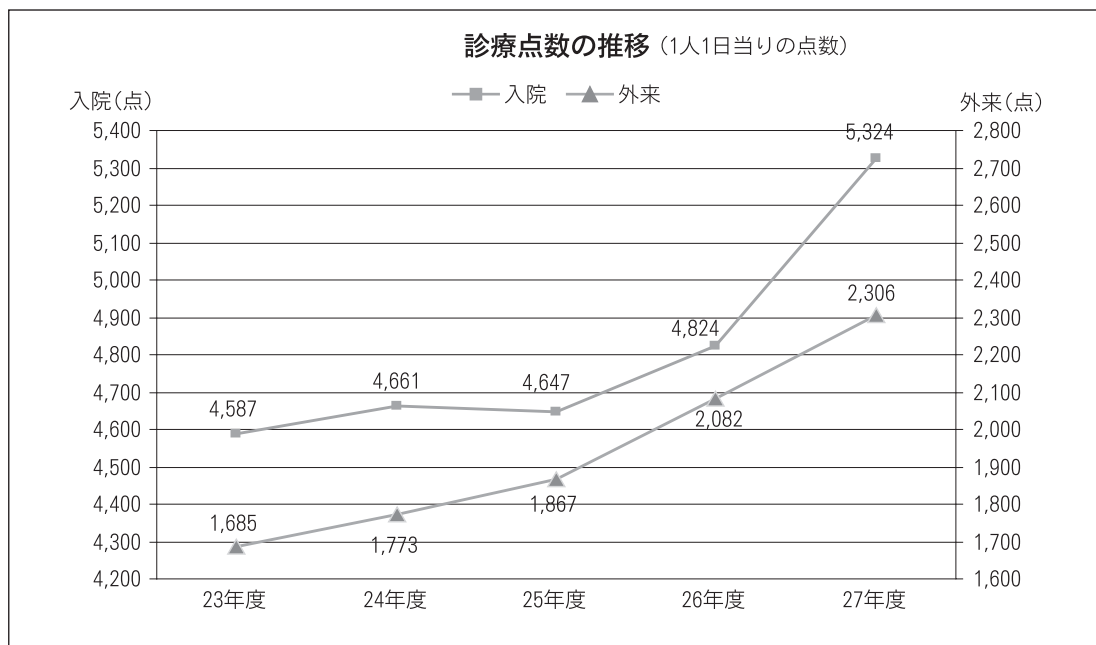
（単位：点）

区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
基 本 診 療 料	2,023	2,048	2,082	2,162	2,411
投 薬 ・ 注 射	1,028	932	905	990	1,048
画 像 診 断 料	253	251	247	213	229
検 査 料	214	231	219	214	254
処 置 ・ 手 術 料	1,068	1,197	1,194	1,245	1,381
計	4,587	4,661	4,647	4,824	5,324

② 外 来（1人1日当りの点数）

（単位：点）

区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
基 本 診 療 料	208	210	213	224	230
投 薬 ・ 注 射	670	739	822	998	1,177
画 像 診 断 料	311	322	322	337	357
検 査 料	314	325	336	353	374
処 置 ・ 手 術 料	183	177	174	170	168
計	1,685	1,773	1,867	2,082	2,306

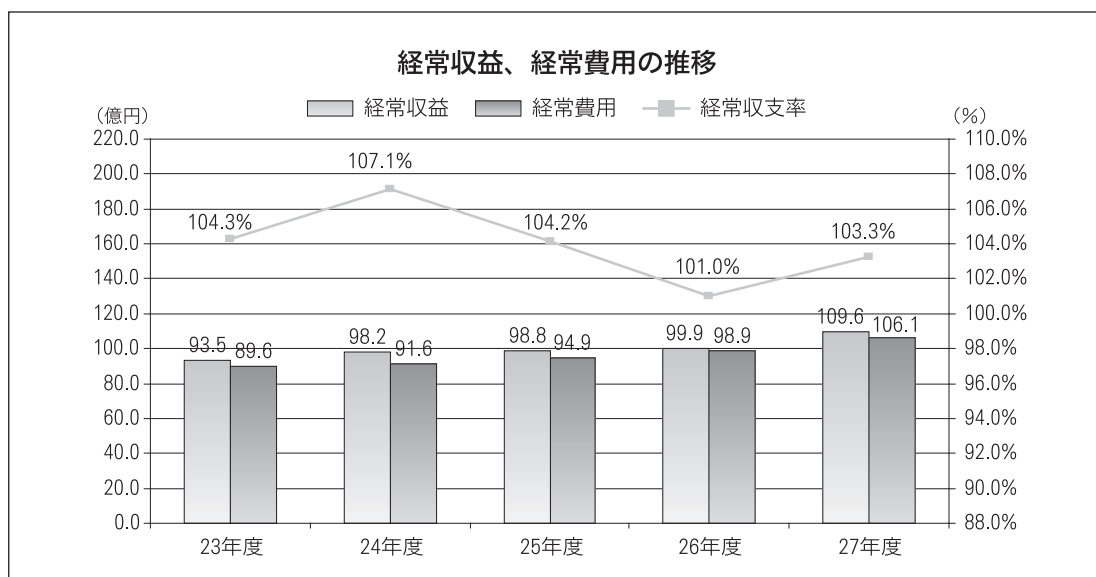


3 経理の状況

(単位：千円)

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
収益の部		A	9,350,853	9,817,643	9,883,458	10,016,638	10,959,418
総 収 益	診療業務収益	B	9,136,411	9,509,774	9,562,500	9,715,710	10,660,100
	医業収益	C	9,065,709	9,436,393	9,489,667	9,624,999	10,565,588
	運営費交付金収益		168	0	0	0	0
	その他診療業務収益		70,534	73,381	72,833	90,711	94,512
	教育研修事業収益	D	0	0	0	0	1,706
	研修収益		0	0	0	0	0
	運営費交付金収益		0	0	0	0	1,706
	その他教育研修業務収益		0	0	0	0	0
	臨床研究事業収益	E	166,817	255,960	280,972	230,363	251,448
	研究収益		124,316	205,335	195,020	174,568	192,419
運営費交付金収益		17,759	25,455	31,111	31,179	25,859	
その他臨床研究業務収益		24,742	25,170	54,841	24,616	33,170	
益	その他経常収益	F	47,625	51,909	39,986	44,034	46,164
	財務収益		9,137	11,666	13,332	13,337	13,753
	運営費交付金収益		4,912	0	0	0	0
	その他		33,576	40,243	26,654	30,697	32,412
	臨時利益	G	0	0	0	26,531	0

費用の部		H	10,374,838	9,168,390	9,529,892	9,905,952	10,614,795
総 費 用	診療業務費	I	8,727,025	8,885,922	9,211,582	9,611,852	10,328,022
	人件費		3,956,281	3,978,475	4,067,402	4,125,348	4,521,130
	材料費		3,195,896	3,304,895	3,442,535	3,685,715	4,146,505
	諸経費		1,145,142	1,142,000	1,218,408	1,266,369	1,142,928
	減価償却費		429,706	460,552	483,237	534,420	517,459
	臨床研究業務費	K	158,719	198,912	202,029	207,688	217,939
	人件費		86,401	104,097	108,554	103,772	123,596
	材料費		2,197	4,655	4,057	3,591	5,861
	諸経費		67,307	88,137	87,165	98,690	87,399
	減価償却費		2,814	2,023	2,253	1,635	1,083
その他経常費用	M	78,983	79,795	75,219	72,009	68,711	
	財務費用		51,789	51,766	44,277	38,653	35,848
	その他		27,194	28,029	30,942	33,356	32,863
臨時損失	N	1,410,111	3,761	41,062	14,403	123	
総収支差	A - H	-1,023,985	649,253	353,566	110,686	344,624	



6. 施設基準の届出状況

平成27年4月1日現在

区分・内容	届出受理日
専門病院入院基本料10：1	平成18年4月1日
看護必要度加算1	平成27年2月1日
臨床研修病院入院診療加算	平成16年4月1日
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	平成22年4月1日
診療録管理体制加算1	平成26年4月1日
医師事務作業補助体制加算2(50:1)	平成24年6月1日
急性期看護補助体制加算2(50:1)	平成25年5月1日
療養環境加算	平成22年4月1日
重症者等療養環境特別加算	平成11年4月1日
無菌室治療管理加算1	平成25年7月1日
緩和ケア診療加算	平成20年6月1日
がん診療連携拠点病院加算	平成18年4月1日
医療安全対策加算1	平成18年8月1日
感染防止対策加算1	平成24年4月1日
感染防止対策地域連携加算	平成24年4月1日
患者サポート体制充実加算	平成24年4月1日
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	平成26年1月1日
退院調整加算	平成22年4月1日
病棟薬剤業務実施加算	平成26年10月1日
データ提出加算2(200床以上の病院)	平成24年10月1日
特定集中治療室管理料3(4床)	平成17年4月1日
高度難聴指導管理料	平成6年11月1日
がん性疼痛緩和指導管理料	平成22年4月1日
がん患者指導管理料1	平成22年4月1日
がん患者指導管理料2	平成26年4月1日
がん患者指導管理料3	平成26年4月1日
外来緩和ケア管理料	平成24年4月1日
糖尿病透析予防管理料	平成24年4月1日
外来リハビリテーション診療料	平成24年4月1日
外来放射線照射診療料	平成24年4月1日
ニコチン依存症管理料	平成18年4月1日
がん治療連携計画策定料	平成23年9月1日
がん治療連携管理料	平成24年4月1日
薬剤管理指導料	平成3年11月1日
医療機器安全管理料1	平成20年4月1日
医療機器安全管理料2	平成20年4月1日
造血器腫瘍遺伝子検査	平成10年4月1日
HPV核酸検出	平成22年4月1日
HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	平成26年4月1日
検体検査管理加算(Ⅱ)	平成24年12月1日
植込型心電図検査	平成22年4月1日
センチネルリンパ節生検	平成22年4月1日
画像診断管理加算(Ⅰ)	平成14年4月1日
ポジトロン断層撮影	平成22年12月1日
CT撮影及びMRI撮影	平成24年4月1日

区分・内容	届出受理日
大腸CT撮影加算	平成24年4月1日
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日
外来化学療法加算Ⅰ	平成20年4月1日
無菌製剤処理料	平成20年4月1日
脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅱ)	平成27年4月1日
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)初期加算	平成27年4月1日
運動器リハビリテーション(Ⅰ)	平成24年5月1日
運動器リハビリテーション(Ⅰ)初期加算	平成24年5月1日
呼吸器リハビリテーション(Ⅰ)	平成21年7月1日
呼吸器リハビリテーション(Ⅰ)初期加算	平成24年4月1日
がん患者リハビリテーション料	平成22年9月1日
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房再建手術の場合に限る。)	平成25年8月1日
乳がんセンチネルリンパ節加算	平成22年4月1日
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	平成25年8月1日
ペースメーカー移植術/交換術	平成10年4月1日
植込型心電図記録計移植術/摘出術	平成22年4月1日
大動脈バルーンパンピング法	平成10年4月1日
腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	平成24年4月1日
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成24年4月1日
腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	平成24年4月1日
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	平成24年4月1日
人工尿道括約筋植込・置換術	平成24年4月1日
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	平成21年2月1日
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	平成26年4月1日
輸血管理料Ⅰ	平成24年4月1日
輸血適正使用加算1	平成24年4月1日
人工肛門・人工膀胱造設術前処置	平成24年4月1日
内視鏡手術用支援機器加算	平成25年12月1日
医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術	平成16年4月1日
麻酔管理料Ⅰ	平成8年4月1日
放射線治療専任加算	平成12年4月1日
外来放射線治療加算	平成20年4月1日
1回線量増加加算	平成26年4月1日
高エネルギー放射線治療	平成14年4月1日
強度変調放射線治療(IMRT)	平成20年6月1日
画像誘導放射線治療加算	平成26年4月1日
体外照射呼吸性移動対策加算	平成26年4月1日
直線加速器による定位放射線治療	平成16年7月1日
定位放射線治療呼吸移動対策加算	平成26年4月1日
術中迅速病理組織標本作製料	平成14年4月1日
術中迅速細胞診	平成22年4月1日
病理診断管理加算2	平成24年4月1日
入院時食事療養費(Ⅰ)	平成16年4月1日
食堂加算	平成22年4月1日
クラウンブリッジ維持管理料	平成24年4月1日

II 診療部門活動報告

循環器内科

〈スタッフ〉

平成27年も昨年と同様常勤2名、医療センター併任の非常勤1名で運営している。

医 長：井上 仁喜（北海道医療センター併任）
平成6年～

医 員：山本 清二 平成22年～

併 任：明上 卓也（北海道医療センター循環器内科併任）平成26年4月～

〈診療活動〉

当科の診療分野は主に、循環器疾患全般、糖尿病、および睡眠時無呼吸症候群である。循環器の病床は有さず外来診療を中心に診療を行っているが、循環器疾患の入院が必要な場合は主に北海道医療センターと連携している。糖尿病の治療および、睡眠時無呼吸診断（ポリソムノグラフィー（PSG））を目的として6Bに病床として1床を運用するが、糖尿病での入院は原則新規患者の教育および病態、合併症の評価が必要な患者のみで、入院患者のほとんどは睡眠時無呼吸症候群による入院である。平成27年度の入院実績は22名であった。

外来は週5日、2診体制で、特殊外来として、睡眠時無呼吸外来およびペースメーカー外来を開設している。平成27年度の外来患者数は月平均990.8名、1日平均48.9名であった。入院、外来患者数とも昨年度より微増している。

平成22年度より睡眠時無呼吸外来を開設し、睡眠時無呼吸症候群の診断、治療を行っている。外来で呼吸補助療法（CPAP）の管理されている患者の総数は70名にのぼり、順調に実績を伸ばしている。

本年度より心肺運動負荷試験（CPX）のための呼気ガス分析装置が当院に導入され運動処方に基づく理論的な運動療法が可能となった。元来、同試験は心臓リハビリテーションの領域で主に活用されているものであるが、当科ではこれをがんリハビリテーションに応用可能と考え準備を進めて

きた。来年度5月より心臓大血管リハビリテーションⅠの施設基準を取得見込みとなり、本格的にがんリハビリテーションの一環として運動療法を行う体制が整うことになる。運動療法はがん患者においてもQOLやADLの改善に有効であることが証明されている。適切な運動処方により運動療法が合理的かつ安全に行われることによって、運動療法ががん診療において定着してゆくことが期待される。

〈研究活動〉（詳細は2014年度業績を参照）

2013年度より化学療法による心障害の早期把握と介入を目的としてデータベースの構築を目指してきたが、2014年度はそれに関する基礎的検討の結果を学会等で発表した。化学療法の心障害データベースにより継続的に化学療法による心機能の変化を追跡することにより、より早期に心障害を検出し介入することができる、というのが発表の要旨である。今回の発表を一つの区切りとして、これまで試行錯誤を重ねていたデータベースの様式やデータフォローの方法がようやく定まり、2015年度より院内で閲覧可能なデータベースを電子カルテ上にupする予定である。

〈共同研究〉

平成22年度より国立病院機構の糖尿病に関する以下の研究に共同研究施設として参加している。

- 1) 国立病院機構本部主導臨床試験「2型糖尿病を併せ持つ高血圧患者におけるメトホルミンの心肥大・心機能に対する効果の検討」
- 2) 一昨年より日本糖尿病協会の以下の調査研究に参加している。

インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討 — 前向き観察研究 — (I-UNITE Study)

いずれも平成27年度を以て研究は完了し終了となった。

呼吸器内科

〈スタッフ〉

医長、呼吸器センター長：

原田 眞雄（平成2年4月～）

医 長：福元 伸一（平成17年4月～）

医 員：中野 浩輔（平成20年4月～）

渡邊 雅弘（平成24年4月～）

高橋 宏典（平成27年4月～28年3月）

〈診療活動〉

1. 人事

平成26年度は後期研修医の高橋宏典が國崎守の後任として北大内科Iから派遣され、昨年度と同様に5人体制での診療であった。

2. 外来診療

通常の外来診療に加えて週1回（木曜日午後）のセカンドオピニオン外来及び週1回（月曜日午後）の禁煙外来を行っている。通常の診療は初診と再診の2診体制で1日平均患者数は27名（昨年度より3名増加）であった。肺癌は予後不良な疾患であり説明を十分行う必要があるため診察時間は長くなる。なお非癌の患者や治療適応のない肺癌患者については診察を行った上で他院、緩和専門病院に紹介している。

3. 入院診療

計画病床数は48床であり、26年度の1日平均患者数は45名であった。平均在院日数は33日で26年度より7日短縮された。

患者数は350名で、疾患の内訳は原発性肺癌329名、他臓器癌の転移4名、胸腺腫瘍4名、胸膜中皮腫2名、悪性リンパ腫2名、過誤腫2名、肺炎4名、その他3名であった。

未治療の原発性肺癌の新規入院患者は204名、組織型の内訳は非小細胞非扁平上皮癌129名、扁平上皮癌42名、小細胞癌33名であった。また組織型別の病期（I / II / III / IV期ないしLD/ED）は、非小細胞非扁平上皮癌が33 / 6 / 23 / 66名、扁平上皮癌が11 / 5 / 16 / 10名、小細胞癌が14 / 19名

であった。

組織型別の初回治療方法（手術 / 根治照射のみ / 化学放射線療法 / 化学療法 / 姑息照射を含む緩和治療のみ或いは検査のみ）は、非小細胞非扁平上皮癌が44 / 6 / 8 / 55 / 16名、扁平上皮癌が14 / 3 / 12 / 8 / 5名、小細胞癌が1 / 1 / 11 / 18 / 2名であった。

当科は北海道対がん協会と協力し道内で最も精度の高い肺癌検診を長年行っていることから、手術の対象となる患者数が多い。なお手術適応と予想される患者を外来の時点で呼吸器外科に直接紹介することも多々あるが、それらは上記の入院患者数には含まれていない。

〈研究活動〉

北海道肺癌臨床研究会（HOT）、北日本肺癌臨床研究会（NJLCG）、北東日本研究グループ（NEJ）、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）などの主導する数多くの臨床試験や国立病院機構のネットワーク研究などに参加している。

新薬の治験としては、既治療非小細胞肺癌における抗PD-L1抗体durvalumabの第Ⅲ相試験（ARCTIC）、既治療非小細胞肺癌における抗PD-L1抗体avelumabの第Ⅲ相試験（JAVELIN lung 200）、未治療非小細胞肺癌における抗PD-L1抗体avelumabの第Ⅲ相試験（JAVELIN lung 100）、未治療非小細胞肺癌における抗PD-1抗体nivolumab±抗CTLA-4抗体ipilimumabの第Ⅲ相試験（CheckMate 227）、EGFR変異陽性の未治療非小細胞肺癌における第3世代EGFR阻害薬ASP8273の第Ⅲ相試験（SOLAR）が27年度に新たに開始された。

日本臨床腫瘍学会、日本肺癌学会で当科スタッフが筆頭演者や司会を務めた。一般人、看護師ないし肺癌臨床医などに対する講義や講演を原田が4回、福元が2回行った。

また海外の主要学会では、米国臨床腫瘍学会

(ASCO)の2演題、世界肺癌学会(WCLC)の2演題、欧州臨床腫瘍学会(ESMO)の1演題で共同演者に名を連ねた。当科が事務局を務める術後補助化学療法の有効性比較第Ⅱ相試験については国立病院総合医学会で最新経過を発表した。

論文では、CT検診認定技師による一次読影に

関する研究がCT検診学会雑誌に掲載された。

また、HOT1301、NJLCG0703、NEJ005、高齢者への一次ゲフィチニブ投与(NEJ試験の統合解析)などの臨床試験の研究論文が、4つの英文雑誌にそれぞれ掲載され、共著者に名を連ねた。

消化器内科

〈スタッフ〉

内科系診療部長：高橋 康雄(平成8年10月～)

医長、内視鏡センター長：

藤川 幸司(平成13年4月～)

腫瘍内科医長、外来化学療法センター長：

佐川 保(平成23年4月～)

医 長：林 毅(平成27年4月～)

医 員：田村 文人(平成27年4月～)

医 員：濱口 京子(平成27年6月～)

医 員：岡川 泰(平成27年4月～)

〈診療活動〉

平成27年度は、当科医師7名中、4名が入り替わるという変革の年度でした。中村とき子、佐藤康裕の後任として、林 毅、田村文人が加わり、大学院生枠は櫻田 晃から岡川 泰に引き継がれました。6月には、倉敷中央病院から濱口京子を迎え、新体制で診療にあたりました。

消化器領域の癌および原発不明癌だけでなく非がん疾患の診療も幅広く行っており、多職種によるチーム医療を心がけています。

〔外来診療〕

これまでの2診体制に加え、濱口による新患外来(月～水)の新設により、新患や紹介患者の待ち時間短縮に貢献できました。林は胆膵、田村は肝臓のエキスパートとして他院や他科からの紹介等に対して、専門性を生かした診療を提供し、特に胆膵系患者の増加につながっています。セカンドオピニオンも従来どおり積極的に受け入れてい

ます。また、消化器がんの検診(4大がん、3大がん、胃がん、大腸がん)では、2次検査から治療につながる症例もありました。

のべ外来患者数16,738名と増加しました。

〔入院診療〕

癌患者が主体ですが、大腸腺腫、イレウス、消化管出血、胆石胆嚢炎、膵炎、肝炎、肝硬変、食道静脈瘤などの非がん患者の入院治療も行っています。

本年度は画期的なC型肝炎治療薬が次々に保険収載され、田村を中心に新規治療の導入が行われました。

新規入院患者実数1,258名と増加し、平均在院日数17.0日と昨年度より短縮されました。

〔検査・処置・手術〕(「内視鏡センター」の項参照)

月～金曜終日、内視鏡室2床で上部・下部消化管内視鏡検査およびESD/EMRなどの手術、超音波内視鏡検査・針生検、胃瘻造設、食道静脈瘤結紮などが行われ、X線透視室で胆管膵管造影検査・処置、下部消化管内視鏡検査・手術、イレウス管留置、消化管拡張・ステント留置、食道静脈瘤硬化療法などが行われました。

ESDは佐川に加え新戦力の濱口、岡川の3人体制で食道・胃・大腸病変に対応し、特に大腸ESD件数が増加しました。また、本年度は林の加入によりERCP関連検査・処置とEUS-FNAの件数が著増しています。胃切後などERCP困難例に対する小腸fiberを用いたアプローチやEUSを用いたドレナージ術など、内科的処置の範囲を広げる

ことができました。

カプセル内視鏡読影支援技師による小腸カプセル内視鏡画像の迅速な1次読影によって、より早期の最終報告が可能となっています。

また、病棟処置室では、肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術、肝生検などが行われています。

夜間・休日の吐血など、緊急内視鏡にも適宜対応しています。

〈研究活動〉

今年度も国際学会、全国会、地方会、研究会に積

極的に参加し、発表しました。（「研究業績」参照）

JACCRO、WJOG、HGCSG、札幌医科大学、徳島大などの医師主導臨床試験や治験に参加して消化器がんに対する治療を行ないました。その成果は米国臨床腫瘍学会（ASCO）、米国消化器癌シンポジウム（ASCO-GI）、欧州癌治療学会議（ESMO）、欧州臨床腫瘍学会アジア会議（ESMO ASIA）、日本癌治療学会などで発表されました。また、新たな治療戦略であるがん免疫に対する phase I study など先進治療にも取り組んでいます。

血液内科

〈スタッフ〉

医 長：黒澤 光俊（平成16年4月～）

医 長：鈴木左知子（平成17年4月～）

医 長：米積 昌克（平成18年4月～）

医 員：宮内あずさ（平成27年4月～）

〈診療活動〉

入院患者数はのべ252名でその内訳は悪性リンパ腫168名（非ホジキンリンパ腫159名、ホジキンリンパ腫9名）、急性骨髄性白血病5名、慢性白血病6名（骨髄性4名、リンパ性2名）、多発性骨髄腫40名、骨髄異形成症候群19名、その他14名でした。血液腫瘍の中では悪性リンパ腫が最も多く、リンパ節外の臓器に発生して他科を受診後、悪性リンパ腫と診断されて当科に紹介される患者さんが毎年多数います。高齢、全身状態不良、遠隔地から受診などの諸事情で通院が容易でないため、入院主体で治療を行わなければならない患者さんが多く、平均在院日数がなかなか短くなりません。また漸増傾向にある多発性骨髄腫では病的骨折や骨腫瘍のため、歩行困難になったり、強い痛みがみられてから当院腫瘍整形外科を受診し、その後当科に紹介される場合が多く、これらの患者さんが外来通院治療可能なまで全身状態が回復する

のに数ヶ月間かかってしまうことも少なくありません。

年間の骨髄検査（骨髄穿刺・生検）数は239件でしたが、骨髄塗抹標本を鏡検するとともに細胞免疫学的・分子遺伝学的検査も行って診断や治療評価をしています。悪性リンパ腫が疑われる場合、リンパ節あるいは腫瘍を生検して診断しますが、今年度は生検を29件行い、そのうち23件が悪性リンパ腫でした。

病床の定数は50床ですが、そのうち無菌病床は2F病棟と5B病棟に各2床、計4床あります。当科所属医師4名のうち3名は造血細胞移植認定医ですが、今年度は末梢血幹細胞移植を5例行い、その内訳は自家移植4例（悪性リンパ腫2例、多発性骨髄腫2例）、血縁同種移植1例（悪性リンパ腫）でした。

また外来には多数の血液疾患患者が通院していますが、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫などの患者さんに対して外来化学療法を積極的に行っており、施行件数が年々増加しています。

〈研究活動〉

当科は日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の中のリンパ腫グループに属し、悪性リンパ腫や多

発性骨髄腫について標準治療の確立と進歩を目的として多施設共同臨床試験を行っています。また国立病院機構ネットワーク共同研究血液グループ

にも属しており、血液疾患登録や多施設共同臨床試験を行っています。

緩和ケア内科

〈スタッフ〉

医 長：松山 哲晃（精神症状担当）

医 員：大場 洋子（身体症状担当、婦人科兼任）

〈緩和ケアチームメンバー〉

看護師：菊地 美香（がん看護専門看護師）

薬剤師：高田 慎也（がん専門薬剤師・緩和薬物療法認定薬剤師）

薬剤師：玉木 慎也（がん専門薬剤師・がん指導薬剤師）

薬剤師：林 直美（～平成27年9月）

薬剤師：深井 雄太（平成28年1月～）

臨床心理士：奥 玲子

医療ソーシャルワーカー：金澤 友紀

栄養士：川合 彩絵

〈概 要〉

当院では全てのがん患者を対象として、病期や治療内容によらず緩和ケアを実践することを目標に掲げている。緩和ケアチーム（以下、チーム）は、その指導的役割を担うことを目的に平成18年に発足した。平成20年からは、それまでの身体症状担当医師に加えて精神症状担当医師がチーム専従医師として赴任し、入院患者を対象として緩和ケア診療加算の算定を開始した。また同年4月からは緩和ケア内科外来を開設し、当院通院中の患者、あるいは他機関で治療中の患者も対象に診療を開始した。平成27年12月には緩和ケアチームの上位機関として緩和ケアセンターが実質的な活動を開始した（緩和ケアセンターの活動については別項で報告する）。

〈診療活動実績〉

平成27年4月～平成28年3月の間のチーム介入患者数は527件（前年度比105%、非がん患者7人を含む）であった。各診療科の入院患者を対象に同加算の限度人数である1チームあたり30～40人／日を介入件数の目標としており、平成27年度は43.6人／日（前年度－8.5人／日）と十分に目標を達成した。介入患者数はやや増多したが、入院期間短縮の影響で1日あたりの介入件数には減少がみられた。

介入依頼時期の内訳は、“診断から初期治療前”が54人（10.2%、前年度＋5.0ポイント）、“がん治療中”が392人（74.4%、前年度＋4.2ポイント）、“がん治療終了後”が74人（14.0%、前年度－10.0ポイント）であり、緩和ケアチームへの介入依頼のタイミングは早期にシフトしている傾向がみられた。

介入依頼理由（患者一人あたり複数有り）としては、疼痛が307人（58.3%、前年度－5.8ポイント）と減少はしているものの、依然として最多であり、“精神症状”が233人（44.2%、前年度＋2.9ポイント）、“疼痛以外の身体症状”が118人（22.4%、前年度－3.6ポイント）であった。精神症状の依頼件数は年々増加しており、大部分がせん妄であることから、入院患者の高齢化を反映していると考えられた。

介入患者の転帰は、“（症状改善による）介入終了”が41人（7.8%、前年度＋1.3ポイント）、“退院”が242人（45.9%、前年度＋1.5ポイント）、“緩和ケア病棟への転院”が65人（12.3%、前年度＋0.6ポイント）、“その他の転院”が47人（8.9%、転院の合計では21.3%、前年度＋4.6ポイント）、“死

亡”が86人（16.3%、前年度-4.9ポイント）、年度終了時点で介入継続中が残りの39人（7.4%）であった。なお“退院”の内で在宅ケア導入を支援した患者は16人（3.0%、前年度+1.4ポイント）であり、前年度の8人から倍増した。これは診療報酬改定や医療資源の充実、地域緩和ケアネットワークの強化を反映して、特に札幌市内および近郊では希望する患者・家族に対する在宅緩和ケアの導入がスムーズに進むようになってきた実情を反映していると考えられる。

〈教育・啓蒙活動〉

- [札幌緩和医療講演会]が化学療法における神経障害性疼痛とオピオイド、H27.5.22
- 北海道がんセンター緩和ケア研修会（がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修事業）、H27.11.22～23
- [がん患者サポート・ミニレクチャー] 苦痛症状の緩和、使用される薬剤、倫理的問題などについて院内職員を対象に開催、毎月第2・第4水曜（計20回）

消化器外科

〈スタッフ〉

外科系診療部長：濱田 朋倫（2002年4月～）

医 長：篠原 敏樹（2004年4月～）

医 長：二川 憲昭（2009年6月～）

医 長：前田 好章（2006年4月～）

医 員：片山 知也（2015年4月～）

〈診療活動〉

概要

2015年度、消化器外科は5人体制でチーム診療を行っています。対象疾患は、食道癌、胃癌、大腸癌、肝、胆、膵癌などの全消化器癌です。癌の進行度に応じた治療を徹底したインフォームドコンセントのもとに、早期癌に対する腹腔鏡下手術から進行・転移再発癌に対する拡大手術および術前化学療法後の手術、下部直腸癌に対する肛門および自律神経（排尿、男性機能）温存等の機能温存手術、さらに末期癌に対する緩和手術にも積極的に取り組んでいます。

さらに入院待ちと入院期間をできるだけ短くするよう、かかりつけの先生方との連絡を密にして病診連携しています。

外来診療

一般外来は月～金曜日、担当医師が交代制で行っており（月：濱田、片山、火：二川、水：濱田、木：前田、金：篠原）、また特殊外来として水曜日の午後、濱田とともに専任WOCナース（倉橋副部長）がストーマ外来を実施しています。

入院診療

月曜日（17時半～）は、消化器内科とともに手術予定症例の術前検討会及び術後症例の病理カンファランスをおこなっています。手術日は月～金曜日の週5日で、2015年度の手術診療実績は286件でした。

〈研究活動〉

日本外科学会、日本消化器外科学会総会、日本内視鏡外科学会総会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会に各2題、日本大腸肛門病学会総会、日本肝胆膵外科学会、1 SLS Annual Meeting & Endo Expo、ESMO World Congress on Gastrointestinal Cancer2015、北海道外科学会、北海道内視鏡外科学研究会に各1題、計14題の演題発表を行い、また論文発表は4編でした。

呼吸器外科

〈スタッフ〉

院長：近藤 啓史（平成4年4月～）
医長：安達 大史（平成11年4月～）
医長：有倉 潤（平成20年4月～）
医員：水上 泰（平成24年4月～）
医員：上田 宣仁（平成26年12月～）

〈診療活動〉

当科は平成26年12月から5人体制で診療をしている。

診療内容は診断的手術と治療的手術を主に行っている。また呼吸器センターとして、手術適応となりそうな患者の術前検査、ステージングも行っている。化学治療は従来どおりUFT内服以外のものは呼吸器内科で行っている。

外来診療は原則月・水・木曜日に行い、再来は順に安達、近藤、有倉が担当している。新患は近藤以下、当日の外来担当医師が診察を行い、セカンドオピニオン、診療日以外の診察は近藤が担当している。

入院診療の殆どを手術に費やしている。毎週月曜日午後4時より呼吸器内科、病理診断科とともに呼吸器カンファレンスを行っている。平日の始業前には科内のカンファレンスを行い患者の診療情報を共有し、火曜日始業前カンファレンスでは手術日程の調整も行う。また複数の科にまたがるような症例は毎週水曜日午前8時からのカンサーボードに提示して治療方針を検討している。

平成27年（1～12月）の手術件数は254例で全身麻酔243例、局所麻酔22例であった。このうち原発性肺癌手術症例数は158例（胸腔鏡手VATSは148例）。その内訳は2葉切除を含む葉切除99例（同91例）、区域切除18例（同18例）肺部分切除38例（同38例）であった。悪性胸膜中皮腫に対し

て胸膜肺全摘術を1例行った。転移性肺腫瘍手術症例は53例で、うち50例に対して胸腔鏡手術を行った。縦隔腫瘍は12例でVATSは11例に行った。当科では胸腺腫などで浸潤例でない前縦隔腫瘍は吊り上げ法を使い積極的にVATSで行っている。局所麻酔は28例で全例がCVポート留置術であり、呼吸器内科での化学療法のサポートの症例であった。

また国立病院機構EBM推進のための大規模臨床研究「喫煙者、非喫煙者の肺癌病因に関する分子疫学的研究」、国立病院機構共同臨床研究「平成25年度NHOネットワーク共同研究「75歳以上後期高齢者非小細胞肺癌症例の手術成績に関する前向き多施設コホート研究」の一員として活動した。

〈学会活動〉

学会活動は昨年度と同程度の発表数であった。業績集参照。

〈講演活動〉

- 1) CSL ベーリング株式会社主催・市民のためのがんフォーラム「第11回肺がんに効く、肺がんの話を聞く会」当院、7月4日
「肺がんの外科治療の役割」、有倉 潤
- 2) CSL ベーリング株式会社主催・市民のためのがんフォーラム「第11回肺がんに効く、肺がんの話を聞く会」当院、7月4日
「高齢者の肺がんの特徴」、水上 泰
- 3) CSL ベーリング株式会社主催・市民のためのがんフォーラム「第11回肺がんに効く、肺がんの話を聞く会」当院、7月4日
「男性の肺がん、女性の肺がん」、安達大史

乳腺外科

〈スタッフ〉

統括診療部長：高橋 将人（平成22年4月～）
医 長：渡邊 健一（平成18年4月～）
医 長：富岡 伸元（平成25年4月～）
医 員：佐藤 雅子（平成23年7月～）
医 員：山本 貢（平成27年5月～）
医 員：馬場 基（平成24年4月～平成27年4月）
医 員：萩尾加奈子（平成25年4月～平成27年11月）
医員（非常勤）：五十嵐麻由子（平成26年4月～平成28年3月）
臨床試験CRC：田中都容子（平成23年8月～）
臨床試験データマネージャー：
本庄 裕美（平成27年6月～）
臨床試験データマネージャー：
利波 優里（平成23年3月～平成27年4月）

〈人 事〉

当科は、従来より北海道大学第一外科（現・北海道大学大学院医学研究科消化器外科学分野Ⅰ）の関連施設としてスタッフを派遣されてきた。平成24年4月に北海道大学乳腺外科が独立・新設され、以降、人事交流、研究、診療において関係を深めてきた。今年度は馬場基医師、萩尾加奈子医師が北大乳腺外科へ転出、山本貢医師が同じく当科へ転入した。乳癌症例は増え続け、全国的にも医師は不足しておりスタッフの確保が急務である。当科では北海道大学からだけでなく全国から乳腺診療を志す医師を募っている。薬物療法の重要性が増しており腫瘍内科医にも活躍の場がある。大学医局人事外では、新潟から来ていた五十嵐麻由子医師が予定の2年間の勤務を終え新潟大学に戻った。今後も最低でも6名体制を維持したいと考えている。

〈診 療〉

乳癌診療は、手術に加え薬物療法（ホルモン治療、化学療法、分子標的治療など）、放射線治療を含めた集学的治療が必要である。特に転移・再発後の治療においては薬物療法の進歩により生存期間が延長し、長期にわたっての治療を要する。道内には薬物療法を得意としない施設も多く、多くの補助化学療法の依頼、転移・再発乳癌患者を受け入れているため、手術数以上に外来・入院治療の負担が増加しているのが現状である。原則どのような患者も断ることなく診療する方針としている。

手術

月～金の毎日（全身麻酔下手術は月～木）行っている。年間手術症例は新規乳癌326例であった。形成外科と連携し乳房同時再建、2期的再建の症例が増加している。また内視鏡下乳腺手術も行っている。

入院

入院数は年度計画30.0人に対し実績は32.7人であった。7F病棟に26床、4A病棟に4床が割り当てられているが、不足し他の病棟にベッドを借りることが多い。手術、化学療法、放射線治療目的の入院に加え、終末期医療を受ける患者も多い。緩和ケアチームと連携をとっている。

外来

月～金の毎日、2～3診体制である。外来数は年度計画70.0人に対し、87.0人であった。週2日、乳がん検診を行っている。化学療法は原則、外来治療センターで行っており、薬剤師・看護師とのチーム医療を実践している。

〈治験・臨床試験〉

治験への積極的な参加、症例登録を行っている。

新規薬剤・治療の開発、および当院の受託研究実績向上へ貢献したいと考えている。

また全国の医師主導臨床試験グループへ参加し症例登録を行っている。症例数は全国でも上位である。エビデンスの創出に貢献するとともに当施設の信頼性を増すことが治験の契約にもつながると考えている。

多忙な日常診療の中で困難な点もあるが。当科

臨床試験コーディネーター、データマネージャーである田中都容子、利波優里、本庄裕美の貢献が大きい。

〈研究活動〉

臨床試験、研究業績に関してはV研究業績を参照されたい。

腫瘍整形外科

〈スタッフ〉

医長、サルコームセンター長：

平賀 博明（平成10年1月～）

医 長：小山内俊久（平成21年10月～）

医 員：相馬 有（平成25年4月～）

レジデント：小池 良直（平成27年7月～9月）

レジデント：吉田 朋世（平成27年10月～12月）

〈診療活動〉

当科は北海道における唯一の骨軟部腫瘍専門施設として診療を行っており、道内各地の整形外科、形成外科、外科などより患者を受け入れている。スタッフ3名はがん治療認定医であり、日本整形外科学会の骨・軟部腫瘍診断治療相談コーナーにも専門施設として掲載されている。27年度は北海道大学から3ヶ月ごとに2名レジデントが在籍して研修を積んだ。今後もレジデントを受け入れていく方針である。

入院診療

入院患者数はほぼ全員が骨軟部腫瘍患者（転移性骨腫瘍を含む）であり、当科の専門性を反映した。1日平均在院患者数は22.3名となり、平均在院日数は前年度の29.8日から減少し23.8日であった。手術件数は前年度の270件よりやや減少し257件であった。内訳は軟部肉腫広範切除69件、原発性悪性骨腫瘍手術が6例、転移骨腫瘍に対する切除および再建術が6件、病的骨折に対する骨接合

術が2件、転移性脊椎腫瘍に対する手術が1件、良性骨腫瘍に対する手術が24件、良性軟部腫瘍に対する手術が56件および切開生検が45件などであった。原発性骨軟部腫瘍患者に対する化学療法も積極的に行っており、骨肉腫およびEwing肉腫に対する補助化学療法、軟部肉腫に対する補助化学療法、骨軟部腫瘍進行例に対する化学療法を行っている。2011年度からの新たな試み、脊椎圧迫骨折に対するBalloon kyphoplasty（BKP）も続けて行っている。

外来診療

月曜日から金曜日に診療を行っている。（月・水・木曜は2名体制、火・金曜は手術日のため予約患者のみ1名体制）外来では変性疾患などの対応は行っているが、骨軟部腫瘍に対する専門性を維持するために、原則他院への紹介とし、実質的に骨軟部腫瘍専門外来となっている。27年度の新外来患者数は前年度の686名を更に上回って692名となり、6年連続で増加している。そのほとんどが他院からの紹介である。地域医療連携室を介しての紹介患者が年々増加中で、前年度の589名から増加し597名となった。セカンドオピニオン外来も行っている。原発性骨軟部腫瘍進行例に対する化学療法は積極的に外来化学療法として行っている。骨軟部腫瘍に対する治験にも引き続き参加しており27年度は「染色体転座を伴う悪性軟部腫瘍患者を対象としたET-743の第Ⅱ相試験」、「大

量メトトレキサート療法時に生じるメトトレキサート排泄遅延に対してのグルカルピダーゼの有効性・安全性試験」、「進行又は転移性軟部組織肉腫を有する患者においてolaratumab及びドキシソルビシンの併用投与とプラセボ及びドキシソルビシンの併用投与を比較する無作為二重盲検プラセボ対照第Ⅲ相臨床試験」に患者登録を行った。

〈研究活動〉

1) ①厚生労働科学研究委託費革新的がん医療実用化研究事業「高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究」班、②同「再発小児・AYA (Adolescent and Young Adult) 世代固形腫瘍についての多施設共同臨床研究」班、③独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費研究事業 (26-A-4) 成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究「骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究」班の班員を平賀が務めている。①及び③を母体とする日本臨床腫瘍研究グループの骨軟部腫瘍グループにおいて、

研究代表者兼研究事務局を平賀が務めるJCOG0905「骨肉腫術後補助化学療法におけるIfosfamide併用の効果に関するランダム化比較試験」が行われている。27年2月末までに155名の一次登録があり、現在継続中である。同骨軟部腫瘍グループにおけるJCOG1306「高悪性度非円形細胞肉腫に対するadriamycin, ifosfamideによる補助化学療法とgemcitabine, docetaxelによる補助化学療法とのランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験」にも参加、27年度1症例登録した。「再発骨肉腫に対するゲムシタビン+ドキシソルビシン (GD) とテモゾロミド+エトポシド (TE) のランダム化第Ⅱ相試験」「AYA (Adolescent and Young Adult) 世代固形腫瘍に対するイリノテカン+ゲムシタビン (IG) の第Ⅰ/Ⅱ相試験」にも各々1症例を登録した。

2) 平賀が重粒子線がん治療臨床研究・骨軟部腫瘍臨床研究班の班員となり、重粒子線治療適応患者を重粒子医科学センター病院に依頼している。

皮膚科

〈スタッフ〉

医 長：佐藤 誠弘 (平成24年10月～)

〈診療の概要〉

本年度の診療の概要ですが、前年度と同様に、重点診療領域として、①皮膚がんの診断 ②がん治療に伴う皮膚疾患、皮膚障害 ③高齢者の皮膚疾患の3つを中心とした診療を継続しています。増加傾向にあったEGFR阻害薬の皮膚障害はやや頭打ちとなった一方、タキサンによる皮膚障害の割合が増加しています。ニボルマブ等新規薬剤による薬疹も散見られ、また、成人のアトピー性皮膚炎や尋常性乾癬の新規患者が増加傾向にあります。

〈院内での取り組み〉

① 褥瘡対策ならびにがん性創傷対策

院内で多職種医療チームによる管理が行われており、形成外科医師、WOCナース、薬剤師や管理栄養士とともに、褥瘡対策チームとして連携して診療にあたっています。がん性創傷に対しては、当科とWOCナースにより患者数の把握と治療を行い、モーズペーストや亜鉛華デンプンを用いた創部のコントロールを行っています。本年度の院内褥瘡発生率は目標値の1.0%を下回り推移しています。

② 化学療法による皮膚障害対策

これまで皮膚科医、看護師、薬剤師等による多職種によるチーム医療により化学療法時の皮

皮膚障害の予防、治療に努めてきました。EGFR阻害薬による皮膚障害、手足症候群に関しては、院内でセット処方、対応アルゴリズムを整備し、各科の医師に使用していただいています。C-mab、P-mab、afatinibに関しては、ミノサイクリンの予防内服率がほぼ100%になっており、

皮膚障害の軽減に貢献しています。

〈研究・学会活動〉

本年度に当科スタッフが関与した院外での学会発表ならびに講演は計6件でした。

泌尿器科

〈スタッフ〉

教育研究部長、前立腺センター長：

永森 聡（1981年卒）

医長、高度先進内視鏡外科センター長：

原林 透（1987年卒）

医員、腫瘍免疫科医長：三浪 圭太（1997年卒）

医員：高田 徳容（1999年卒）

今年は1名減員がありましたが、外来、病棟、手術を同じペースでこなしました。手術、薬物療法の専門家、放射線療法の窓口として、尿路性器癌の早期例はもちろん、進行例、難治例を道内から紹介されています。

手術については、腹腔鏡手術（ロボット支援を含む）を年間150件以上、膀胱腫瘍などに対する内視鏡手術などで年間手術総数400-500件をこなしております。

ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術を導入して2年が経過しました。近隣、遠方の泌尿器科からご紹介を受け、施行件数は150件を超えました。手ブレのない精密な鉗子による剥離と縫合によって制癌効果と蓄尿機能は良好な印象です。ロボットのドッキング法をかえることで術中超音波画像をみながら剥離する方法を開発し、切除断端陽性率を改善し、今年の米国泌尿器科学会で発表しました。

腎盂尿管（上部尿路）の癌の診断は細径尿管鏡をそろえ、精密な診断と治療を行っています。診断の難しいこの癌では診断的尿管鏡検査が重要で

年間30件以上行っています。全国的には、大まかな画像診断で一律に腎尿管全摘除術が行われることが多く、治療成績が向上していません。当院では尿管鏡を行いリスク分類した上で、術前化学療法、拡大リンパ節郭清の適応を決めて治療し、治療成績の向上を目指しています。

膀胱癌に対する膀胱全摘と尿路変向術は、侵襲の大きな手術です。当科では腹腔鏡手術を導入することで出血量を減らし、輸血率は15%になりました。くわえて術後回復プロトコールも導入したことにより術後合併症も減ってきました。これらにより、比較的高令の紹介患者さんが大変ふえ、ここ2年は25件以上の手術をこなしています。

当院の特徴である放射線科・泌尿器科共同治療の前立腺癌密封小線源療法は、年間10例前後に施行しています。5年制癌率は85%です。

2015年度手術内容 総手術件数 465（153）

前立腺全摘 78（ロボット78）、小線源治療 6、膀胱全摘 27（25）、腎尿管全摘 10（9）、TUR 74、尿管鏡 37、腎全摘 9（9）、腎部分切除 20（20）、リンパ節郭清 8（5）、精巣全摘除 13

総件数（腹腔鏡手術件数）を示します。

薬物療法では、ここ数年、腎癌に対する新規分子標的薬がつつぎと開発され当院でも6剤を導入し使い分けています。この夏にはさらに免疫系を介した新規薬剤も登場しさらに使い分けに工夫が必要となります。また、去勢抵抗性前立腺癌に

対しても分子標的薬が加わりました。これら2癌腫に対する新規薬剤の治験も積極的に行っています。

膀胱癌、腎盂尿管癌ではGC療法(ジェムシタビン)の保険適応以後、ブレイクスルーがありませんでしたが、新規の分子標的薬の治験がはじまりました。今年、大変多くの進行性精巣癌の紹介を受けました。

また、ペプチドワクチンを用いた膀胱癌と前立腺癌に対するワクチン療法の治験も行っています。

薬物療法(抗癌剤、分子標的薬、免疫賦活薬、新規ホルモン剤)治療件数

精巣癌 18 (16)、尿路上皮癌 22 (16)、腎癌 25 (11)、前立腺癌 40 (17)

総数(新規導入例)を示します。

〈2015年度研究活動〉

国内学会発表 18件、国際学会発表 2件、英文論文 5編、和文論文 6編

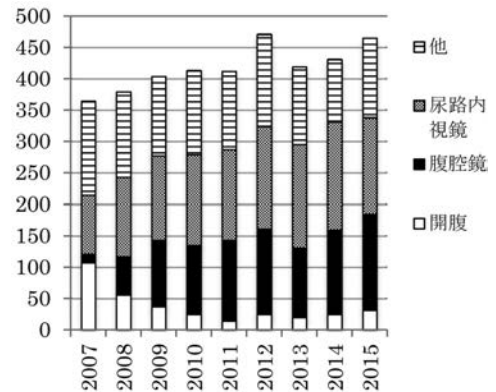


図1. 手術件数

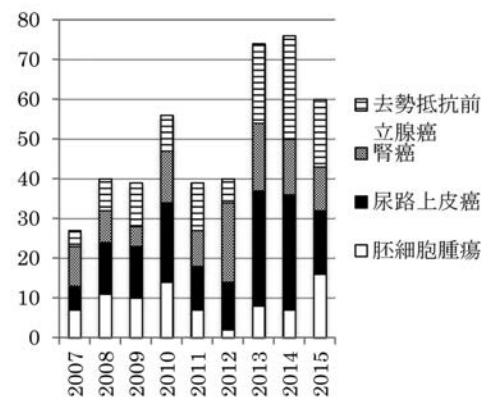


図2. 薬物療法 施行人数 (当院初回治療のみ)

婦人科

〈スタッフ〉

- 副院長：加藤 秀則 (平成17年6月～)
- 医 長：岡元 一平 (平成21年11月～)
- 医 長：藤堂 幸治 (平成20年6月～)
- 医 長：見延進一郎 (平成20年6月～)
- 医 員：大場 洋子 (平成22年4月～)
- 医 員：首藤 聡子 (平成26年4月～)
- 医 員：山崎 博之 (平成26年4月～平成27年9月)
- 医 員：竹下 奨 (平成27年4月～)
- 医 員：松宮 寛子 (平成27年10月～)

〈診療活動〉

人 事:平成27年4月、竹下奨が名古屋市立大学産婦人科から異動、着任し8人体制での診療となった。その後平成27年8月に山崎博之が北海道大学産婦人科へ異動、代わりに松宮寛子が着任した。

入院診療：病床57床、婦人科としての手術枠は月曜日から金曜日まで毎日。

平成27年の手術数は654件。子宮頸部上皮内腫瘍209例、子宮頸癌83例、子宮体癌121例、卵巣癌(LPM含む)98例であり、この数は一般の大学病院を上回るものである。このうち4分の1程度がリンパ節郭清を含む浸潤癌の根治手術だが、一方で子宮筋腫や、子宮脱、良性卵巣のう腫なども行っている。当院の特徴としては子宮頸癌および体癌に対する内視鏡下がん根治手術、センチネル生検併用手術、子宮頸部浸潤癌患者に対するロボット支援下広汎性子宮全摘術、若年子宮頸部上皮内腫瘍患者に対するレーザー蒸散術といった先進的な医療をいち早く導入して行っていることが挙げられる。

ロボット手術の導入：当科ではロボット手術を臨床に導入、平成26年7月25日に第一例目手術を行った。初年度実績は8例にロボット支援下手術を実施、うち広汎子宮全摘術の実施は3例であった。平成27年度実績としては7例に対してロボット支援下手術を実施、術式はすべて広汎子宮全摘術であった。

外来診療：月曜日；加藤秀則、火曜日；岡元一平、水曜日；藤堂幸治、竹下奨、木曜日；見延進一郎、大場洋子、金曜日；首藤聡子、大場洋子

ミーティング等：毎週月曜日午前8：00から9：00まで全入院患者の現状報告。水曜日午前8：30から手術患者を対象とした術後および病理検討会、及び入院患者における問題症例のピックアップ。木曜日午後15：30から病棟スタッフとのミーティング、放射線科との合同カンファレンス、術前検討会。金曜日午後5時から病理診断部との合同カンファレンス。

〈研究活動〉

勉強会：臨床以外の活動としては、毎週水曜日の勤務時間後に勉強会を行っている。毎週1人ずつではあるが、20-30分間のレビュー方式でのプレゼンテーションがdutyである。7人なので、約1か月半に1回で順番が回ってくるわけであるが、この期間で20-30分の新しい話題提供はかなりの労力が必要である。若い先生方にとっては試練であるらしいが、これを乗り越えることで成長が期待できるものと信じている。

学会発表：平成27年8月7-9日日本婦人科腫瘍

学会学術講演会が盛岡市で開催された。当院から藤堂がシンポジストとして発表を行った。平成27年11月12-14日に大韓民国のソウル市で第4回 Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 学術講演会が開催された。当院から加藤、藤堂、竹下、山崎が参加し、それぞれポスターセッションでの発表を行った。

研究活動：病理部山城勝重先生との共同研究を当該年度研究活動として行っている。研究課題名は「子宮体癌における術前リンパ節転移スコアと術中センチネルリンパ節生検を併用したリンパ節郭清個別化に関する研究」であり、研究代表者藤堂医師に対して文部科学省科研費基盤研究（C）の助成金が与えられている。

〈その他〉

平成27年度に着任した竹下医師はWIND（北海道大学の旧医局組織に該当）による人事ではなく、名古屋市立大学という我々とは人事交流のなかった施設から自分自身の希望で当科の門を叩きやってきたやる気に満ち溢れた若者である。今年度は秋から冬にかけて見延医師が病気による療養のため長期間仕事に出られなくなったのだが、竹下医師が我々の仲間に加わってくれたお陰でこの難局を乗り越えることができた。彼は12月に日本臨床細胞学会の専門医試験を受験し見事に合格したのだが、同時に加藤副院長も受験しこちらも見事合格となった。大ベテランとなってなお向学心に溢れ、政治の先頭に立つだけでなく、臨床も引っ張っていく姿に胸を打たれる後輩は多い。

眼 科

〈スタッフ〉

医 長：水本 博之（平成21年4月～）

視能訓練士：高田 幸（平成26年4月～）

眼部の悪性腫瘍専門ではなく、一般の眼科の診療を行っております。

手術室で行う手術は主に白内障となっております。

主に外来での日帰り手術で行っておりますが、他科入院中に手術を希望される患者さんに対しては、その科に入院したままで手術を行います。

その他外来にて後発白内障切開術、網膜光凝固

などのレーザー手術も行なっております。
手術以外では、涙道疾患、緑内障、網膜疾患、

外眼部炎症性疾患の治療、抗がん剤の眼科領域の副作用のチェックなど広く診療を行っております。

頭頸部外科

〈スタッフ〉

医 長：永橋 立望（H16年4月より）

医 員：山田 和之（H24年4月より）

レジデント：高橋 紘樹（H27年4月より）

〈臨 床〉

頭頸部外科においては、良性、および悪性の耳鼻咽喉科領域の腫瘍、いわゆる頭頸部腫瘍の早期発見、治療につとめています。甲状腺、唾液腺、口腔、咽頭、喉頭、などに発生する腫瘍が治療対象です。

月、火、木、金曜日の午前中に頭頸部腫瘍外来を行っています。予約外の患者さんも待ち時間が生じますが、受診可能です。

電子カルテ導入に伴い電子ファイバースコープの画像や、エコー写真、聴力検査の結果などの検査データを電子カルテ上で確認できるようになっています。

外来は、3診にわかれ、最新型のNBI電子ファイバースコープも各ユニット毎に計3台が備えられ、外来診療に利用する事により、早期癌の発見に努めています。院内感染予防対策のため、検査終了後すぐに洗浄消毒を行い、外来診療に時間のロスが生じないような複数の電子ファイバースコープを準備しています。また、外来に超音波診断装置を設置して、唾液腺、甲状腺、頸部リンパ節腫脹に対して画像診断、穿刺細胞診に超音波診断装置を活用しています。

入院病棟は、2階病棟で病床数17床で、月、水、金が手術日となっています。手術内容は、頭頸部悪性手術が主であります。近年、副鼻腔炎の減

少とともに鼻の悪性腫瘍が減り、甲状腺疾患の手術が増加しているのが顕著です。

治療に関する当科の特徴としては、機能温存を試み、放射線科とともに、積極的に抗がん剤や放射線治療を併用した臓器温存を可能にした治療法において良好な治療成績を実現しています。また、手術においても、喉頭機能温存手術の部分切除手術、喉頭摘出後の術後音声機能の獲得のためのボイスボタン挿入、形成外科と協同で血管吻合を必要とする遊離自家組織移植を利用した機能再建手術などを行っております。

毎週木曜日には、放射線科との症例検討会を行って意見交換と治療方針の決定、各週毎の患者さんの病状把握を行い情報を共有しています。

〈研 究〉

頭頸部癌に対する化学療法併用放射線治療による機能温存療法の治療成績

—特に喉頭機能温存療法に対して—
遊離組織移植による咽喉頭機能障害に対する機能改善法の確立

無喉頭者における人工音声機能の確立法
高齢者の頭頸部癌患者における治療戦略
原発不明癌の頸部転移症例の予後、治療法について

早期舌癌の予後治療法について

甲状腺がんに対する薬物療法

以上の継続的研究のほか、症例発表など行っております。

リハビリテーション科

〈スタッフ〉

医 長：平賀 博明〔腫瘍整形外科医長を兼務〕
(平成10年1月～)

理学療法士長：井上 由紀 (平成26年4月～)

理学療法士：

菅原 啓祐 (平成14年10月～)

明庭 圭吾 (平成23年7月～)

小野 淳子 (平成24年4月～平成26年6月～
産休・育児休暇中)

増井 慎志 (平成26年5月～)

肥田 理恵 (平成26年10月～)

4月より2名増員

異動 作業療法士 田中 朋子

新入 言語聴覚士 藤嶋 亮太

〈概 要〉

平成27年度は作業療法士、言語聴覚士が各1名増員され、リハビリテーション科は理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3職種で関わる体制となった。

「脳血管疾患リハビリ」は施設基準がⅢからⅡの上位基準を取得した。

7月第2回札幌がんリハ研修を未受講者が受講し「がん患者リハビリテーション料」を全療法士が算定できるようになった。

受講：松山哲晃医師、菊地美香看護師、田中朋子、肥田理恵、藤嶋亮太

〈診療活動〉

平成27年度は 療法士2名増員と脳血管疾患施設基準Ⅱを取得したことにより 総診療点数で前年比140%の増加となった。(表1)

リハビリテーション料について「がん患者リハビリテーション」は前年度45%だったが、今年度は52%に増加し、がんリハ対象者の処方が増えてきた。(表2)

(表1) 業務実績

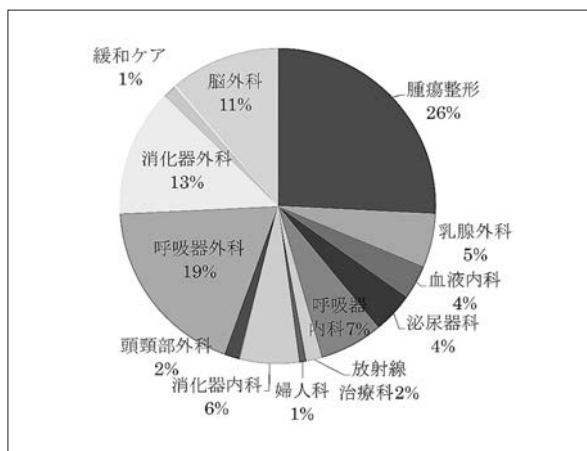
	平成26年度	平成27年度
総診療件数	13,580	20,259
総診療単位数	21,343	30,351
総診療点数	4,880,345	6,838,962

(表2) 施設基準別実施件数・単位数

	10,618 (件)	16,600 (単位)
がん患者	10,618 (件)	16,600 (単位)
脳血管(廃用)Ⅱ	1,799 (351)	2,988 (537)
運動器Ⅰ	3,112	4,942
呼吸器Ⅰ	4,379	5,284

リハビリ処方は外科系で約6割を占めるが、作業療法や言語聴覚療法が加わり、脳神経外科から脳腫瘍・脳転移の患者を多く処方いただき、対応することができた。(図1)

カンファレンスは9診療科と毎週実施した。



(図1) リハビリ依頼科割合

〈広報活動〉

新しいリハ職種を迎え、その職種の業務内容をお知らせし、リハビリの3職種を理解いただけるよう、積極的に院内外への広報活動を行った。

4.24 院内向け 作業療法士、言語聴覚士紹介の説明会

5月 リハビリテーション啓蒙ポスター作成
(外来ホール、リハ室前)

イノベーション掲載

院内研修「嚥下障害研修」講師：藤嶋 亮太

8.25 第1回 9.17 第2回

9.5 第4回 北海道がんと闘う医療フェスタ

講演「がんのリハビリテーション」

10月号、イノベーション「嚥下障害研修報告」

広報誌『北海道がんセンター』寄稿

第34号 「リハビリ室のご案内」

第36号 「頭頸部がん患者における嚥下訓練」

第37号 「当院の作業療法について」

第38号 「がん患者に対する理学療法」

〈その他 取り組み〉

- ・実習生受入 評価～総合実習 3名
- ・研修会 講演 2件、学会発表6件
- ・専門学校講義 1件
- ・骨腫瘍、骨転移の対応として「起居動作指導パンフレット」作成

放射線診断科

〈スタッフ〉

医 長：市村 亘（平成13年4月～）

医 員：竹井 俊樹（平成25年9月～）

医 員：田中 七（平成26年4月～）

レジデント：木野田直也（平成27年4月～）

レジデント：朴 貞恩（平成27年4月～）

〈人 事〉

医員の移動はありませんでした。平成27年4月から後期研修医の木野田直也が帯広厚生病院から着任しました。昨年度前期研修医として6ヶ月間の研修を行った朴 貞恩が平成27年4月から後期研修医として引き続き研修を行いました。

〈概 要〉

診療：当科の診療内容は、画像診断の管理・読影業務とIVR（Interventional Radiology）治療の2つに大別されます。

画像読影業務についてはCT、MRI、RI検査（骨シンチグラフィ、レノグラム、肺血流シンチグラフィ、アジアロ肝シンチグラフィなど）、18FDG-PET、超音波検査、血管造影検査などが対象となり多岐にわたる読影を行っています。

IVR治療については血管造影装置やX線透視装置、CT、US装置等を単独あるいは組み合わせて使用し、様々な治療を行っています。対象としては肝細胞癌や転移性肝腫瘍に対する肝動脈化学

塞栓療法（TACE）や動注化学療法、PEI、RFA等の経皮直達治療、頭頸部、婦人科、骨軟部等の悪性腫瘍に対する動注化学療法、USないしCT誘導下での経皮針生検・ドレナージ、化学療法や中心静脈栄養のための中心静脈ポート留置や末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）留置、深部静脈血栓症・腫瘍塞栓症、肺血栓塞栓症に対する下大静脈フィルター留置、上大静脈症候群等に対するステント留置、出血に対する経カテーテル的な動脈塞栓術、腫瘍整形外科手術の術中出血量低減を目的とした経カテーテル的な動脈塞栓術などが挙げられ、こちらもバリエーションに富んだ内容となっています。

平成27年度にはこれといった大型機器の導入・更新等はありませんでしたが、竹井先生が着任から3年目、田中先生が着任から2年目となり、また新たに2名のレジデントを迎えて、より質の高い診断・IVR治療を目指しています。

〈研究活動〉

日本医学放射線学会、日本IVR学会、日本核医学会、米国核医学会、日本磁気共鳴医学会、日本超音波医学会、日本血管内治療学会、日本放射線技術学会、日本オートプシー・イメージング学会、日本乳癌学会、リザーバー研究会、日本Metallic Stents&Grafts研究会など、主要全国学会をはじめ、各種研究会への参加・発表を行っています。

放射線治療科

〈スタッフ〉

名誉院長：西尾 正道（平成25年4月～）
放射線診療部長：西山 典明（平成11年10月～）
医 長：小野寺俊輔（平成26年4月～）
医 員：西川 昇（平成26年6月～）
医 員：湊川 英樹（平成26年4月～平成28年3月）
非常勤：溝口 史樹（平成25年4月～）

〈診療活動〉

人 事：

平成27年度は26年度まで非常勤で勤務いただいた西川由紀子先生（北大所属）の出張がなくなり、外来は5人体制となった。今年度も引き続き、非常勤として溝口先生が金曜日から火曜日にシフトして診療を行っていただき、なんとか外来診療は維持することができた。

幸いそのほかの医師については異動がなく、昨年度のながれを維持することができた。

次年度については、湊川先生が北大に戻ることで、北大から新しい先生を迎えての新体制となる予定である。

入院診療：

病棟においてはH28年度から当院もDPCに移行することを踏まえ、H27年度も基本的には外来での通院加療をメインとして、病棟は20床での運営となった。ただ、一過性には割り当て病床数を超えてしまう場合も見られたが、病棟師長のやりくりで助けられ、なんとか問題なく運用できた。

昨年度と同様に他院からの肺がん・前立腺がんを中心とした根治的治療、転移性脳腫瘍や骨転移に対する姑息的治療の患者が混在している状態は以前の通りであるが、年間を通して入院を必要とする姑息的治療の患者の割合が多くなっている。在宅への移行も踏まえた地域連携室との連携もさらに重要度を増している。

RI病床を利用した小線源治療については、以

前よりも症例数が減少していながらも、年数例の頻度で依然として需要が見られた。今後もなくせない治療と考え、病棟のスタッフには負担をかけるが、維持する方針である。

外来診療：

これまでと同様、西尾名誉院長には月曜日に「がん何でも相談外来」の診療をいただき、様々ながん患者さんの支えとなっていた。西山先生は月・木曜日外来を担当され、診療の傍ら湊川先生・西川昇先生の指導に当たられていた。小野寺は昨年と同様、火・金曜日の外来を担当。西川昇先生は今年度から木曜日と金曜日の連日で外来を担当した。

溝口先生には火曜日にシフトしていただき、引き続き、他院からの紹介症例も含め診療いただいた。

昨年度からの流れを引き継ぎ、頭頸部ならびに婦人科や骨軟部腫瘍に対するIMRTの適応拡大を今年度も行い、症例数増加に努めた。

ただ、逆に前立腺癌に対するIMRTの症例数はやや頭打ちとなっており、今後の適応症例拡大を含めた検討が必要な状況となっている。

〈研究活動〉

今年度は、昨年度に検討を始めた研究結果が出始めた年度となり、昨年度よりも学会発表が活発となった。

当院の臨床研究部において研究させていただいた湊川先生の研究もJRSの秋季臨床大会で発表がなされた。また、今年度は札幌にて国立病院総合医学会が開催されたこともあり、当科から西川昇先生や小野寺が発表を行った。

小野寺の科研（基盤C）による基礎および臨床研究もようやく今年度が最終年度となり、基礎部分である北大先端生命科学研究院の綾部研究室との共同研究も結果が出され、北日本地方会で発表

が行われた。

治験については、西山先生が当科の窓口となり、

Radium製剤の投与が開始された。

麻酔科

〈スタッフ〉

医 長：土屋 健二（平成18年8月～）

医 長：森下 健康（平成25年10月～）

医 員：川原みゆき（平成20年4月～）

医 員：上村佐保子（平成21年4月～）

医 員：安濃 英里（平成27年4月～）

〈診療活動〉

平成27年の麻酔科管理の手術は2,063件でした。当院は病院の性格上、長めで大きな手術が多いのですが、例年2,000件前後の症例に麻酔科が関わっています。

近年は高齢者症例の手術も増加しています。平成27年は80歳以上の症例が年間165症例（8.0%）ありました。

患者さんにとって低侵襲な内視鏡手術の割合も増加しています。10年前であれば内視鏡で行うことはあり得ないと思われた術式も、安全かつ高い精度で内視鏡で行えるようになりました。

一般的な内視鏡手術に加えて、3D画像を利用した究極の内視鏡手術とも言える（手術支援ロボットの）ダヴィンチによる手術も開始されています。2014年1月からはダヴィンチによる泌尿器科の前立腺全摘術、RALPが開始されました。2014年8月からは婦人科でもダヴィンチによる子宮がんの手術を開始しました。更に2015年からは消化器外科もダヴィンチによる胃がんの手術を開始しました。

当院の手術室には麻酔科専用のエコーが3台あ

ります。エコーガイド下の神経ブロックや、エコーガイド下の血管ルート確保（抹消ルート、Aライン、CV、PICC）に大いに活用しています。

その中でもエコーガイド下で上腕から挿入するPICC（peripherally inserted central venous catheter：末梢静脈留置型中心静脈カテーテル）ではエコーが大活躍しています。当院ではPICC挿入の需要が多く、年間800例近く挿入しています。手術の全身麻酔時の挿入が400例近くで、それ以外にも内科などからの依頼により年間400例位を挿入しています。

化学療法や高カロリー輸液を行うときには、従来は鎖骨下静脈から中心静脈カテーテルを挿入する必要がありました。しかし、鎖骨下静脈へのカテーテル挿入は一定の頻度で合併症がおきる可能性がありました。

それに対してPICCは、合併症が少ない（気胸、血胸は皆無）、感染率が低い、閉塞が少なく長期留置症例が多い（最長15ヶ月）などの利点が多くあります。PICCは、エコー下での穿刺が必要で、ある程度の技術と経験を要します。しかし、一度挿入すると、トラブルがなければ長期留置が可能で、点滴のたびに針を刺さなくてすみ、患者さんからは好評です。

PICCに限らず、血管が体表からは見えない患者さんの点滴ルート確保（末梢血管確保）やAライン確保にもエコーが有用で、患者さんの苦痛の軽減に役立っています。

脳神経外科

〈スタッフ〉

医 長：伊林 至洋（平成12年3月～）

〈診療活動〉

月曜日から金曜日まで外来のみを行っています。

がんセンターですのでがん患者を中心に診ていますが、未だに毎日が日々新しい発見です。最近抗がん剤、特に分子標的治療薬の進歩で、がん患者の生存期間が延長し、その結果転移性脳腫瘍患者が益々増えています。

手術などが必要な場合は札幌医科大学脳神経外科などに依頼しています。

脳神経外科領域と癌との関連では、

1. 転移性脳腫瘍、癌性髄膜炎
2. 癌に伴う凝固異常などによる脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）
3. 抗がん剤の副作用としての中枢神経症状
4. 傍腫瘍症候群

があります。3. の中枢神経症状としては代謝性脳症、壊死性白質脳症、小脳症状、ミエロパチー

などがあります。また4. の傍腫瘍症候群とは中枢神経が癌の遠隔効果により障害されるもので、腫瘍に伴う免疫異常（特に液性抗体）が関与しています。具体的には亜急性小脳変性症、辺縁系脳炎や多発筋炎・皮膚筋炎などです。常にこの4つの病態を頭に思い浮かべながら、一例一例丁寧に診察を行うことを心がけています。

最近MRIが混んでいますので、単純CTのみでどの位転移性脳腫瘍が診断できるかという試みをしています。思ったより単純CTが有用なことがわかり、今後転移を心配される患者さんにまずスクリーニングとして行いたいと思います。

〈講演活動〉

1. 脳腫瘍の病理学2015
札幌医科大学脳神経外科専門医講演会
札幌市 平成27年4月23日
2. 単純CTで転移性脳腫瘍を診断できるか
北海道がんセンター外来看護師講演会
札幌市 平成28年2月26日

形成外科

〈スタッフ〉

医 長：齋藤 亮（平成23年4月～）

レジデント：星野 善允

（平成27年7月～平成28年3月）

〈人 事〉

平成25年4月からはスタッフ1名で診療にあっていたが、平成27年7月に星野医師が着任し、2人体制で診療を行っている。

〈診療活動〉

概要

当科の診療活動は、眼瞼下垂症や皮膚・皮下腫瘍などを扱う一般形成外科と、悪性腫瘍切除後の組織欠損に対する再建を行う再建外科を2本の柱としている。再建外科領域では、他診療科とのチームサージャリーになることが多く、平成27年度では、頭頸部外科6件、腫瘍整形外科18件、乳腺外科50件などとなっている。

外来診療

形成外科の一般外来は月、金曜日の午前と、水曜日の午後に行っている。火曜日の午前にリンパ浮腫セラピストとともにリンパ浮腫外来（完全予約制）を実施している。また月曜日の午後は、外

来で小手術を行っている。

入院診療

形成外科の計画病床数は1床である。平成27年度の入院患者は73名で、大半は手術治療目的であった。

手術

形成外科の手術日は水曜日の午前（局所麻酔手術）と木曜日の午前（全身麻酔手術）である。定期的形成外科手術以外に、他診療科との共同手術

を多数行っている。

平成27年の全身麻酔手術件数＋入院手術件数が140件を超え、日本形成外科学会教育関連施設に承認された。

〈研究活動〉

日本形成外科学会や日本創傷外科学会などの全国学会や地方会などへの参加・発表を行っている。

病理診断科

〈2015年度の概況〉

例年通り、病理診断科の仕事、A B Cの記述から。A B Cは主要な3つの業務、Autopsy, Biopsy diagnosis, Cytologyそれぞれの頭文字をとったものである。2015年の年間（1月から12月）検体数はそれぞれ、4体、5,649件、11,1094件であり、これらの検体をおよそ65,000枚のガラススライドを使って17,580枚の診断書を書いていることになる。手術中の迅速組織診断は呼吸器外科を中心に111件を行っており、迅速細胞診は乳がんおよび子宮がんのセンチネルリンパ節検索を中心に331件行っている。診断書を書くために病理医が近年最も頼りとしているのが免疫染色であり、自動免疫装置は2011年の2月からRoche社のBenchMark GXと同じくUltraで行っているが順調に稼働している。免疫染色は検査遂行に多くの高額な生物検査試薬を必要とするが、これ抜きでは今日の臨床のニーズにはもはや応えられない。2015年度は研究用も含めて10,365枚の染色を行っている。

腫瘍の組織型診断にとどまらず、がんの分子標的治療は対象となる症例を選び出す観点から、免疫染色、FISH等の分子遺伝子学的検索への要望をますます強くし、治験も含めて外部検査機関へのガラス標本の提出要請も増え続けている。検査機器の整備、試薬費用がかさむため、これらをす

べて院内の検査として取り入れることは難しいが、様々の状況を考慮しながら今後柔軟に対応して行く必要がある。2014年度から開始したHER2 DISHは前述のUltraを使って2015年度は123件実施している。

これらの仕事を2名の病理専門医（山城、鈴木）と6名の臨床検査技師（平、東、中島、阿部、岸、松谷）で遂行している。ここ数年は3名の病理医で診断を行ってきたが、武田が2015年10月にKKR札幌医療センター斗南病院に異動となるも後任がみつからないため、北海道大学大学院医学研究科腫瘍病理と北大病院病理診断科からの診療支援を受けている。4月に奥山が旭川医療センターの病理主任技士として昇任異動となり、入れ替わりに東が復帰してきた。産休の開けた阿部には11月から再び病理細胞診の業務についてもらっている。小関は恵佑会札幌病院に就職した。診断書を発行するだけでなく、臨床とのカンファレンスも頻繁に行い、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、腫瘍整形外科、血液内科、泌尿器科、乳腺外科、婦人科との定期的カンファレンスを行っている（毎週6回程度）。CPCは剖検数が少ないため、2015年度は2回と低調であった。

院内の診断業務に加えて、地域病院の診断を支えるべく、遠隔病理診断も行っている。1998年よ

り行っている術中迅速診断の支援は2015年には国立北海道医療センターを中心に88件の診断を行った。細胞診の遠隔病理診断（テレサイトロジー）も1997年より行っており、AppleのiChatのデスクトップ画面共有機能を使い、市立稚内病院、北海道医療センターからの症例、総数で800件余の診断を行っている。

以上のようなルチン症例の診断業務に加えて学術活動も積極的に行い、2015年度に刊行された論文は英文雑誌での発表はなかったが、筆頭者が当科所属の論文は4編であった。学会、研究会での発表は15回であった。山城と平は国立病院機構の支援を受けた研究班の班員として研究(計4研究)を行っている。本来の意味の学術活動ではないが、2016年1月16日にはがん診療連携拠点病院機能強化事業として昨年に引き続き細胞診の研修会を行い、本年度は「子宮頸部細胞診」をテーマとし、80名の参加を得て開催することができた。良悪性の診断にとどまらず、組織型確定に果たす細胞診の役割は大きくなっており、WHO分類の改定を踏まえた細胞診について、参加者は実際の標本を

多数鏡検しながら細胞像について学んだ。

〈2015年度病理診断科のトピック〉

身体の深部病変を画像診断で的確に把握し、その性状を確定するための検体採取法が飛躍的に改善され、微小検体での病理診断の要望が強くなっている。肺、縦隔、脾などの後腹膜および腹腔内臓器への超音波画像を駆使した穿刺生検診断がそれである。診療科別では2015年度実績で放射線科、消化器内科、呼吸器内科が大半を占め、3診療科合計で、組織診断で293件、細胞診で282件となっている。組織診断とともに細胞診も同時に行われる症例がほとんどで、採取検体の処理が課題となっている。検体が微小という限界を持ちながら、それらを組織診断、細胞診断用、遺伝子検査用に的確に振り分け、診断に有効な標本を作製するべく、細胞診の豊富な経験を有する検査技師が生検現場に出向いて検体処理を行っている。一般的にRapid on-site evaluation, ROSEと呼ばれるものだが、当院独自の検体処理も加えて、大きな成果を上げてきている。

臨床検査科

〈スタッフ〉

科長	鈴木 宏明	
技師長	志保 裕行	
副技師長	佐藤 路生	
主任技師	平 紀代美	千葉 朝彦
	高橋 学	若月 香織
	東 学	堀井 美往
技師	古川 郁子	佐々木和也
	中島真奈美	鮫川 正美
	原 真希子	対馬 将文
	前野まどか	阿部 珠美
	若松垂由子	舛本 和
	岸 千夏	飯田 岳陽
	松谷香奈子	館山 ゆう

検査助手：井上 明美

認定技師：細胞検査士	4名
超音波検査士	4名
認定血液技師	1名
認定臨床化学者	2名
緊急検査士	2名
臨床工学技士	1名

〈概要〉

平成27年度、スタッフの人数は検査技師22名、検査助手1名で9部門（生化学、免疫血清、血液、微生物、輸血、病理、細胞診、一般検査、生理機能）の臨床検査業務を行った。臨床検査実績を以下に記載する。

平成27年度 臨床検査実績（臨床検査新統計より）
検査件数（研究件数は除く）

検体検査件数	1,571,118件
生理機能検査件数	2,4748件
外部委託検査件数	24,160件

検査点数（C類）

入院	34,579,183点
外来	54,533,936点
計	89,113,119点

外部委託金額 34,523,391円

委託先 札幌臨床検査センター
三菱化学メディエンス
BML
SRL

〈診療活動〉

- 1) 超音波検査の増加に対応するため、心臓エコー検査予約を1週間に7枠、腹部エコー検査予約を1週間に15枠増やして、5月より開始した。
- 2) 外来患者では蓄尿が困難であるため、尿電解質検査を随時尿で対応できる仕組みを構築し、外来の対応を7月より開始した。
- 3) 肺がんALK検査について、すべて外部委託検査で対応していたものを、まず院内でIHC検査を行い、陽性の場合のみを外部委託で

FISH検査を行なうように変更した。

- 4) 外部委託していた大腸がんEGFRの免疫染色を院内検査に取り入れた。
- 5) 臨床検査科内では、各部門担当による勉強会が3回行われた。タイトルは、「細菌検査室の緊急検査～インフルエンザウイルス検査とノロウイルス検査について～」「当院の婦人科細胞診“要精査”の向こう側～子宮頸がんを中心に～」「やってみよう!! CPX」。
- 6) 外来採血のサポート体制を1名から2名へ変更して、支援強化を行った。

〈研究活動・その他〉

- 1) 学会・研究会発表・講演など20件、論文発表・著書1件がなされた。
- 2) 日本医師会主催の臨床検査精度管理において、総合評価が100点と満点の成績で、過去最高の点数を収めた。
- 3) 「平成27年度 第6回医療安全際」においてすぐれた活動であると認められ最優秀賞を受賞した。
- 4) TQM活動にも積極的に参加しており、平成27年度も臨床検査科の認定書を掲示し、患者サービスの一環として季節毎の飾り付けを行っている。
- 5) 治験、臨床研究に関わる業務も昨年度に引き続き行われ、治験の前処理等の業務支援を強化した。

薬剤科

〈スタッフ〉

薬剤部長：遠藤 雅之
 副薬剤部長：川口 啓之
 副薬剤部長：山岸 佳代（平成27年4月～）
 調剤主任：菊地 実
 治験主任：菊池 和彦（～平成28年3月）
 試験検査主任：田中 寛之
 製剤主任：玉木 慎也
 薬剤師：桃井 祥制（平成27年4月～）
 工藤 雅史、高田 慎也、
 高津 和哉（～平成28年3月）、
 元茂 拓法、田島 宏恵、林 直美、
 木村 雄太、深井 雄太、
 渡邊はるか（～平成27年3月）、
 黒田 真希、三浦 清文、森岡 悠紀、
 村上 寛和（平成27年4月～）、
 久保果央莉（平成27年4月～）
 薬剤助手：中村 飛鳥、堀田 陽香、
 小滝江梨子、上川なな実

〈概要〉

今年度より「薬剤科」から「薬剤部」に名称変更となり、また人員についても新人薬剤師1名が配置され、薬剤師定数が充足するに至った。

薬剤部では主に10部門（薬務、調剤、無菌製剤、試験検査、製剤、医薬品情報、薬剤管理指導、病棟、教育、治験）で業務を行っている。

平成26年10月より病棟薬剤業務を開始し1年半の実績となった。業務としては医薬品の投薬状況の把握、カンファレンス参加、持参薬の管理等を行っており、医薬品の使用にあたってエラーの防止、情報の供給等、適正な管理を進めていきたい。

〈診療活動〉

平成27年度は入院分では、4～5%程の増減があったが外来分においてはほぼ同様となった。（表1、2）

表1 処方箋枚数 (枚)

	H26年度	H27年度
入院処方箋	90,192	94,681
入院注射処方箋	205,317	195,189
院内外来処方箋	3,597	3,531
外来注射処方箋	13,445	13,146

表2 調剤料

	H26年度	H27年度
入院調剤料 (点)	829,181	825,727
外来調剤料 (点)	21,761	23,170
合計請求点数 (点)	850,942	848,897
合計請求金額 (円)	8,509,420	8,488,970

薬剤管理指導業務に関しては、前年度の9.3%増で13,205件となり増収となった。(1,100件/月) (表3)

表3 薬剤管理指導料

	H26年度	H27年度
薬剤管理指導件数	12,052	13,205
指導料 (点)	4,371,205	4,788,110
含加算合計 (点)	4,481,565	4,897,120
合計請求金額 (円)	44,815,650	48,971,200

抗がん剤の無菌調製件数は、昨年度より10.5%増え、1,831.6件/月の調製を行っている。外来化学療法加算は患者数も増え8.7%増となった。(表4)。

表4 無菌製剤処理料、外来化学療法加算

	H26年度	H27年度
無菌調製件数 (件)	19,899	21,979
無菌調製処理料 (点)	669,190	709,880
外来化学療法加算 (点)	3,226,180	3,506,040
合計請求点数 (点)	3,895,370	4,215,920
合計請求金額 (円)	38,953,700	42,159,200

表5 主な診療報酬による収入金額 (円)

	H26年度	H27年度
調剤料	8,509,420	8,488,970
薬剤管理指導料	44,815,650	48,971,200
抗がん剤無菌製剤等	38,953,700	42,159,200
がん患者指導管理料 ³	996,000	1,070,000
病棟薬剤業務実施加算	11,729,000	23,431,000
薬学実務実習研修費	4,981,720	3,973,720
合計金額 (円)	109,985,490	128,094,090

その他、年間12名の薬学実務実習生の受け入れやリスクマネジメント、ICT、緩和、NST等のチーム医療に参画している。

昨年10月より算定を開始した病棟薬剤業務実施加算について、今年度は1年間の実績となった。基本的な業務としては、投薬・注射に関する基礎

的事項の把握、医薬品安全性情報等の収集・供給、持参薬の管理、他の医療スタッフとの協働等があげられ、その算定要件として、これらの業務を20時間/週以上実施することとされる。今後も「20時間/週以上」の業務配分を確保しつつ、医薬品の適正使用に寄与していきたい。

28年度は包括支払い方式DPC/PDPS導入することとなるため、医薬品費の縮減を目的に後発医薬品への切り替えを進めてきた。そのところ昨年26年度末で後発医薬品率64.9%（使用数量割合）であったのに対し27年度は85.1%となり大きく増やすことが出来た。

研究業績に関しては、日本薬学会、日本TDM学会日本臨床腫瘍薬学会等の学会発表13題の他、論文2報であった。治験については、治験管理室参照。

診療放射線科

〈スタッフ〉

診療放射線技師長：関澤 充規
 副診療放射線技師長：林 隆司、岩井 光宏
 主任：松山 智志、島 勝美、田中 知、
 坂 名美子、北尾 友香
 技師：長内 秀憲、迎 知将、森 彩絵未、
 松下 典弘、菊地 恵介（～6/30退職）、
 斉藤 優一、柴山 航平、船山 恭祐、
 鈴木 崇久、矢ヶ部りな、種村 圭介、
 佐々木麗衣、星野 広大、古館 勲
 石川 唯子（7/1採用）
 診療エックス線助手：阪 文恵

〈診療活動〉

MRI装置、PET装置など稼働年数が10年を超える機器の故障が目立つ年となったが、各診療科の協力により影響が最小限に抑えられていることに感謝したい。業務取扱件数では放射線治療部門のOBIシステム装備のリニアック装置の稼働は

順調であり、IGRT加算の件数は今年の2割増の約3,954件、IMRT件数は5パーセント増の3,222件、体外呼吸同期照射件数は今年の288件より8割増の514件と大幅に増加した。高精度放射線治療は1件ごとの固定具作成に始まる治療計画作成、各プランの線量検証測定に十分な所要時間が必要であり今後、高精度放射線治療システムとして追加整備が望まれる。体外照射件数は昨年を下回り23,451件であった。

MRI検査数は年間平均件数4,600件からさらに200件多い4,838件であった。1日あたりの平均件数19.7件は1台での運用の限度である。ほぼ1週間後の予約待ちの状況のなか新病院計画ではMRI検査室は2室を予定し、MRI検査件数増加にも対応が期待できる。乳腺撮影は5,864名の撮影を行ない今年の件数の約1割増となり年々増加の一途をたどっている。術前MRIの位置合わせを含めて女性技師によって対応している。また、検診マンモグラフィ撮影認定技師5名により、次

年度に認定期間満了となるマンモグラフィ検診施設画像認定の更新準備が進められている。64列マルチスライスCTの稼働件数は昨年並みの件数であったがX線管球の交換もなく、稼働は順調であった。CTによる手術前評価となる肺血管、腹部血管等の3D画像処理は年間件数429件のなか肺動静脈の3DCT検査は192件と全体の4割強を占めた。腹部血管の3D画像作成の画像処理には細かな血管走行を見極める経験と作業時間を要するため、複数ライセンス契約による3D画像作成を分担処理にできる環境は良好である。

5年間在職された古舘技師長は定年退職となったが、再任用制度により4月1日より1年間の勤務を継続された。代わって函館病院より新任技師長として関澤が着任した。年度途中の6月には自己都合による菊地技師の退職があったが、翌月よ

り市内の病院にて職務経験1年の石川技師の採用がありスタッフ数の欠員となる期間がなく活動を継続できた。新病院建築計画について放射線治療科、診断科、診療放射線科をひとつとした放射線ワーキンググループのなか診療放射線科は放射線治療部門、RI検査部門、撮影部門として取り組み各機器整備計画、配置計画の提案について難航したが、MRI装置の増設計画もレイアウトできた。

〈業務実績〉

年間取扱い総数 83,565人

CT検査 17,827人 MRI検査 4,838人

乳腺撮影 5,864人 RI検査 (PET含む) 2,671人

放射線治療 23,451人 定位照射、IMRT照射 310人

IGRT加算件数 3,954件

栄養管理室

〈スタッフ〉

栄養管理室長：長澤真由美

管理栄養士：野崎志寿加、川合 彩絵

管理栄養士：田澤依麻里

調理師長：南里 康夫

副調理師長：手代木 真

主任調理師：川端 英樹、中前 好裕

調理師：黒岩 勉、東 良造、木村 雅仁

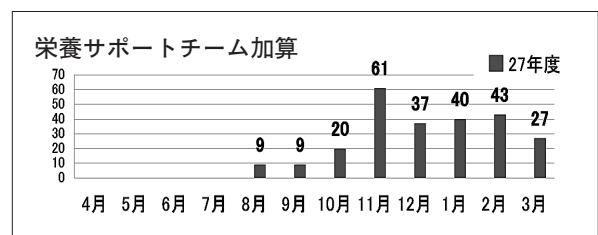
調理師：掛水 裕志、佐藤 直人

〈活動内容〉

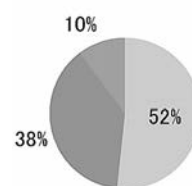
栄養管理室では「医療安全対策の充実を図り、安全で、美味しく、食べやすく、疾患の治療に有効な食事を提供する」を目標に、患者給食、栄養計画の実施、栄養指導の業務を行っている。

今年度の新しい取り組みの一つである、栄養サポートチーム加算取得は平成27年8月より実施され、平成28年3月までの介入患者数は62名で、246件の介入を行った。介入理由は、食欲不振、低栄

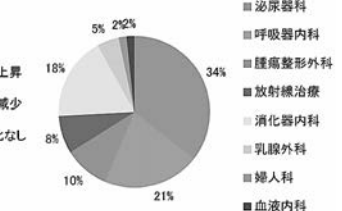
養、るい瘦の順に多く、Albの経過が介入終了時に上昇した患者は約50%おり、診療科別介入状況では、泌尿器科、呼吸器内科、腫瘍整形外科の順に依頼が多かった。また「がんサポーターズ・ケアを考える会」では、NST活動を始めてから10年目を向かえた今年度に「当院でのがん患者へのNSTの取り組み」と題して講演を行った。



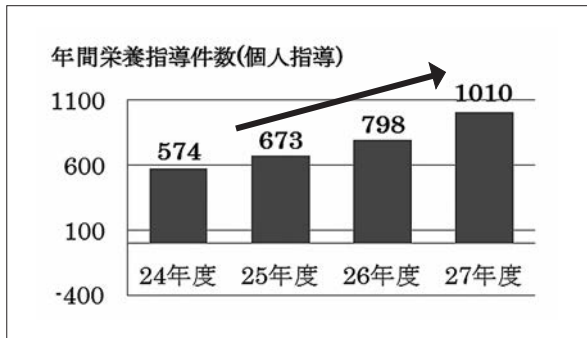
【Albの経過】



【診療科別介入状況】



更に栄養指導では、患者さんに「また、栄養指導を受けたい」と思って貰えるように、話し方、栄養指導媒体の繰り返しの見直し、急な依頼にも柔軟に対応する体制作りなどを行った結果、外来での継続患者の増につながり、平成24年度と比べると平成27年度は約2倍に栄養指導件数が増加した。



患者サービスの取り組みでは、目標の一つでもある「地域医療の向上のために必要とされる病院として、患者への協力、教育を行うように努める」を実践している。「がんと闘う医療フェスタ」においても楽しくゲームを組み入れながらの個人栄養相談コーナーを設け、150名の方と接することが出来た。

更に北海道対がん協会主催の「がん予防学級講習会」では「がん予防に役立つ食事について」の内容で講演を行った。

入院患者へのサービスの取り組みは、病棟スタッフの協力を得て、「デザートの日」を開催しています。全病棟のフロアにて全患者さんを対象にデザート（手作りチョコバナナクレープ・スイートポテト等）やお茶のサービスを行い、315名の患者さんと栄養管理室スタッフとのふれあいの場となった。また、クリスマスには「手作りクリスマスケーキ」、大晦日には「お神酒」を提供している。

今後も新しい取り組みを積極的に行っていく予定である。



<H27年度の取り組み>

<H27年度の取り組み>		行事食
4月	特別食にも、味付けごはんを提供	昭和の日
5月	経管栄養（プルモケア）を新採用	憲法記念日 こどもの日
6月	臨地実習	
7月	臨地実習	土用の丑の日
8月	食事調査 栄養サポートチーム加算取得 臨地実習	七夕
9月	第6回医療フェスタ 臨地実習	秋分の日 敬老の日
10月	病棟デザートの日 臨地実習	ハロウィン
11月	医療安全祭	勤労感謝の日
12月	手作りのクリスマスケーキの提供 お神酒の提供	クリスマス 大晦日
1月	調理室環境改善（調理機器・配膳車）	お正月料理 成人の日
2月	調理室環境改善（配膳車）	節分 バレンタインデー
3月	栄養補助食品見直し（テルミール→クリミール）	おひな様 春分の日

治験管理室

〈スタッフ〉

治験管理室長（内科系診療部長）：高橋 康雄

治験管理事務局長（薬剤部長）：遠藤 雅之

治験管理係長（副薬剤部長）：山岸 佳代

治験主任：菊池 和彦

副看護師長：樋口 清美

CRC薬剤師：田島 宏恵

CRC薬剤師：高津 和哉

CRC看護師：佐藤 好美

CRC看護師：宇野 麻美

サポートCRC：宗方 淳子

データマネージャー：有田 未来

データマネージャー：草岡 怜

業務班長：山我 健

治験事務室員：橋田 直美

治験事務室員：盛永真由美（～平成27年6月）

治験事務室員：藤橋 佳子（～平成27年7月
～平成27年8月）

治験事務室員：大谷 佳恵（平成27年9月～）

〈概要〉

当室は、副院長直下の組織として治験管理室長の指導の下、医薬品・医療機器に対する企業主導治験、医師主導治験、医師の臨床研究を円滑に実施するための支援を行っています。また治験審査委員会と受託研究審査委員会の事務局も兼ねており、市販後調査も含め事務全般業務を任せられ、試験開始前から終了まで手続きに関する対応や必要な書類の管理を行っています。

〈CRC業務〉

平成27年度は治験管理係長として副薬剤部長が専任で配置されました。新しいCRCも配置されたため、教育プログラムを使用しながらベテランCRCとペアを組み業務にあたりました。平成27年度、CRCが支援した治験は58プロトコールあり、新規受託プロトコール数は14件で、診療科7、第I相1件、第2相1件、第III相12件でした。

〈学会発表〉

・高津 和哉

放射線同位元素内用療法の治験を経験して：第69回国立病院総合医学会（27.10.3）

・樋口 清美

抗悪性腫瘍薬第I相試験のCRC業務についての一考察：第69回国立病院総合医学会（27.10.3）

〈治験事務局業務〉

平成27年度IRBの開催は、定期開催として12回行われました。

主な内容としては、新規治験の受託14件、新規臨床研究19件、新規調査11件、副作用調査5件、継続審議132件でした。

〈受託研究実績〉

平成27年度の目標請求金額1億6千万円に対し1億5,700万円で、全国国立病院機構143施設中6番目の請求金額でした。

平成25年度治験等出来高実績：129,075,420円

平成26年度治験等出来高実績：147,356,553円

平成27年度治験等出来高実績：157,526,076円

平成27年9月5日（土）に当院で開催された、北海道がんと闘う医療フェスタでは、治験管理室として治験啓発パネルの掲示、啓発資料の配布を行い、「ちけんくん」も大人気でした。



看護部

看護部長：三好 康子

副看護部長：本間 睦子

水野 智美

○ 看護部の理念

患者さんの目線に立った、心のこもった看護を提供します。

○ 看護部の基本方針

- 1 患者さんの権利を尊重し、満足が得られる看護を目指します。
- 2 常に看護の質を追求し、科学的根拠の基づく看護を実践します。
- 3 他職種と協働し、患者さんが安心して療養できる環境を提供します。
- 4 専門職業人としての自覚を持ち、自己の能力開発に努めます。

○ 看護部の目標・評価

1. 安全で安心できる質の高い看護を提供する
 - ・新採用者29名のうち、職場不適應で1名の新人が離職した。看護師全体の離職率は5%と、前年度の7.8%、また北海道全体の病院離職率9.8%、札幌圏内の病院離職率11.6%と比べても離職率は低くなっている。但し、離職者が5年目以内の看護師が多く、中堅看護師育成の面では課題である。
 - ・慢性期－急性期コースで受け入れた1名はOJT等のフォロー体制により、職場にも適応し実践者としても成長できた。
 - ・接遇面では、患者からの苦情もあったが昨年より感謝の言葉が増えた。
 - ・転倒転落件数においては、年々件数は減ってきているがレベル4が1件、レベル3bが8件あった。
この件数は、前年度とほぼ同数であった。
2. 組織の体制改善と整備を図る

- ・看護必要度を15%に維持し、ICUを施設基準から外し病棟人員を確保できた結果、6月から7：1看護体制を獲得出来た。今年度は離職者が少なかったため、人の補充もせずに必要時間数の確保と看護必要度も維持することができた。
 - ・12月に緩和ケアセンターGMを配置することが出来、緩和ケアセンターの基礎体制は整えることができた。また、がん看護外来は全国のがん拠点病院と比しても、高い実績となっている。
3. 病院経営へ積極的に貢献する。
 - ・看護必要度を適正に評価し、15%を維持したことで入院基本料7：1を確保できた。しかし、診療報酬改定により看護必要度が25%となり、7：1入院基本料を死守するため25%達成に向けた対策を検討中である。
 - ・効率的なベッド管理では、当該病棟は診療科別となっており、当該科を主としたベッド管理の考えとなっている。この事が病床利用を不効率に運用している一因ともなっている。
今年度からDPCの運用も始まり、看護必要度の確保の面から、効果的効率的病床運用を検討していく必要がある。

○看護部の概要（平成27年4月1日現在）

看護職員数：317名（内男性7名）

看護師：316名

准看護師：1名

非常勤看護師：29名

看護助手：3名、非常勤看護助手：26名

看護職員配置：10対1（6月～7対1）

【専門看護師】

がん看護専門看護師 2名

【認定看護師】

皮膚・排泄ケア認定看護師 2名

緩和ケア認定看護師 2名（5月～）

がん化学療法看護認定看護師 3名

がん放射線療法看護認定看護師 1名

乳がん看護認定看護師 1名(5月～)
感染管理認定看護師 2名

がん性疼痛看護認定看護師 1名(12月～)
治験コーディネーター (CRC) 3名

2 F病棟

看護師長：村松真由美

副看護師長：長内 亜希

佐々木あゆみ

(がん放射線療法看護認定看護師)

○ 病棟紹介

- ・病床数 56床
- ・診療科 放射線治療科、頭頸部外科
血液内科

・病棟の特徴

当科は放射線治療科・頭頸部外科・血液内科の3科からなる混合病棟である。

放射線治療科：外照射・小線源治療を行い、多数の診療科の患者が対象となっている。脳転移・骨転移の患者も多く、疼痛コントロールや精神症状の緩和も行っている。

頭頸部外科：咽頭癌・舌癌・甲状腺腫瘍など約150件／年の手術が行われ、放射線治療・化学療法と併せ治療を行っている。術後の障害に、早期からオリエンテーションで説明を繰り返し、術後障害の軽減に努めている。

血液内科：無菌室2床有し、化学療法を行っている。長期治療に対する不安や苦痛の精神的・身体的症状の緩和を行っている。

○ スタッフ

- ・医師 放射線治療科4名・頭頸部外科3名・血液内科4名
- ・看護職員 師長(1名)副看護師長(2名)
看護師(27名)看護助手(3名)

○ 年度目標・評価

1. 患者・家族の視点にたち、安心・安全な看護を提供する
2. 職場環境を整え働きやすい職場を目指す
3. 個々の看護実践能力を高める
4. 病院経営に参画する

以上の目標に対し、

1. マニュアル・決まりごと・6Rを徹底し薬剤に関するインシデントが減少した。3b事例の転等もなく予防対策ができた。
2. 業務改善により3時間以上の超過勤務削減ができた。
3. 新採用者へ職場適応の支援を行い全員1年目の目標を達成できた。
4. 必要度A・Bクリア率15%以上を目指し正しい必要度の入力を行ったが14.5%に留まった。肺SRTパス1件作成できた。

4 A ICU病棟

看護師長：窪田 明子

副看護師長：片山かおり

板垣 依子

田中亜希菜

○ 病棟紹介

- ・病床数 60床（4 A 54床 ICU 6床）
- ・診療科 呼吸器外科 消化器外科 乳腺外科
- ・病棟の特徴

当科は呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科の急性期・混合病棟である。患者の90%が悪性腫瘍であり手術を主体とした治療と化学療法・放射線療法を行っている。患者の個別性を尊重して、医師、看護師だけでなく薬剤師・理学療法士・栄養士・医療ソーシャルワーカーと連携をとりながらそれぞれが専門的な立場でがん患者を支援している。

ICUでは、重症で緊急性の高い患者さんや手術後(特に長時間手術)の集中治療ケアの役割を担っている。入室科は呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、婦人科、泌尿器科、腫瘍整形外科、頭頸部外科である。各診療科特有の周手術期看護を行い、異常の早期発見と同時に、早期離床に向けて医師や臨床工学士、理学療法士等と連携を密にし、安心して治療・ケアを受けていただけるように24時

間継続的かつ集中的に看護を行っている。

○ スタッフ

- ・医師 呼吸器外科5名 消化器外科5名
乳腺外科7名 MA1名
- ・看護職員 師長(1名)副師長(3名)
看護師(41名)看護助手(4名)

○ 年度目標・評価

1. 安全で安心できる看護を提供する
2. 意識改革をして職場環境を整える
3. 病院経営に積極的な参画を行う

以上の目標に対して、

1. 看護カンファレンスを充実させ、患者さんの情報共有を密にした。また6R・Wチェック・指差し、呼称を実施し、確認不足によるインシデント削減に努めた。
2. 看護業務の見直しを行い、超過勤務時間の増加はなかった。
3. 平均在院日数21日と昨年より1割以上減少した。

また、看護必要度の知識を深め、15%以上を維持できた。

4 B病棟

看護師長：上村 雅恵

副看護師長：高瀬たまき

太田 絃子

○ 病棟紹介

- ・病床数 50床
- ・診療科 呼吸器内科48床・その他2床
- ・病棟の特徴

当科は呼吸器内科の単科病棟であり、主な疾患は、肺癌で腫瘍の診断と治療を行っている。入院患者のほとんどは悪性腫瘍で、治療は放射線療法、化学療法また治験も行っている。

対がん協会や他院からの紹介も多く、BF検査の短期入院が増加している。

入院患者の平均年齢は、64～67歳で、男性が6～7割を占めている。再発また、骨転移、脳転移

から原発として肺癌が確定することも多く、緩和ケアチームや理学療法も含み、共になん治療における身体的・精神的症状の緩和を行っている。

○ スタッフ

- ・医師 呼吸器内科（5名） MA（1名）
- ・看護職員 看護師長（1名）副看護師長（2名）
看護師（29名）看護助手（2名）

○ 年度目標・評価

1. 安全で安心な看護を提供する
2. 専門職としての看護実践能力向上をはかる
3. 病院経営を意識し、積極的に取り組む

以上の目標に対して、

1. 病棟学習会および、院内・院外研修へも参加し病棟全体の知識向上に努めた。

新人・既卒者が多く、経年別研修を含めスタッフ一丸となって教育に取り組んだ。

インシデントについては、レベル3の件数減少に取り組み、業務御の見直しをはかり対策の周知

2. 病棟での学習会を年4回実施。その他院内・外の研修に1人平均9回参加し自己研鑽を図っている。
3. 一日平均入院患者数は45.2名を維持し、平均在院日数を在院日数は33.7日と前年より6.6日縮減した。

時間外勤務は1人あたり6.82時間であり、昨年より縮減された。

看護必要度のダブルクリア率は15.64%に留まったが、スタッフの意識は高まった。

5 A病棟

看護師長：島崎かほり

副看護師長：山野下祐子
片岡 麗子

○ 病棟紹介

- ・病床数 58床
- ・診療科 婦人科
- ・病棟の特徴

当科は婦人科のみの単科である。主な疾患は子宮筋腫、卵巣腫瘍などの良性腫瘍の他、卵巣癌・子宮頸癌などの悪性腫瘍が90%近く占める。治療は、手術・化学療法・放射線療法があげられる。また間欠化学療法や再発患者、終末期の患者もあり、治療内容は多岐にわたっている。

婦人科の特性やがん拠点病院の使命を理解し、他職種と連携し専門的なチーム医療の提供を目的としている。また女性としての社会的役割や立場を理解し、患者の視点にたった看護が求められている。

平成27年度の患者データは、手術件数約620件
平均在院日数11.5日、病床稼働率82%

○ スタッフ

- ・医師 婦人科8名 MA1名
- ・看護職員 師長（1名）副師長（2名）
看護師（27名）看護助手（3名）

○ 平成27年度目標・評価

1. 心が通った、安全で質の高い看護を提供する
2. 職場環境を整え、ワークライフバランスの充実を図る
3. 病院経営参画意識を高め、具体的行動が出来る

以上の目標に対して、

1. 患者様の声を真摯に受け止め、接遇向上に努めた。日々のインシデントは全員で情報共有し、対策を立て、昨年度より減少した他職種との連携を密にし、受持看護師として意識付けや役割

などを少しずつ明確にし、関わっていくことが出来た。

2. パスの修正、作成も随時行い、それに伴う記録時間の短縮に結びつけることができ、超過勤務減少につながった。

3. 7：1入院基本料取得、維持のため、看護必要度の確実な取得に対し、スタッフ一人一人が知識向上に努め、看護必要度は17.6%を維持出来た。

5 B病棟

看護師長：早坂砂江子

副看護師長：工藤由香里

○ 病棟紹介

- ・病床数 49床〈無菌室2床〉
- ・診療科 血液内科
- ・病棟の特徴

当科は血液内科疾患単科の病棟である。

主な疾患は、悪性リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などで、治療としては抗がん剤による化学療法、免疫抑制療法、輸血、放射線療法、造血幹細胞移植（自家移植・同種移植）などを行っている。治療のサイクルから入院日数が長いケースが多く、難治性や再発例もあり、入退院を繰り返すことも多い。

疾患と治療からの特徴として骨髄抑制や免疫力の低下が見られるため、医療者・患者自身・又面会者の手指衛生、マスク着用を徹底するなど感染予防対策に力を入れている。また血小板減少により出血しやすく、貧血によるめまいやふらつきによる転倒を起こすことも予想されるため個別性に合わせた対策をとっている。入院期間が長期にわたること、また予後不良例も多く精神的なケアが

大切となるため、プライマリーナースを中心に関わりを持っている。

○ スタッフ

- ・医師 血液内科医師4名
- ・看護職員 看護師長（1名）副看護副師長（1名）看護師（26名）看護助手（2名）
メディカルアシスタント（1名）

○ 年度目標・評価

1. 事故防止と感染防止に努め、安心・安全な看護を提供する

2. 血液疾患患者の看護の質の向上を図る

3. 業務を改善し病院経営への参画を図る

以上の目標に対して、

1. インシデント発生時はカンファレンスで情報を共有し、再発防止につとめた。

アクシデント事例の発生はなかった。

2. Dr他職種とのカンファレンスを毎日行い患者さんの病状、治療を踏まえた関わりを行った。

3. スタッフ、助手と協力しながら病棟内の5Sに努めた。他科入院も積極的に受け入れた。

6 A病棟

看護師長：市川 祥子
副看護師長：古俣 郁子
正木あゆみ

○ 病棟紹介

- ・病床数 60床
- ・診療科 消化器内科 60床
- ・病棟の特徴

当科は消化器内科単科の病棟である。

消化器系の疾患の診断と治療を行っており、悪性腫瘍が95%以上で、入院患者の半数が、膵臓がん・大腸がんで占めている。疾患に対し内視鏡治療、化学療法、放射線治療を行い、肝臓腫瘍などには血管造影検査・治療を行っている。術前検査も行われ、外科チームとの連携も図っている。

緩和ケアチーム・NST・リハビリ・WOC・薬剤師・MSW等、他職種との連携を図り、疼痛のコントロールを図り、治療に伴う身体的・精神的症状の緩和を行っている。終末期の患者さんも多く、家族を含めたケアを心がけ、安全・安楽に入院生活送れるための看護援助を提供している。

○ スタッフ

- ・医師 消化器内科 7名
- ・看護職員 師長（1名）副師長（2名）看護師（30名）看護助手（フロア 3名）MA（1名）病棟薬剤師（1名）MSW（1名）

○ 年度目標・評価

1. 安心・安全な看護を提供する
2. 働きやすい職場環境を整備する
3. 病院経営に積極的に貢献する

以上の目標に対して、

1. インシデント件数は多かったが、レベル3 b以上の報告は0件であった。
2. 年次休暇一人平均14日、昨年とほぼ同程度取得し、超過勤務は月平均一人14.5時間であった。
3. 看護必要度15%以上、病床稼働率95%以上を維持した。パスは3件新規作成した。

6 B病棟

看護師長：戸田久美子
副看護師長：鈴木 綾子
星 亜紀

○ 病棟紹介

- ・病床数 50床
- ・診療科 泌尿器科 35床・皮膚科 1床・循環器内科 3床・乳腺外科 2床
眼科 1床 回復室 2床

・病棟の特徴

当科は泌尿器科・皮膚科・循環器内科・乳腺外

科・眼科からなる混合病棟である。

泌尿器科は腎・前立腺・膀胱・精巣などの診断と治療を行っている。特に前立腺についてはダヴィンチが主流の手術となっている。他に放射線、化学療法があげられ、ターミナル期における緩和ケア対象の患者も多い。患者の年齢層については20代から90代と幅が広い。患者は羞恥心、ボディイメージの変化がありそれらに配慮し、早期にセルフケアの獲得に向けてストーマ造設やセルフカテの必要な患者に指導を行っている。皮膚科は主に皮膚がんの手術治療を行っている。循環器内科

は糖尿病に対する血糖コントロール、食事・運動・薬物療法について患者教育を行なっている。また、睡眠時無呼吸症候群の診断のためのPSG検査も行っている。乳腺外科は診断のためのマンモトームを行なっている。眼科は白内障手術目的が主である。

○ スタッフ

- ・医師 泌尿器科4名・皮膚科1名・循環器内科2名・乳腺外科5名・眼科1名
- ・看護職員 師長（1名）副師長（2名）看護師（27名）看護助手（フロア3名）MA（1名）

○ 年度目標・評価

1. 安全・安心な看護サービスを提供する。

2. 時間外労働を縮減して、ワークライフバランスの充実。

3. 病院経営に貢献する。

以上の目標に対して、

1. 在院日数が短い科であるが、プライマリナースとしての自覚を持ち看護が実践できた。またカンファレンスで患者の情報の共有ファレンスを通し、チーム全体で一貫性のあるケアができた。
2. 機能別看護を一部取り入れ時間外勤務の短縮が大幅にできた。
3. 患者・家族に対して笑顔での挨拶と苦情に対して真摯に対応した。
4. 看護必要度の評価を適正に行い月平均25%以上維持した。

また、特別室の稼働率90%を維持した。

7 F 病棟

看護師長：天野 麻美

副看護師長：宮原 由紀

宮崎 絢香

○ 病棟紹介

- ・病床数 60床
- ・診療科 腫瘍整形28床・乳腺外科26床
緩和ケア内科3床・形成外科1床・他2床
- ・病棟の特徴

当科は腫瘍整形・乳腺外科・緩和ケア内科・形成外科の4科からなる混合病棟である。

腫瘍整形外科は骨、筋肉などの腫瘍の診断と治療を行っており、治療は手術・放射線療法・化学療法があげられる。年齢層は小児～老人と幅広い。

乳腺外科は乳がんの治療を専門とし、手術を主に放射線治療・化学療法による治療をしている。また、マンモトームやRI+色素を用いたセンチネルリンパ節生検を行っている。

形成外科は乳がん術後の乳房再建のほか、小耳症・ケロイド・熱症潰瘍・唇裂など、幅広く体表面の先天異常・後天性変形を組織の移植で正常に修復する。

緩和ケア内科では、緩和ケアチームと連携を図りがん治療における身体的・精神的症状の緩和を行っており、患者様と御家族の身体と心の変化に添うように心掛け看護を実践している。

○ スタッフ

- ・医師 腫瘍整形外科3名・乳腺外科6名
形成外科1名・緩和ケア内科2名
- ・看護職員 師長（1名）副師長（2名）
看護師（27名）看護助手（3名）MA（1名）

○ 年度目標・評価

1. 安全・安心な看護サービスの提供
2. がん看護の実践の向上をはかると共に目標を

意識した行動ができる

3. 病院経営に積極的に参画する

以上の目標に対して、

1. 身だしなみを整え、思いやりのある対応を心がけた。また、医療事故防止に努めた。

2. 院内／院外研修に年3～4回以上は参加し自己研鑽を図った。

3. ベッド稼働率は84.0%、一日平均患者数は50.4人であった。

手術センター

看護師長：前田 裕美

○ 手術センター紹介

- ・手術室：7室
- ・診療科：呼吸器外科、消化器外科、婦人科、腫瘍整形外科、乳腺外科、泌尿器科、形成外科、皮膚科、眼科、緩和ケア内科、放射線科等
- ・手術センター

手術室は、平成27年度は、月平均256.6件、全身麻酔1,980件、脊椎麻酔222件、静脈麻酔118件、迷走麻酔17件、局所麻酔734件であった。

安全で安心の医療を提供する、コスト削減に努め効果的な手術室運営を図るという運営方針の下、手術関連診療各科医師、麻酔科医師、手術室看護師、臨床工学技士が連携を一層強化し、役割を果たしている。

最近5年間の手術件数の推移

年度	手術件数
平成23年	2,519件
平成24年	2,757件
平成25年	2,827件
平成26年	2,834件
平成27年	3,079件

○ スタッフ

- ・麻酔科医師 5名
- ・看護職員
師長（1名）
副看護師長（1名）
看護師（19名）
看護助手（6名）

○ 医療機器等の導入・整備等

- エコパルザー 1台
- 超音波洗浄機 1台
- 恒温槽 1台

外 来

看護師長：植杉みゆき

○外来診療科

消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・血液内科・胆膵内科・腫瘍整形外科・乳腺外科・消化器外科・泌尿器科・婦人科・眼科・頭頸部外科・皮膚科・緩和ケア内科・形成外科・放射線科・脳神経外科・心臓血管外科・精神保健科（休診中）

○外来の特徴

外来は、都道府県がん診療連携拠点病院として計画数593.5人に対し、今年度は600.4人であった。外来では、乳がん・子宮がん検診・遺伝子先端医療外来・ペプチドワクチン外来などが関係する特殊外来の他、睡眠時無呼吸外来・禁煙外来・リンパ外来・看護外来も行っている。外来治療センターは、化学療法・輸血などの治療を行い、1か月平均600件あり、増加傾向にある。

<外来化学療法件数の推移>

年度	化学療法件数
平成24年度	4,904件
平成25年度	6,198件
平成26年度	7,056件
平成27年度	7,259件

○スタッフ

看護師長 1名、副看護師長 2名

看護師 20名、非常勤看護師 31名

看護助手 1名、クラーク 12名

○平成27年度目標

1. 安全で安心な看護サービスを提供する
2. 働きやすい職場環境を整える
3. 看護の質の向上のために、各科の専門的知識を身につける

感染対策室

<スタッフ>

- ・医療安全管理部長（副院長併任）
加藤 秀則
- ・感染対策室長（血液内科医長併任）
黒澤 光俊
- ・副感染対策室長（消化器外科医長併任）
前田 好章
- ・感染対策係長（専従 感染管理認定看護師）
一戸真由美
- ・感染管理認定看護師（手術室副看護師長）
栗山 陽子

<主な感染管理活動>

患者および職員の医療関連感染予防のため、経

済的かつ安全で効果的な感染対策を検討、実践、評価する活動を行う。

1. 組織活動（委員会活動）
 - ・院内感染対策委員会、感染対策チーム部会、感染対策看護部会を、毎月1回定例開催
 - ・リンクドクター、リンクナースは、各部署の委員会報告や現場の問題点の提示、現場での指導や感染対策の改善を実施。
 - ・リンクナースは、手洗いチェック・演習、環境チェックラウンド等、感染対策改善を実施。
2. 感染対策マニュアルの改訂等
 - ・改訂：廃棄物の取り扱い、スタンダードプリコーション、血流感染防止、洗浄・消毒・滅菌、感染症法と報告体制、インフルエンザ。

- ・作成：新興感染症等対応マニュアル（MERS）

3. 教育活動

【全職員対象研修会】

- ① 6月22日「職業感染とインフルエンザ」講師：総合診療医・感染症医／感染症コンサルタント 岸田直樹先生（参加数129名：医師13名、看護師100名、コ・メディカル・その他16名）
- ② 10月6日「環境の清潔管理」講師：西朝江先生 札幌医科大学付属病院／感染管理認定看護師（参加数63名）
- ③ 11月19日・20日「医療安全祭」環境衛生、輸入感染症ポスター展示、防護具展示、N95マスク演習等（参加数380名：医師22名、看護師216名、コ・メディカル・その他119名）
- ④ 7月～10月：手洗い演習（参加数379名：医師27名、看護師322名、看護助手30名）

【eラーニング教育】

- ① 5月～3月「職業感染防止」（実施数347名）
- ② 10月～11月「Noro's Outbreak」（実施数247名）
- ③ 5月～6月「注射薬調製方法・血流感染チェックリスト（知識確認）」（実施数：254名）
- ④ 11月～12月「注射薬調製方法・血流感染チェックリスト（自己チェック）」（実施数：292名）

【その他の研修会】

- ① 4月2日：新採用者研修（54名）
- ② 7月29日、8月18日看護助手研修（27名）
- ③ 4月6日：感染対策看護部会：リンクナーズの役割（12名）

4. 感染症の発生状況

- ・新規MRSA検出数（入院患者、平成27年1月～12月）：42件、2 SD 0.61。11月に1病棟で2件新規検出（他に既検出1名在院）し調査。回腸導管術後患者の指導時に使用する、ストーマケア用品の共有を廃止し全て単包へ変更。接触予防策、環境整備の徹底を指導し改善。
- ・感染性胃腸炎：職員の報告・休務24件（ノロ検出無し）。患者報告12件（ノロ検出1件）。

- ・新型の流行が懸念されたが、当院の集団発生無し。

- ・インフルエンザ：患者累計31件（4～5月：12件、1月～3月19件）。職員累計40件（4～5月：5件、1月～3月19件）。市内の流行に伴い院内でも発症者が増加し、2病棟で3名以上発症時点で病棟閉鎖した（①2月8日～1病棟で患者3名、職員1名発症し8日間閉鎖。②2月9日～1病棟で患者7名、職員2名発症し6日間閉鎖）。面会制限の徹底、共用部使用禁止、入院転入出制限、同室者への予防内服を実施。

5. 職業感染防止

- ・針刺し・血液曝露：17件。うち手術部が7月までに5件続き、医療安全係長とOP室看護師と対応を検討し、その後減少。
- ・HBワクチンプログラム、年2回実施を実施
- ・職員インフルエンザワクチン接種：職員612名（94.3%）

6. サーベイランス

- ・全入院患者対象MRSAサーベイランス継続
- ・針刺し／切創サーベイランス（エピネット）継続
- ・厚生労働省、院内感染対策サーベイランス事業参加（検査部門、手術部位感染部門）開始

7. その他の活動

- ・がんと闘う医療フェスタ：一般参加者向けに手洗い演習、ATP値を測定する「スマホATP選手権」が好評だった。次年度も改善し実施。
- ・第69回 国立病院総合医学会主催スタッフ（抄録／プログラム校正、当日会場スタッフ等）
- ・多施設合同カンファレンス開催：他院2施設（東札幌病院、札幌緑愛病院）と、年4回（6月2日、9月1日、11月10日、2月2日）
- ・感染防止対策地域連携加算による相互ラウンド：加算1施設2病院と三者間で実施。9月18日 札幌厚生病院による当院への訪問・評価。11月16日 札幌医科大学付属病院への訪問・評価。

院内感染対策委員会

委員長：近藤 啓史（院長）
副委員長：加藤 秀則（副院長）

〈常任委員〉

院長、副院長、統括診療部長、臨床研究部長、医療安全管理部長（副院長併任）、臨床検査科長、薬剤科長、臨床検査技師長、看護部長、事務部長、感染対策室長、副感染対策室長、感染対策係長（感染管理者）、医療安全管理係長（医療安全管理者）、企画課長、管理課長、専門職、栄養管理室長、産業医、衛生管理者、消化器科医長、血液内科医長、呼吸器内科医長、細菌検査主任技師、主任薬剤師、感染管理認定看護師、手術センター（中材）看護師長

〈委員会 開催状況〉

毎月第2火曜日に定例会議を開催。平成27年度は12回開催。臨時院内感染対策委員会の開催はなし。

〈委員会活動〉

患者および職員の安全を図り院内の医療関連感染の防止および伝播拡大防止のため、下記の項目や院内感染対策に関する事項について、諮問・審議・決定を行う。

- ・院内の感染症発生・拡大防止に関すること
- ・院内感染サーベイランスの実施指導及び評価に関すること
- ・院内感染に関する調査研究、特殊疫学調査の実施及び指導に関すること
- ・対策要綱の作成、実施及び指導に関すること
- ・抗菌薬の適切な使用の指導と監視等に関すること
- ・院内感染防止等に関する職員の教育・研修に関すること
- ・その他、院内感染対策に関する事項に関すること

〈委員会議題〉

定例会議では、毎月の院内感染関連微生物検出状況の報告、感染対策チーム委員会およびICTの活動報告、その他、検討が必要な感染防止対策について審議し、対策を決定した。（詳細内容は、表1参照）

表1 定例会議 議題一覧

開催月	議 題
4月	1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 ・ICTラウンド結果報告、今年度のラウンド計画について ・今年度の活動計画案について ・院内のインフルエンザ発生状況 ・抗がん剤の廃棄方法変更に伴う廃棄物マニュアルの変更について ・国立病院機構内院内感染報告制度の設置について
5月	1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 ・ICTラウンド結果報告 ・ICT主催感染管理研修会内容について ・院内の感染症発生状況（4月分：インフルエンザ、感染性胃腸炎疑い） ・多施設合同感染対策カンファレンスについて ・厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）事業参加状況に関する調査派遣について 3) 院内感染対策委員会規程 改訂について
6月	1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 ・ICTラウンド結果報告 ・感染管理研修会について ・院内の感染症発生状況（5月分：インフルエンザ、ムンプス疑いおよび子供からの曝露） ・針刺し・切創報告 3) MERS対策と対応マニュアルについて

7月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 • ICTラウンド結果報告 • 院内の感染症発生状況（6月分：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（保育所）、セレウス菌による血流感染、患者の水痘発生について） • PICC挿入時の消毒薬について（1%グルコン酸クロルヘキシジンアルコール使用） • 針刺し・切創報告 3) 平成26年度抗菌薬使用状況
8月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 • ICTラウンド結果報告 3) 針刺し・切創報告 4) 病院新築に伴うアスペルギルス対策について
9月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 • ICTラウンド結果報告 • インフルエンザワクチンの接種について • 中心静脈カテーテル挿入部の消毒について（マニュアル改訂） • がんと闘う医療フェスタの出展について 3) 職員の麻しん・風しん・ムンプス・水痘抗体価検査について
10月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 • ICTラウンド結果報告 • 院内の感染症発生状況（9月分：全身性帯状疱疹、感染性胃腸炎疑い） • インフルエンザワクチンの接種について • 感染防止対策地域連加算の相互巡視について • eラーニングについて • 第2回感染管理研修会報告
11月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 • ICTラウンド結果報告 • 第2回感染管理研修会報告

11月	<ul style="list-style-type: none"> • 院内の感染症発生状況（10月分：感染性胃腸炎疑い） • インフルエンザ対策について 3) 感染防止対策地域連加算の相互巡視について 4) 医療安全祭について 5) 札幌市新型インフルエンザ発生時の医療体制整備について 6) 未滅菌の物品使用のインシデントについて
12月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 • ICTラウンド結果報告 • インフルエンザ、感染性胃腸炎対策について 3) 針刺し・切創報告 4) 職員インフルエンザワクチン接種について
1月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 • ICTラウンド結果報告 • ノロウイルス、インフルエンザ発生状況 • 患者のインフルエンザワクチン接種状況 • 厚生局施設基準に係る適時調査について 3) インフルエンザマニュアル改訂について
2月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 • ICTラウンド結果報告 • ノロウイルス、インフルエンザ発生状況 • 厚生局からの指摘事項への対応について • 今年度の反省・評価
3月	<ul style="list-style-type: none"> 1) 院内感染関連微生物検出状況報告 2) 感染対策チーム委員会報告 • ノロウイルス、インフルエンザ発生状況 3) 厚生局適時調査の改善報告書について 4) 次年度の感染管理目標、活動計画（案）について 5) SSIサーベイランス還元情報と当院の結果について

医療安全管理室

〈スタッフ〉

医療安全管理部長 副院長：加藤 秀則（平成25年4月～）

医療安全管理室長 副院長：加藤 秀則（併任）
（平成25年4月～）

医療安全管理係長 看護師長：大野 祐子（平成27年4月～）

〈医療安全管理目標と評価〉

- 患者及び職員が安心（安全）できる医療の提供
 - 各部署の医療安全目標の取りくみを発表
 - 全職員対象のBLS研修を全6回実施
 - レッドコールシュミレーションの実施
- 転倒・転落事故件数を減少させる（5件以内）
 - 頭部打撲や外傷の対応として「時間外頭部外傷フローチャート」を作成した。
 - 転倒防止ラウンドによる防止活動の推進
 - 3b事例が9件（骨折3件、縫合処置4件、頭部外傷2件）レベル4が1件と目標は達成されなかった。
 - 「全転倒転落件数に占める3b以上の割合」は3.42%であった。
- 新病院設計に向けての医療安全面での取り組み
 - 各部署で施設見学から学んだことをWGに生かした。
- 全国医療安全共同行動の参加と取り組み
 - 患者確認の内服・注射のアンケートを実施した。
 - 患者誤認に関するインシデントは、18件。
- 教育・研修・情報発信により安全情報の共有
 - SAFTY News・医療安全情報の提供
 - eラーニング5つのプログラムを実施
 - 医療安全管理マニュアル平成28年2月改訂

〈その他の活動内容〉

今年度は、10月より開始した「医療事故調査制

度」に伴い、医療安全管理指針・規定・マニュアル・変更、院内事故調査委員会の規定作成を行った。

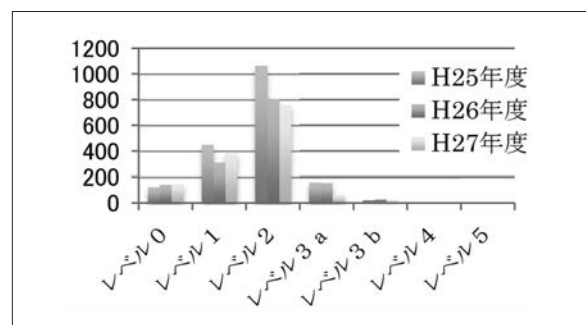
11月には本制度について研修を行い、職員の周知に努めた。

また、11月より「転倒・転落発生時の対応」を検討し、医療安全管理マニュアルの修正・追加と時間外頭部外傷診断フローチャートを作成した。

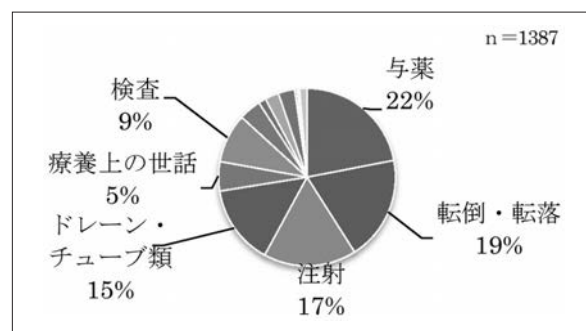
〈インシデント・アクシデント報告〉

平成27年度の報告総数1,387件、3b以上のアクシデントレポートは28件だった。アクシデント事例の内訳は、手術13件、転倒・転落9件、治療・処置2件、器械・機器3件、ドレーン0件、その他0件だった。

全報告件数では与薬に関する304件（21.9%）、転倒転落に関する263件（18.9%）、注射に関する235件（16.9%）、ドレーンチューブ類201件（14.5%）であった。



(図1) 影響レベル分類別集計（平成25～27年度）



(図2) カテゴリー別割合

〈医療安全研修〉

平成27年度は医療安全に関する研修・講義を全16回実施した。研修参加者は延べ1,394名であった。研修後eラーニングを配信して実施率は41%であった。主な研修としては、下記の通りである。

- 5月19日「I'mSAFER事例分析」
- 7月7日「輸液ポンプについて」(医療機器研修)
- 8月6日「チーム・ステップス」

- 10月20日「救急カートの薬品について」(医薬品研修)
- 11月20・21日 医療安全祭
- 11月5日「患者トラブル・クレーム対応」
- 11月17日「医療事故調査制度」
- 11月20・21日 医療安全祭
- BLS研修：4月、5月、7月、8月、11月に実施

医療安全管理委員会

委員会議長：加藤 秀則

定例委員会は、毎月第3水曜日に実施し、平成27年度は12回、臨時医療安全管理委員会を4回開催した。

定例会では、毎月のインシデント・アクシデント件数の集計報告と、各部門からの事例報告、医療安全研修内容の伝達やその他医療安全推進部会で意見のあった改善を必要とする内容について検討した。

また、今年度は10月より医療事故調査制度が開始となり、それに伴う医療安全管理指針・規定・マニュアルの改訂を実施した。

表1 医療安全管理委員会議題一覧

開催月	内 容
4月	○平成27年度の活動について ○インシデント・アクシデント報告 ○平成26年度インシデント・アクシデント集計報告
5月	○インシデント・アクシデント報告 ○医療安全推進部会チーム活動について ○各部署の医療安全目標について ○Aiの医療安全管理マニュアルの改訂

6月	○インシデント・アクシデント報告 ○患者相談フローチャートについて ○医療事故調査制度について
7月	○インシデント・アクシデント報告 ○医療安全マニュアル 第I章 用語の定義の変更
8月	○インシデント・アクシデント報告 ○医療安全研修予定・eラーニングの状況
9月	○インシデント・アクシデント報告 ○医療事故調査制度に伴う、医療安全管理規定等の見直しについて
10月	○インシデント・アクシデント報告 ○レッドコールシュミレーションの報告 ○院内緊急フローチャート・院内緊急体制の取り決めの見直し・修正
11月	○インシデント・アクシデント報告 ○転倒・転落移送マニュアルの一部修正・追加 ○頭部外傷時の対応について
12月	○インシデント・アクシデント報告 ○放射線部門の特別指示の失認について ○時間外頭部外傷診断フローチャートについて
1月	○インシデント・アクシデント報告 ○時間外頭部外傷診断フローチャートの使用開始について

2月	○インシデント・アクシデント報告 ○医療安全管理マニュアルの更新終了 ○院内暴力等マニュアルの変更 ○平成27年度の活動評価
3月	○インシデント・アクシデント報告 ○平成27年度医療安全管理部目標と活動計画について

表2 臨時医療安全管理委員会開催内容

開催月	事例内容
6月	○継続中の損害賠償請求調停事件について
8月	○腹腔鏡手術による大量出血、手術中よりDICを併発し術後死亡事例について
10月	○入院中患者の急変後死亡について予期せぬ死亡かの検討
12月	○臨時手術施行後、上部消化管出血による死亡について

がん相談支援情報室

1. スタッフ（平成28年3月現在）

室長：加藤 秀則（副院長 医師）平成25年4月～
 係長：木川 幸一（社会福祉士）平成20年4月～
 室員：小寺 陽子（副看護師長）平成27年4月～
 室員：金澤 友紀（社会福祉士）平成21年8月～
 室員：西山 麻美（社会福祉士）平成25年10月～
 室員：敷浪 鈴江（社会福祉士）平成27年11月～
 室員：熊谷 愛子（事務助手）平成25年8月～

2. 概要

がん相談支援情報室は平成19年4月に開設し、以下の業務を行っている。

(1) がん相談（医療相談・よろず相談）

がんの罹患を契機として生じる様々な問題に対して、看護師とMSWが担当し、主に面談や電話による個別相談を行っている。平成27年度の相談件数は、9,600件（前年度8,340件）であった（図1参照）。相談内容内訳は、「医療機関の情報」7,360件、「日常生活に関する相談」1,653件、「一般医療情報」200件、「家族・職場・医療者との関係性に関する相談」56件、「患者会などの情報」32件、他299件となっている（図2参照）。

相談患者の受診状況（図3）に関しては、「当院受診なし」が6,220件で、65%が当院の患者さん以外の「地域からの相談」となっている。

今年度は、ハローワーク札幌東との連携により、

月2回の就労支援ナビゲーターによる「就職支援相談」を開始した。

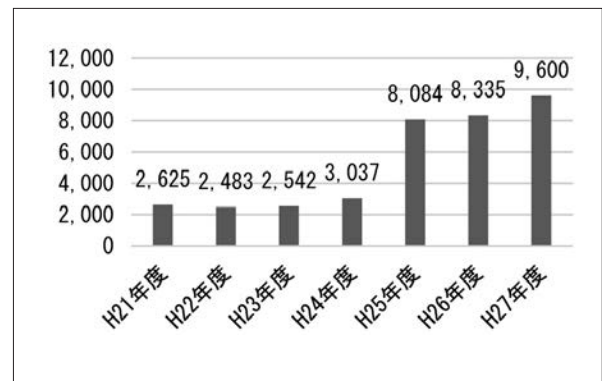


図1 年度別相談件数

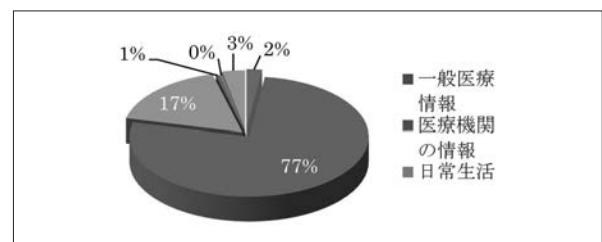


図2 相談内容内訳

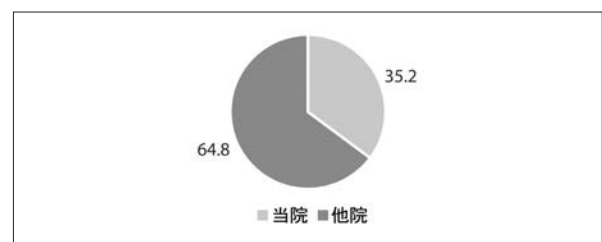


図3 相談者の受診先

(2) 情報発信・情報提供

昨年に引き続き「北海道がんサポートハンドブック」（編著：北海道がん診療連携協議会相談・情報部会）第2版を当院より発行し、がん相談支援センター前の情報コーナーに市民向け公開講座やがん情報パンフレット等とともに無料配布した。一般市民向け講演会は、6月27日、北海道がん講演会を実施し225名参加。9月5日、北海道がんと闘う医療フェスタ（共催：北海道）を実施し438名参加となった。

(3) がん患者会活動サロン「ひだまり」への支援

がん患者や家族等が心の悩みや体験等を語り合う活動を促進するため、平成19年8月に患者活動サロンを常設。各患者会、患者支援団体に場所を

無料で提供している。また、登録団体ボランティア合同で行っている「ひだまりサロン」を平成20年3月から開催し、毎月2回定期開催し、平成27年度は、延べ244名の参加を得た。

3. 都道府県がん診療拠点病院としての研修会実施

地域のがん相談員のスキルアップのため、北海道相談員研修を2回、北海道相談員スキルアップ研修として障害年金、就労支援をテーマに計6回開催した。北海道がん診療連携協議会相談・情報部会主催のがん専門相談実務者会議を4回開催し、北海道内のがん専門相談員間の連携を図り、積極的な活動を推進した。

地域医療連携室

1. スタッフ（平成28年3月現在）

室長：加藤 秀則（副院長 医師）平成24年4月～
係長：菊地久美子（看護師）平成24年4月～
室員：城ヶ崎友紀（看護師）平成27年4月～
室員：座間 知子（事務助手）平成27年7月～

2. 業務活動

平成15年8月から、札幌市内で17番目になる医療連携室をスタートしている。これは、当院のような重装備の病院と身軽で小回りの利く病医院との間でそれぞれの特徴を生かした医療を提供することで、患者さんの便宜を図ろうとする目的で設置された。

地域医療連携室の業務は主に病医院から紹介された初診患者さんが受診する際の予約受付業務、医療連携業務、退院調整業務となる。

I. 予約受付業務

表1は、地域における病医院からの紹介状況である。札幌市内では主に東区が全体の14%、中央区12%を占め、その他地域の病医院からのご紹介

を頂いている。また、市外からの紹介も28%と多い。

表2は、診療科毎の紹介状況であるが、婦人科18%、乳腺外科17%、腫瘍整形外科15%と多く次いで消化器内科、呼吸器内科共に10%となっているが全般的に当院の診療機能が道内に広く認知されていることを窺い知る事が出来る。また、今年度の紹介件数は4,416件となっており、昨年度（平成26年度は2,973件）と比較して32.6%増加した。

II. 医療連携業務

連携医療機関への情報提供

市民フォーラム 年1回（一般市民対象）

がん診療連携症例検討会 年2回実施

ミニ講演会 年3回

ホームページによる情報発信

その他医療連携に関すること

表 1

市区町村	H27年度紹介数	市区町村	H27年度紹介数
白石区	489	北 区	232
豊平区	343	東 区	637
中央区	521	手稲区	36
厚別区	478	市 外	1,180
清田区	120	道 外	58
西 区	152	不明他紹介状なし	112
南 区	58	計	4,416

表 2

診療科	H27紹介数	診療科	H27紹介数
循環器内科	29	泌尿器科	335
呼吸器内科	452	婦人科	775
消化器内科	421	頭頸部外科	143
胆膵内科	51	放射線治療科	346
血液内科	117	放射線診断科	10
消化器外科	103	心臓血管外科	0
呼吸器外科	102	形成外科	91
乳腺外科	734	眼科	12
腫瘍整形外科	645	脳神経外科	2
皮膚科	46	緩和ケア内科	2
		計	4,416

医療情報管理室

〈スタッフ〉

医療情報管理室長：高橋 将人（統括診療部長）
 診療情報管理係長：盛永 剛（診療情報管理士）
 診療情報管理士：杉山 聡（診療情報管理士）
 診療情報管理士：川吉 晶子（診療情報管理士）
 診療情報管理係：原 新（診療情報管理士）
 事務助手：非常勤職員 3 名

〈院内活動～医療情報管理室の業務～〉

医療情報管理室では、院内における診療情報管理業務を主に担当しており、平成20年11月からは、電子カルテの運用が開始され、運用等に関する事務局を当室が行っている。

電子カルテ導入以前から所在管理業務を行っており、入院カルテや資料（レントゲンや検査結果など）の貸出・返却業務を行っている。

当室にはスキャンセンターが併設され、取り込みが必要な記録類をスキャンし、原紙保管が必要な場合、患者個人フォルダへ保管し、フォルダの管理を行っている。

〈院内活動～DPC準備病院～〉

平成24年4月から当院はDPC準備病院として「DPC導入の影響評価に係る調査」へ参加し、当室では様式1の作成業務や形式データチェック及びデータ提出業務を行っている。

平成28年度からDPC対象病院となることを見据え、診療科別ヒアリングの資料作成などを行った。

〈がんネット関連の管理〉

平成26年度より院内で使用しているインターネット関連（がんネット）に関して、メールアドレスや端末の設定・管理を行い、セキュリティ強化に向けた取り組みや各種障害対応なども行っている。

〈委員会活動〉

院内の診療情報や電子カルテの運用に関する事項は「病院情報管理委員会」、DPCに関する運用については「DPC検討委員会」にて議論され当室は委員会の事務局を担当している。

「病院情報管理委員会」は12回開催され、一回の平均出席者数は、21.3名であった。(委員数30名)
また「DPC検討委員会(コアメンバー会議・医事課ヒアリング含む)」は4回開催された。

〈医療情報管理室の主な業務内容〉

- ・病院情報管理委員会事務局
- ・DPC検討委員会事務局
- ・電子カルテに関する運用及び管理
- ・がんネットに関する運営及び管理
- ・DPCの様式1作成業務及び運用管理
- ・入院診療記録類の所在管理
- ・記録類(紙)の製本作業
- ・退院時サマリーの作成依頼
- ・退院時サマリーのデータベース化
- ・各種統計作成
- ・スキャン業務
- ・その他、診療情報管理全般業務

〈業務件数〉

- 平成27年度
入院診療記録類 貸出件数 合計987件
・1日平均4.1件(平成26年度4.6件)
入院診療記録類 返却件数 合計1,114件
・1日平均4.6件(平成26年度4.1件)

〈スキャン業務〉

- 平成27年度
スキャン取込件数 合計116,346件
・1日平均478.8件(平成26年度414件)

〈電子カルテ障害対応報告〉

- 平成27年度～委託SE報告による～
障害対応件数 2,564件(平成25年度2,304件)
- ・電カル全般 1,697件(70.1%)
 - ・医事コン全般 77件(3.2%)
 - ・不具合報告 11件(0.5%)
 - ・要望報告 23件(1.0%)
 - ・ハード障害 578件(23.9%)
 - ・その他 178件(7.4%)

〈院外活動〉

- ・第41回日本診療情報管理学会への演題発表(盛永・杉山)
- ・第69回国立病院総合医学会への演題発表(盛永・杉山)
- ・日本診療情報管理士会評議員(盛永)
- ・北海道診療情報管理研究会理事(盛永)
- ・各種研究会などへの出席

がん登録室

〈スタッフ〉

院内がん登録室長：高橋 将人
(統括診療部長・医師)
院内がん登録係長：齊藤 真美
(臨床検査技師・診療情報管理士)
院内がん登録係：山口小百合
(看護師・診療情報管理士)

〈概要〉

2009年4月より「院内がん登録室」が開設された。日常業務は院内がん登録専門の職員2名で行っている。

〈業務活動〉

院内がん登録室では主に、データの登録作業、登録データの提出(地域がん登録・国立がん研究センター)、登録後の予後調査などの業務を行っている。登録業務は、国立がん研究センターが提唱している「院内がん登録標準様式」の項目に基づき行っている。2009年診断症例以降は入院・外来の区別なく全ての症例を登録している。臨床検査技師・看護師の資格をもつ情報管理士が精度の高いデータを提供できるよう各診療科医師協力のもと日々データの登録を行っている。院内への情報提供として会議で登録状況を報告するだけでなく、各診療科医師や各部署のスタッフよりデータの利用申請があればその都度データを提供している。北海道がん診療連携拠点病院として、がん登録実務者のための研修会を2回/年開催し、北海道のがん登録データの精度向上に努めている。

〈都道府県拠点病院としての活動〉

- 北海道がん診療連携協議会がん登録部会開催
- 北海道がん登録研修会開催(2回/年)
第1回目 2015年6月20日開催
第2回目 2016年2月20日開催

〈登録データ〉

登録件数は2009年-2013年まで、100件/年増加していた。2014年に一時的に減少した登録件数は2015年には増加傾向に転じた。(図1)

当院では男性の登録件数よりも女性の登録件数のほうが多い。(図2)

部位別に登録件数をみると、乳癌の登録数が非常に多いことがわかる。男性では、肺癌の登録件数が多く、次いで前立腺癌の登録件数が多かった。(図3)

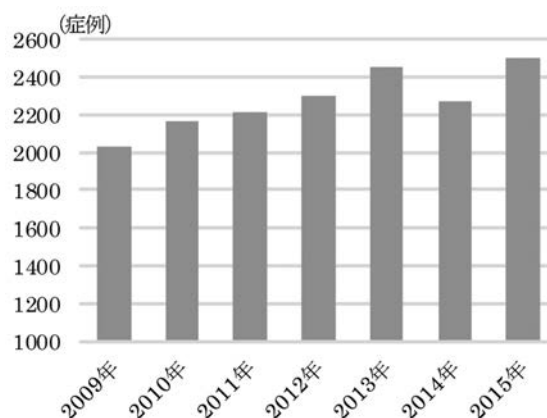


図1 登録件数の推移
(2009-2015年症例一部抜粋)

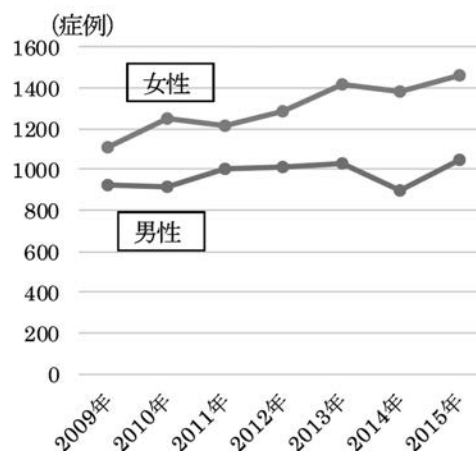
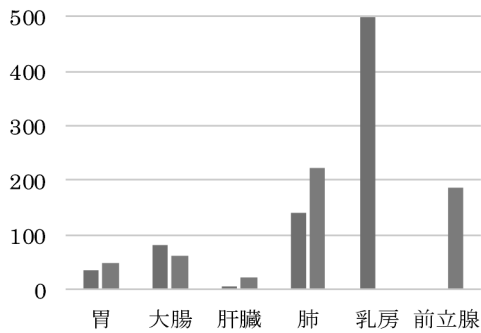
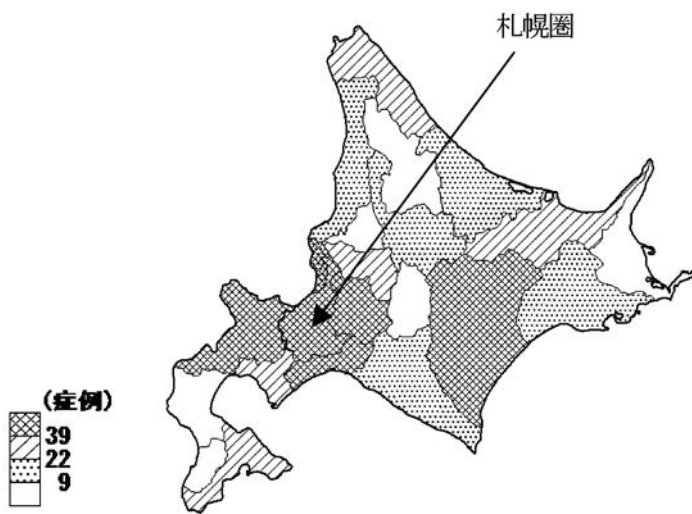


図2 男女別登録件数の推移
(2009年-2015年症例一部抜粋)



※乳房は女性のみ、前立腺は男性のみ
 ※各部位の右のグラフは女性、左のグラフは男性

図3 部位別登録件数 (2014年症例一部抜粋)



初診時住所別に登録件数を集計。色の濃い網掛け部分が登録件数の多い地域。札幌圏近郊の登録件数が多くなっている。白塗りの部分の登録件数は少ないが0 (ゼロ) ではない。(図4)

図4 保健医療圏別登録数

〈スタッフ〉

地域がん登録室長：高橋 将人
 (統括診療部長・医師)
 地域がん登録係長：齊藤 真美
 (臨床検査技師・診療情報管理士)
 地域がん登録係：非常勤職員6名

〈概要〉

北海道のがん登録事業は昭和47年に開始された。2009年4月より北海道庁の委託を受け北海道がんセンター内に地域がん登録室が開設された。2015年12月まで、各都道府県主体で行われてきたがん登録は、2016年1月1日以降は法律の下に整備さ

れて、国が主体となり「全国がん登録」として、再スタートした。このことにより、日本全体のがん罹患数を把握できるようになることが期待されている。

〈業務活動〉

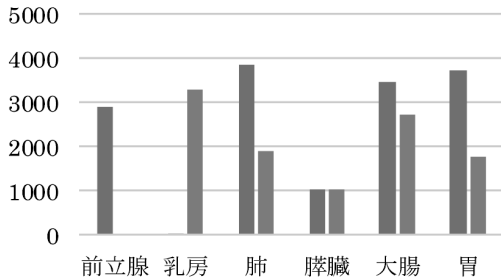
北海道内の各医療機関から送られてくる悪性新生物届出票や、保健所から送られてくる死亡小票をデータベースに登録する作業を行っている。登録されたデータをもとに「北海道のがん登録状況」の冊子を作成し、北海道のがん罹患、死亡の状況把握に努めている。

〈院外活動〉

全国がん登録説明会講師（北海道庁主催）
 がん登録研修会開催（がん登録部会主催）

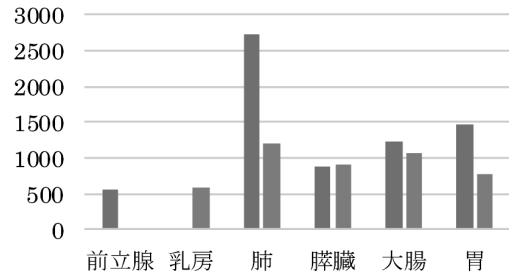
〈北海道がん登録状況（2012）掲載データ〉

1. 部位別罹患数（一部抜粋）



※各部位の右のグラフは女性、左のグラフは男性
 ※乳房は女性のみ、前立腺は男性のみ

2. 部位別死亡数（一部抜粋）



※各部位の右のグラフは女性、左のグラフは男性
 ※乳房は女性のみ、前立腺は男性のみ

臨床工学室

〈スタッフ〉

高橋 将人（臨床工学室室長（統括診療部長））
 黒川 健太（平成22年3月～）
 小島 啓司（平成22年10月～）
 正木 弦（平成23年5月～）
 小田嶋洋兵（平成25年4月～）

〈臨床工学室〉

血液浄化、循環器、消化器内視鏡などの臨床支援業務、医療機器の保守・管理業務を行っている。その他に、医療機器の研修も行っている。

〈活動〉

－臨床支援業務－

消化器外科での手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた手術が開始された。泌尿器科、婦人科、消化器外科の3科で、合計は83件となっている。消化器内科に胆膵疾患専門医師が来て、ERCP関連介助業務が増加し、機器準備・治療介

助・物品管理の業務を行っている。夜間・休日対応として人工透析、緊急内視鏡など対応を行っている。（表1）。

表1 各種業務件数内訳

業務内容	内容	件数
血液浄化 アフエレーシス業務	間欠的血液透析	24件
	末梢血幹細胞採取	16件
	腹水濾過濃縮再静注	10件
循環器関連業務	ペースメーカチェック	146件
	ペースメーカ設定変更	12件
	片肺動脈閉塞試験	1件
内視鏡業務	ERCP関連介助	215件
	ESD介助	60件
	その他介助、準備	76件
	緊急内視鏡（呼び出し）	14件
手術室業務	ラジオ波焼灼術（乳腺外科）	5件
	ロボット支援体腔鏡下手術	83件
その他業務	人工呼吸器	258件
	Nasal High Flow(NHF)	88件

－保守・管理業務－

医療機器の使用中に起きる様々なトラブルの一次診断や対処を行い、臨床工学技士により修理可能な機器は修理を行っている（図1、2）。

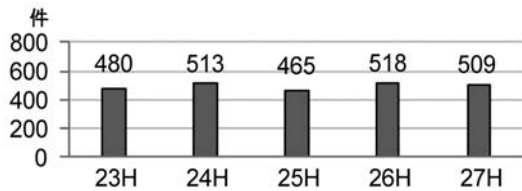


図1 年度別年間修理件数

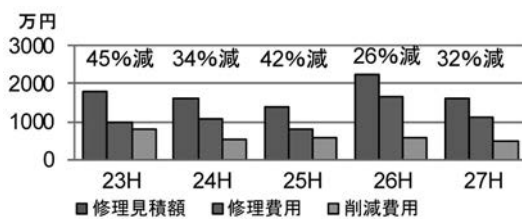


図2 年度別年間修理費削減費用

手術室に設置されている内視鏡洗浄器の始業点検、消耗品交換などの保守業務を開始した。人工呼吸器が新型呼吸器へ更新となった。病棟に人工呼吸器装着患者が転科するようになり、各病棟で人工呼吸器の説明会を開催した。機器修理に関わる研修に参加する事で、知識向上に努め、医療機器を安全に使用できるように看護師を中心としたスタッフへの教育を支援、実施している。（表2）

表2 院内教育研修

院内教育	対象
BLS研修	全職員
輸液・シリンジポンプ取扱い研修	新人Ns
人工呼吸器研修	看護師
除細動器体表ペースティング説明会	ICU看護師
緩和ケア勉強会 NHFについて	看護師

中央医療機器管理室で中央管理している医療機器は300台を超えており（表3）、始業点検業務と定期点検業務を行うことにより、機器の安全性と信頼性の確認、メンテナンスによる機器の性能維持に努めている。

表3 管理機器品目と管理台数

管理機器	管理台数
輸液ポンプ	155台
シリンジポンプ	80台
患者監視装置	45台
低圧持続吸引器	16台
電気メス	14台
麻酔器	6台
超音波ネブライザー	5台
パルスオキシメータ	5台
除細動器	5台
経腸栄養ポンプ	4台
AED	3台
人工呼吸器	3台
加温ハイフロー輸液ポンプ	1台
経皮的心肺補助装置	1台
空気・酸素混合装置	1台
個人用透析装置	1台
個人用RO装置	1台
合計	346台

〈27年度管理機器報告〉

- ・加温ハイフロー輸液ポンプ管理開始
- ・人工呼吸器2台廃棄更新
- ・低圧持続吸引器2台廃棄更新
- ・AED1台廃棄更新

Ⅲ 各院内センター活動報告

呼吸器センター

〈スタッフ〉

センター長：原田 眞雄（平成25年6月～）

以下の関連各科の部長、医長、医師

呼吸器内科

呼吸器外科

放射線治療科

緩和ケア内科

1. 創設の趣旨

「呼吸器センター」は、肺がんを中心とした呼吸器悪性腫瘍の診療を統合する新たな枠組みをつくり、今まで以上に質の高い安心できる医療を提供していくために平成25年6月に創設された。

「呼吸器センター」は、中心となる呼吸器内科と呼吸器外科に、放射線科と緩和ケア内科を加えた4つの診療科で構成される。肺がんの治療は複数の治療法が併用されることが多く各診療科の連携が不可欠であり、また高齢者や合併症のある患者さんの治療には柔軟で繊細な総合判断が要求される。これまでも診療科内および診療科間での定期カンファレンスを行ってきたが、さらに関連各科

の協力体制を強化していくことを目指す。

従来から呼吸器内科の入院待機期間が長かったが、関連各科の病床を流動的に最大活用することで患者さんの受け入れ態勢の改善を図っていく。

2. 低線量CT肺がん検診

当院でもようやく平成26年7月から、4大がん検診とのセットないしは単独で、低線量CT肺がん検診がスタートした。

説明文書を前もって郵送、問診票記載、同意文書署名後にCT検査を施行、放射線診断医と呼吸器内科医による2重読影を行い、結果は後日郵送で通知、要精検者は電話予約の上、呼吸器内科外来を受診していただくこととした。

27年度（27年4月～28年3月）の受診者は99名、要精検者は5名（要精検率5.1%）であり、この中から2名の肺がん（いずれもI期で完全切除）が発見された。

（平成28年4月 原田 眞雄）

■ サルコーマセンター

〈設立経緯〉

肉腫の発生頻度は上皮性腫瘍の1%未満と低いが、希少がんの約6割を占める。発生部位は全身の骨軟部組織に及ぶため、臓器ごとに診療範囲を担当してきた日本の診療体系ではさらに少数例を各科で別個に診療することになり、情報共有はすすまず治療開発は遅延してきた。平成24年に策定された「がん対策推進基本計画」の分野別施策と個別目標のその他に肉腫が取り上げられ、さらにチーム医療については「腫瘍センターなどのがん診療部を設置するなど、各診療科の横のつながりを重視した診療体制の構築に努める。」とされたこともあり、院長をはじめ病院幹部の協力を受け、平成25年10月1日にサルコーマセンターが開設された。

〈目的〉

開設時の目的として以下の4つを設定した。

1. 肉腫患者において各科の連携を円滑にし、迅速・円滑な診断、治療が行われるようにする。
2. 肉腫患者の集約化と、地域との連携強化により、道内の肉腫診療の質を向上させる。
3. 北海道内肉腫患者のデータベースの基礎を作る。
4. 都道府県がん拠点病院の機能の一つとして対外的にプロパガンダを行う。

〈現在の体制〉

当院では以前より腫瘍整形外科で肉腫を専門に診療し手術から薬物療法まで行ってきたが、縦隔・後腹膜・骨盤の軟部肉腫発生が多いこと、診断には放射線診断科と病理診断科の協力が、治療には放射線治療科と腫瘍内科の協力が必須であることを考慮し、9領域に及ぶ診療体制を構築した。

センター長 腫瘍整形外科 平賀博明
消化器外科 濱田朋倫、篠原敏樹

泌尿器科 原林 透、三浪圭太
呼吸器外科 有倉 潤、安達大史
婦人科 岡元一平、藤堂幸治
病理診断科 鈴木宏明、山城勝重
放射線診断科 市村 亘
放射線治療科 西山典明、小野寺俊輔
腫瘍内科 佐川 保
腫瘍整形外科 小山内俊久、相馬 有

〈診療活動〉

実際の診療については、すでに確立しているシステムと体制を有効に利用する方向で進めている。各科で肉腫患者が来院した際はすみやかに事務局に連絡し、事務局は電子カルテ上のメーリングリストとデータベースを用い、メンバー間での情報共有をはかる。診断方法と治療方針などをメーリングリストを通じて集約し、必要があればカンサードボードを利用して議論する。当座、事務局は腫瘍整形平賀が行っている。

現在までに登録された患者数は平成25年が4名、平成26年が16名、平成27年が14名、平成28年が19名である。発生部位は、後腹膜26名、腹腔内5名、骨盤腔内5名、縦隔5名、子宮3名、その他（胸壁・頭頸部、乳腺、精索）7名であり、予想されたとおり後腹膜腫瘍が大多数であった。登録時の状態としては、未治療患者が31名であり、そのうち局所限局例が23名、進行例が7名、当院治療後の進行例についての相談が4名、前医治療後が16名で局所限局例が13名（うち8名ですでに再発あり）、進行例が3名であった。サルコーマセンター登録後の治療は、術後に上皮性腫瘍と判明した1例を除いた51名中、すでに病勢進行のために治療不能であったものが8名、手術を行ったものが24名、薬物療法を行ったものが15名、放射線治療が7名であり、これらのうち6名が放射線治療、薬物療法、手術のうち複数の治療modalityを用いて治療された。その他、経過観察のみとしたも

のが3名である。

〈今後の展開〉

サルコーマセンター開設から約1年半が経過して診療そのものは円滑に動いてきており、道内他施設にも当センターの存在は少しずつ認知されてきている。一方、課題も多い。症例数の多い後腹膜肉腫は世界的にも標準的治療の確立にむけた臨

床試験が始まったばかりである。多分野にまたがる後腹膜腫瘍の診療に各々の科が納得して協力し、信頼できる情報として発信するためには臨床試験の立ち上げが必須と考えており、サルコーマセンターの活動の中心に据える必要がある。臨床試験が開始されれば、対外的な広報活動もいっそう充実すると思われ、ひいては道内肉腫診療の質向上という目的に寄与できると思われる。

高度先進内視鏡外科センター

センター長：原林 透

当センターは2013年11月に当院に導入された手術支援ロボットダヴィンチSiの運用を目的に設立されました。

運営は、泌尿器科、婦人科、消化器外科、呼吸器外科、頭頸部外科、乳腺外科、腫瘍整形外科、麻酔科、看護部、臨床工学士によってなされています。

これまでに、ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術（2014/1導入）、子宮悪性腫瘍手術（2014/7導入）、胃悪性腫瘍手術（2015/11導入）を行いました。

2016年3月までに施行した手術件数は、前立腺146件、子宮16件、胃3件にのぼります。

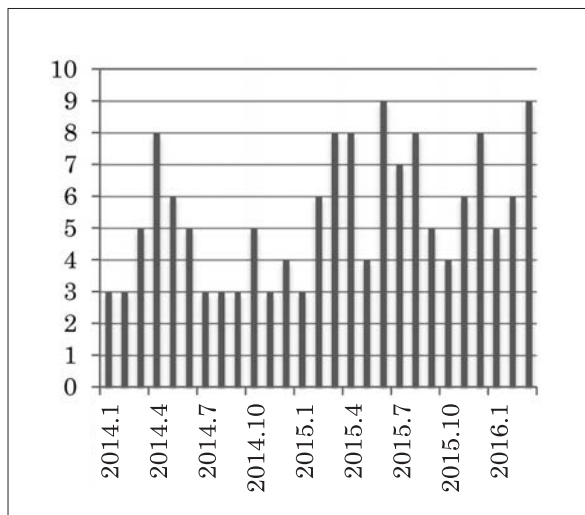
前立腺手術以外は、保険認可されていないため、院内倫理委員会の審査のもと、指導医を招聘し導入したのち、自由診療で行っています。2016年4月からは、小径腎

悪性腫瘍に対する腎部分切除術も保険認可され、当院も認可施設となりました。

札幌市内では6番目の導入施設ですが、独自の工夫で超音波画像診断を重ねあわせることで、より精密で根治性の高い手術を目指しています。その詳細については米国泌尿器科学会で報告してきました。

ロボット特有の欠点もありますが、拡大された3次元の視野で、手ぶれのない自由な剥離と運針ができる利点をいかすことのできる手術がさらにひろまるように、患者さんの安全に注意しながら努力を続けていきます。

前立腺手術件数



Intraoperative ultrasonography navigation using parallel-side docking technique during robotic-assisted prostatectomy.
 Toru Harabayashi, Keita Minami, Norikata Takada, Satoshi Nagamori.
 Department of Urology, Hokkaido Cancer Center, Sapporo, JAPAN.

Introduction
 Intraoperative transrectal ultrasonography (TRUS) during prostatectomy has been reported to be helpful to delineate the prostate contour, resulting in reduction of surgical margin rates. However, the standard position of robot, Da Vinci Xi, between the legs makes it difficult to manipulate ultrasonic probe.
 We evaluated the use of parallel-side docking technique for intraoperative TRUS navigation during robotic-assisted prostatectomy (RAP).

Patients
 From January 2014, a total of 100 consecutive patients underwent RAP. Forty-one patients (group 1) were in the standard position without TRUS navigation, and the 59 patients (group 2) were in the parallel-side docking with TRUS navigation.

Methods
 In the parallel-side docking technique, patients were placed in the narrow lithotomy position and the transrectal probe was on the plate between the legs. Incision and port placement were performed using the standard method. The robot was placed parallel to left side of the surgical table. The assistant surgeon controlled the ultrasonography probe from the right side and the surgeon performed dissection with aid of a console. The procedure.

Patients Characteristics

Item	Group 1	Group 2	p-value
Number	41	59	
Period	Jan. 2014	Oct. 2014	
Age, year	62	61	n.s.
PSA, ng/ml	105 (76)	100 (78)	n.s.
Mean lymph node	7.68 (3.6-14.0)	6.97 (4.0-36.7)	n.s.
RM, % ^a	22.4 (19.4-28.8)	24.5 (17.3-36.7)	n.s.
Neurovascular dissection	15 (37%)	24 (41%)	n.s.
Standard lymphadenectomy	7 (17%)	17 (29%)	0.23

Discussion
 Side docking for robotic radical prostatectomy is a viable alternative positioning technique for patients with hip abduction limitations. (Ulbert EE, JUS, 2011)
 Parallel side-docking allows easy accessibility to the perineum in the genitologic procedures. (Silverman S, J Robo 3, 2012)
 A custom made robotic TRUS manipulator system was attached to da Vinci system, and automatic rotation of the transrectal ultrasound was enabled such that the transrectal ultrasound imaging plane safely tracked the tip of the da Vinci instrument. (Mohaeri O, J Urol, 2015)
 Manual manipulation of ultrasonic probe by an assistant is easy in Xi system.
 Using our parallel side docking method, TRUS provided better visualization of prostate anatomy, while neither major alteration of surgical technique nor investments were required.

Item	Group 1	Group 2	p-value
Docking time, min	8 (5-19)	7 (3-12)	n.s.
Console time, min	146 (118-279)	142 (128-297)	n.s.
Operation time, min	227 (151-317)	330 (171-507)	n.s.
Estimated Blood Loss by Hct, mL	459 (70-962)	557 (11-1232)	n.s.
Intraoperative Loss	50 (1-950)	0 (1-1000)	n.s.
Loss (g)	700 (0-2900)	507 (0-367)	n.s.
Prostate weight (g)	40 (25-81)	44 (20-103)	n.s.

Item	Group 1	Group 2	p-value
#	41	59	
pT2	3 (7%)	1 (2%)	0.31
pT3	6 (15%)	11 (24%)	1.0
Total	9 (22%)	12 (20%)	

Item	Standard	Parallel	p-value
#	41	59	
Contour	64%	56%	p=0.50
1st cut at RM (3-36)	82%	79%	
contour	26/40	33/59	
at 3M			

Conclusion
 Intraoperative TRUS navigation using parallel-side docking technique was helpful to reduce positive surgical margins in RAP. Neither major alteration of surgical technique nor investments were required.

■ 内視鏡センター

〈スタッフ〉

センター長：藤川 幸司

看護師：高森晴美**、田中仁美、伊藤有希子**、
伊勢修江、中村有紀

非常勤看護師：大塚保子*、梶谷智美*、田中和子
（*内視鏡技師、**カプセル内視鏡読影支援技師）

臨床工学技師：黒川健太、正木 弦、小島啓司、
小田嶋洋兵

看護助手：港みゆき

〈内視鏡設備〉

5月、消化管内視鏡設備のVPP契約更新をやめ、内視鏡・内視鏡光源装置・内視鏡ビデオシステム・内視鏡洗浄消毒装置・その他関連装置を新規購入した。保守についてはENDOCARE契約を行った。

10月、内視鏡業務支援システム（オリンパス Solemio ENDO）をVol4.1にバージョンアップし、医療情報を可視化し業務の効率化につなげている。

〈内視鏡実績〉（図1およびIV統計「年度別内視鏡検査件数」参照）

上部消化管内視鏡総数は2,834件（前年度比1.06倍）、下部消化管内視鏡総数は1,598件（前年度比1.14倍）、気管支鏡総数は306件（前年度比1.29倍）といずれも前年度を上回った。ESD総数も69件と前年度より増え、特に大腸ESDが増加した。胃癌検診も88件と検診患者の増加もみられた。

胆膵のエキスパートである林医師の赴任により、超音波内視鏡下吸引穿刺術（EUS-FNA）108件（前年度比4.7倍）、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査ERCP（処置を含む）121件（前年度比1.86倍）と急増した。ERCP困難例に対する超音波内視鏡下瘻孔形成術が可能となり、年間13例に施行され、胆膵領域におけるインターベンションの充実を図ることができた。

小腸カプセル内視鏡検査は46件と横ばいだが、

読影技師2名にて1次読影を即日行い、医師に報告することで早期診断を実践している。

〈研究活動〉（V 研究業績参照）

内視鏡洗浄について研究し、日本消化器内視鏡学会および内視鏡技師会にて発表した。

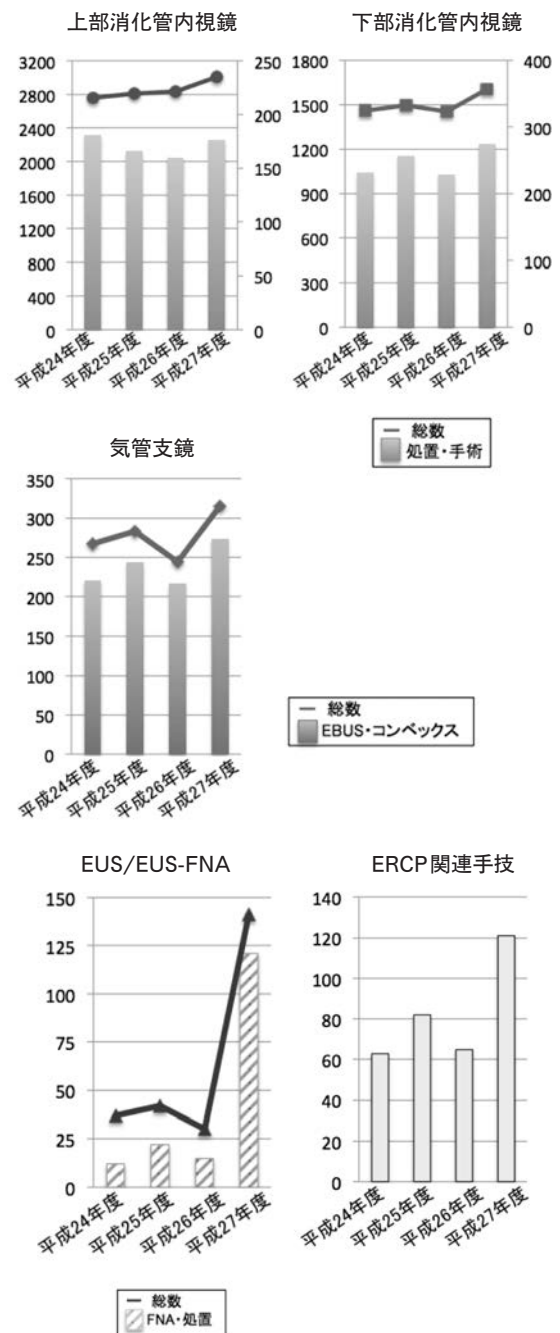


図1

■ 外来化学療法センター

〈スタッフ〉

センター長：佐川 保

副センター長：渡邊健一

看護師：高橋由美、高橋真弓、岡田絵里香、
金野早苗、今 未来、松崎里香、
鈴木千文

非常勤看護師：佐藤恭子、田中美穂、
松田昌子

薬剤師：高田慎也、鈴木訓史

〈外来化学療法センターの歴史〉

当院では2003年4月に外来治療センターを開設し、外来化学療法を施行していましたが、2014年1月より「外来化学療法センター」として新たにスタートしました。

当センターは現在ベッド4床、リクライニングチェア16床で稼働しています。社会的背景ならびに患者様のご理解もあって化学療法件数は年々増加傾向あり、平成27年度には、年間7,000件を超えるまでになりました(図1、図2)。患者さんの安心・安全・確実な治療に努めています。

【看護部】外来化学療法センターは1名のがん化学療法看護認定看護師と、専任看護師を中心に外

来化学療法を行っている患者さんの看護を行っております。安全な化学療法薬の投与、起こり得る副作用の予防やマネジメントは勿論の事、患者さんの日常生活に視点を置いた支援に努めています。ご自宅での生活が少しでも普段と変わらず、安楽に送れるようにご自宅での生活状況を細やかにお聞きし、アセスメントしております。嘔気や倦怠感の身体的なケアに加え、脱毛や皮膚の症状などの外見のケア、治療に前向きに取り組んでいけるよう心理的なケアを提供できるよう日々取り組んでおります。また、医師や薬剤師、MSWなど多職種と連携しチームで関わっております。

【薬剤部】薬剤部の外来治療センターでの役割としては、クリーンルームでの抗がん剤の調製を行うことから始まります。また、がん専門薬剤師が外来治療センター内で点滴治療を行っている患者さんに対して、具体的な治療スケジュール、主な副作用、副作用対策方法などの説明を行い、副作用の早期発見や早期対応できるように努めています。必要な薬剤があると判断された場合には、医師と相談し、薬剤の追加や変更を行い、副作用による治療の中断、延期などを可能な限り少なくなるよう活動しております。

化学療法件数

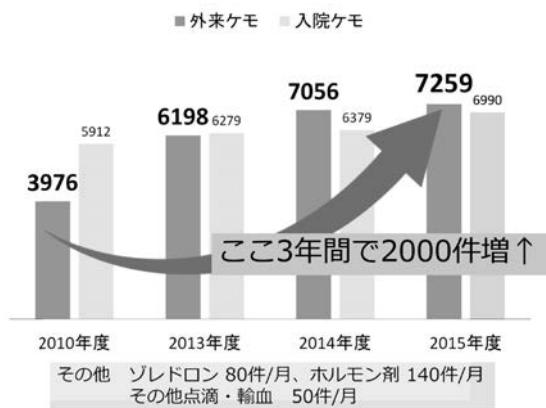


図1

2015年度化学療法件数

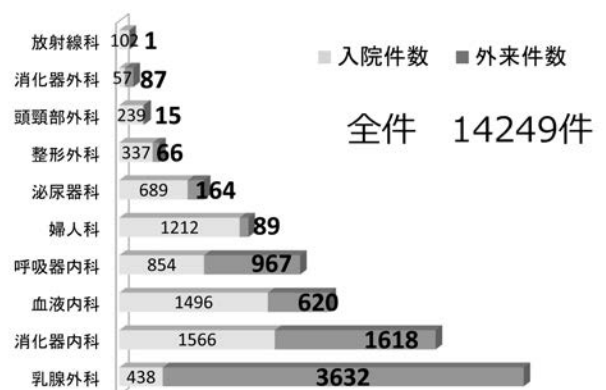


図2

緩和ケアセンター

〈スタッフ〉

緩和ケアセンター長：加藤 秀則（副院長）
緩和ケアセンター ジェネラルマネージャー：
武藤記代子（がん性疼痛看護認定看護師）
身体症状担当医師：大場 洋子（婦人科兼任）
精神症状担当医師：松山 哲晃
看護師：畑中 陽子（がん看護専門看護師）
看護師：菊地 美香（がん看護専門看護師）
薬剤師：高田 慎也（がん専門薬剤師・緩和薬物療法認定薬剤師）
薬剤師：玉木 慎也（がん専門薬剤師・がん指導薬剤師）
薬剤師：林 直美（～H27.9月）
薬剤師：深井 雄太（H28.1月～）
臨床心理士：奥 玲子
医療ソーシャルワーカー：木川 幸一
栄養士：川合 彩絵

〈概要〉

平成24年6月に閣議決定された「がん対策推進基本計画」において、重点的に取り組むべき4つの課題のひとつとして「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」が掲げられた。この趣旨に沿って、平成25年度から都道府県拠点病院を対象として緩和ケアセンターの設置に向けた取り組みが開始され、当院でも平成18年から活動している緩和ケアチームを基盤に組織作りに着手した。組織上は平成26年4月に加藤副院長をセンター長として開設され、同年5月よりセンター運営方針決定機関として緩和ケア委員会を定期的に開催している。

〈診療活動実績〉

【緩和ケアセンターに求められる活動内容】

- ◆ 緩和ケアチーム／緩和ケア外来の運営（専門的緩和ケアの提供）
- ◆ 緊急緩和ケア病床の運営

- ◆ がん看護を専門とする看護師による病棟ラウンド、がん患者カウンセリング（がん看護外来）、外来化学療法室や病棟等の看護師との連携
- ◆ 地域の医療機関を対象とした相談業務
- ◆ 院内研修会等の運営によるスタッフ教育
- ◆ 苦痛スクリーニングなど、緩和ケアに関する院内の診療情報の集約・分析・評価
- ◆ 地域の緩和ケア提供体制の実情把握と、適切な緩和ケア提供体制の構築

身体的および精神的苦痛のスクリーニングは入院外来すべての患者を対象とするよう求められているが、当院ではまず平成26年9月より入院予約患者を対象として自記式スクリーニング書式「こころとからだの質問票」の運用を開始し、より有益で効率的な活動を目指して書式および運用ルールの改訂を重ねている。対象を外来患者にも段階的に広げる方針とし、まずは呼吸器外科、緩和ケア内科の新患を対象に運用を開始した。

緊急緩和ケア病床とは、当該地域で在宅緩和ケア診療を受けている患者の緊急入院対応のため拠点病院に整備が求められている病床であり、都道府県拠点病院の新たな指定要件にもあげられた。当院では段階的な拡充を図る方針とし、平成27年9月より当院から在宅緩和ケアに移行する患者のバックアップベッドとして運用を開始した。本年度末までの7か月間で計6名の患者を対象リストにあげたが、実際入院対応したケースはなかった。

〈教育・啓蒙活動〉

※今年度は緩和ケア内科からの活動報告に記載した。

IV 統 計

1. 年度別入院・外来患者数等

	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
入院患者数 (人)	6,300	6,351	6,036	6,206	5,970	5,701	5,831	5,984	6,165	6,688
退院患者数 (人)	6,297	6,357	6,045	6,272	5,952	5,711	5,873	5,974	6,161	6,733
在院延患者数 (人)	173,412	174,553	169,621	162,885	150,550	148,510	148,280	146,405	138,060	136,006
1日平均在院 患者数 (人)	475.1	476.9	464.7	446.3	412.5	405.8	406.2	401.1	378.2	371.6
1日平均取扱 患者数 (人)	492.4	494.3	481.3	463.4	428.8	421.4	422.3	417.5	395.1	390.0
病床回転数 (回)	13.3	13.3	13.0	14.0	14.4	14.0	14.4	14.9	16.3	18.0
平均在院日数 (日)	27.5	27.5	28.1	26.1	25.3	26.0	25.3	24.5	22.4	20.3
外来新患者数 (人)	10,477	9,922	8,348	7,049	6,387	6,167	6,468	6,395	6,159	6,709
外来患者延数 (人)	147,479	145,010	136,654	140,173	135,394	135,573	144,286	146,853	144,191	145,686
1日平均外来 患者数 (人)	602.0	591.9	562.4	579.2	557.2	555.6	588.9	601.9	590.9	599.5
新 患 率 (%)	7.1	6.8	6.1	5.0	4.7	4.5	4.5	4.4	4.3	4.6
平均通院回数 (回)	14.1	14.6	16.4	19.9	21.2	22.0	22.3	23.0	23.4	21.7

2. 年度別・診療科別死亡患者数・剖検件数

診療科	18		19		20		21		22		23		24		25		26		27	
	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検
血液内科	36	3	32	1	38	2	45	5	31		38	3	48	2	26		43	1	38	2
緩和ケア内科							3		6		7		3		8		3		1	
呼吸器内科	20	3	29	2	23	1	19	1	20		19		25	1	39		34		35	
消化器内科	72		64	1	72	4	56	2	57	1	68	3	68		53		65		55	1
循環器内科	69		114		83		5				1		1							
小児科	9		1																	
消化器外科	42		38	1	9		6		9		11		8		9		6		5	
腫瘍整形外科	14		6		8	2	13		8	1	10		6		3		7		8	
皮膚科					1		2													
泌尿器科	18	1	18		20		21		22	1	29	1	20	1	28		28		13	
婦人科	21	1	18		32		26		24		21		13		18		24		26	1
呼吸器外科					11		4		8		4		5		5		10		7	
眼科																				
頭頸部外科	2		1		1						2	1	7		3		3		2	
乳腺外科					20	1	17	1	36		29	1	26		27		22		21	
放射線科	17		17	1	15		16		14		13		11		13	1	10		5	
麻酔科	37		26	2	20		3		5											
脳神経外科	31		34	1	21															
心臓血管外科	57		66		63		4													
形成外科																				
死亡数計(人)	445		464		437		240		240		252		241		232		255		216	
剖検数計(人)	8		9		10		9		3		9		4		1		1		4	
死亡率(%)	7.1		7.3		7.2		3.9		4.0		4.4		4		3.9		4.1		3.2	
剖検率(%)	1.8		1.9		2.3		3.8		1.3		3.6		1.7		0.4		0.4		1.9	

※20年度から外科は、消化器外科のみの数値である。

3. 診療科別退院患者延数及びがん患者延数

診療科	平成26年度			平成27年度		
	退院患者延数 (A)	がん患者延数 (B)	がん患者比率(B/A)	退院患者延数 (A)	がん患者延数 (B)	がん患者比率(B/A)
血液内科	240	211	87.9%	248	223	89.9%
緩和ケア	9	9	100.0%	1	1	100.0%
呼吸器内科	428	352	82.2%	499	418	83.8%
消化器内科	962	666	69.2%	1,225	875	71.4%
循環器内科	19	0	0.0%	20	0	0.0%
消化器外科	371	262	70.6%	362	284	78.5%
腫瘍整形外科	306	171	55.9%	333	181	54.4%
皮膚科	8	4	50.0%	8	6	75.0%
泌尿器科	707	601	85.0%	741	589	79.5%
婦人科	1,550	1,298	83.7%	1,565	1,229	78.5%
呼吸器外科	279	213	76.3%	347	280	80.7%
眼科	0	0	0.0%	0	0	0.0%
頭頸部外科	143	93	65.0%	146	108	74.0%
乳腺外科	853	779	91.3%	922	850	92.2%
放射線科	230	217	94.3%	245	237	96.7%
麻酔科	0	0	0.0%	0	0	0.0%
心臓血管外科	0	0	0.0%	0	0	0.0%
形成外科	56	18	32.1%	71	43	60.6%
計	6,161	4,894	79.4%	6,733	5,324	79.1%

◎抽出条件

* 期間内の退院患者を対象

* 医療情報管理室のサマリーチェック時に「主病名」「併存症」「続発症」及びカルテに「がん」の既往等があった場合に「がん比率患者」としてカウント
⇒FM上の「がん比率」チェックより抽出

4. 第10回修正国際疾病分類による退院患者延数

平成27年1月～平成27年12月分

疾病番号	病名	計	男	女	疾病番号	病名	計	男	女
	総数	6,588	2,422	4,166	C30～C39	呼吸器および胸腔内臓器	649	391	258
C00～C97	悪性新生物	5,152	1,847	3,305	C30	鼻腔および中耳	2	1	1
C00～C14	口唇、口腔および咽頭	49	39	10	C31	副鼻腔	3	3	0
C00	口唇	0	0	0	C32	喉頭	5	5	0
C01	舌根<基底>部	5	5	0	C33	気管	0	0	0
C02	その他および部位不明の舌	7	4	3	C34	気管支および肺	625	369	256
C03	歯肉	1	1	0	C37	胸腺	10	9	1
C04	口腔底	2	2	0	C38	心臓、縦隔および胸膜	4	4	0
C05	口蓋	1	1	0	C39	その他および部位不明確の呼吸器系および胸腔内臓器	0	0	0
C06	その他および部位不明の口腔	3	3	0	C40～C41	骨および関節軟骨	41	27	14
C07	耳下腺	0	0	0	C40	(四)肢の骨および関節軟骨	30	21	9
C08	その他および部位不明の大唾液腺	1	1	0	C41	その他および部位不明の骨および関節軟骨	11	6	5
C09	扁桃	2	1	1	C43～C44	皮膚の黒色腫およびその他	20	10	10
C10	中咽頭	3	3	0	C43	皮膚の黒色腫	0	0	0
C11	鼻<上>咽頭	3	0	3	C44	皮膚のその他	20	10	10
C12	梨状陥凹<洞>	13	10	3	C45～C49	中皮および軟部組織	243	86	157
C13	下咽頭	8	8	0	C45	中皮腫	9	8	1
C14	その他および部位不明確の口唇、口腔および咽頭	0	0	0	C46	カボジ肉腫	0	0	0
C15～C26	消化器	1,025	542	483	C47	末梢神経および自律神経	1	1	0
C15	食道	122	85	37	C48	後腹膜および腹膜	132	12	120
C16	胃	216	122	94	C49	その他の結合組織および軟部組織	101	65	36
C17	小腸	8	7	1	C50	乳房	848	3	845
C18	結腸	300	70	230	C51～C58	女性性器	1,114	1	1,113
C19	直腸S状結腸移行部	38	10	28	C51	外陰	2	0	2
C20	直腸	142	111	31	C52	膣	11	0	11
C21	肛門および肛門管	4	2	2	C53	子宮頸(部)	321	0	321
C22	肝および肝内胆管	79	62	17	C54	子宮体部	342	0	342
C23	胆のう<嚢>	15	9	6	C55	子宮	1	0	1
C24	その他および部位不明の胆道	12	7	5	C56	卵巣	416	0	416
C25	脾	89	57	32	C57	その他および部位不明の女性性器	20	0	20
C26	その他および部位不明確の消化器	0	0	0	C58	胎盤	1	1	0

疾病番号	病名	計	男	女	疾病番号	病名	計	男	女
C60～ C63	男性性器	287	287	0	C85	非ホジキンリンパ腫のその他および詳細不明の型	111	50	61
C60	陰茎	2	2	0	C88	悪性免疫増殖性疾患	0	0	0
C61	前立腺	265	265	0	C90	多発性骨髄腫および悪性形質細胞腫瘍	41	21	20
C62	精巣<睾丸>	20	20	0	C91	リンパ性白血病	4	0	4
C63	その他および部位不明の男性性器	0	0	0	C92	骨髄性白血病	7	4	3
C64～ C68	尿路	331	229	102	C93	単球性白血病	0	0	0
C64	腎盂を除く腎	90	65	25	C94	その他の細胞型の明示された白血病	0	0	0
C65	腎盂	34	25	9	C95	細胞型不明の白血病	1	1	0
C66	尿管	37	22	15	C96	リンパ組織、造血組織および関連組織のその他および詳細不明の悪性新生物	0	0	0
C67	膀胱	169	116	53	C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物	0	0	0
C68	その他および部位不明の泌尿器	1	1	0	D00～ D48	その他の新生物	573	253	320
C69～ C72	眼、脳および中枢神経のその他の部位	13	5	8	D00～ D09	上皮内新生物	51	1	50
C69	眼および付属器	0	0	0	D10～ D36	良性新生物	301	135	166
C70	髄膜	0	0	0	D37～ D48	性状不詳または不明の新生物	221	117	104
C71	脳	13	5	8	D50～ D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	8	3	5
C72	脊髄、脳神経および中枢神経のその他の部位	0	0	0	A00～ B99	感染症および寄生虫症	24	9	15
C73～ C75	甲状腺およびその他の内分泌腺	32	11	21	E00～ E90	内分泌、栄養および代謝疾患	9	3	6
C73	甲状腺	27	6	21	F00～ F99	精神および行動の障害	4	3	1
C74	副腎	5	5	0	G00～ G99	神経系の疾患	19	14	5
C75	その他の内分泌腺および関連組織	0	0	0	H00～ H59	眼および付属器の疾患	2	1	1
C76～ C80	部位不明確、続発部位および部位不明	269	104	165	H60～ H95	耳および乳様突起の疾患	1	0	1
C76	その他および部位不明確	9	0	9	I00～ I99	循環器系の疾患	16	7	9
C77	リンパ節の続発性および部位不明	30	10	20	J00～ J99	呼吸器系の疾患	82	62	20
C78	呼吸器および消化器の続発性	83	31	52	K00～ K93	消化器系の疾患	220	98	122
C79	その他の部位の続発性	77	50	27	L00～ L99	皮膚および皮下組織の疾患	17	7	10
C80	部位の明示されない	70	13	57	M00～ M99	筋骨格系および結合組織の疾患	18	11	7
C81～ C96	リンパ組織、造血組織および関連組織	231	112	119	N00～ N99	尿路生殖器系の疾患	271	47	224
C81	ホジキン病	4	2	2	O00～ O99	妊娠、分娩および産褥	1	0	1
C82	ろ胞性[結節性]非ホジキンリンパ腫	25	15	10	P00～ P96	周産期に発生した病態	0	0	0
C83	びまん性非ホジキンリンパ腫	34	17	17	Q00～ Q99	先天奇形、変形および染色体異常	8	5	3
C84	末梢性および皮膚T細胞リンパ腫	4	2	2		その他	163	52	111

5. 調剤数・製剤数

区分		年度	平成23年度		平成24年度	
		入・外別	入院	外来	入院	外来
調剤数	総数	① 回数 ③ + ⑤	126,908	5,591	101,782	5,459
		② 延剤数 ④ + ⑤	990,603	124,212	922,783	128,957
	内用剤	③ 回数	116,300	4,691	92,247	4,591
		④ 延剤数	979,995	123,312	913,248	128,089
	外用剤	⑤ 回数 (=延剤数)	10,608	900	9,535	868
⑥ 注射用剤回数			298,717	49,565	294,312	55,867
処方箋発行枚数	院内	⑦ 内用、外用	91,338	2,042	87,025	2,186
		⑧ 注射用	244,443	36,220	244,217	40,009
	⑨ 院外用					52,985
製剤数	種別		滅菌	非滅菌	滅菌	非滅菌
	内用	⑩ 固形剤	0	0	0	0
		⑪ 液剤	32	157	27	141
	外用	⑫ 固形剤	0	82	0	140
		⑬ 液剤	131	102	95	103
⑭ 注射剤		63		31		

平成25年度		平成26年度		平成27年度	
入院	外来	入院	外来	入院	外来
105,768	8,647	91,961	9,326	101,910	10,425
860,111	178,477	829,345	212,393	819,168	230,294
81,831	7,037	71,265	7,570	80,942	8,737
836,174	176,867	808,649	210,637	798,200	228,606
23,937	1,610	20,696	1,756	20,968	1,688
273,896	54,670	279,289	33,734	355,241	39,189
95,010	3,404	90,192	3,597	94,681	3,531
230,154	37,568	205,317	33,613	195,189	13,416
	50,811		49,660		50,270
滅菌	非滅菌	滅菌	非滅菌	滅菌	非滅菌
0	0	0	0	1	0
23	146	38	104	5	149
0	77	0	38	0	25
154	98	128	104	137	108
2		67		47	

6. 薬物体液中濃度測定検体数

対象薬物 \ 年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
抗てんかん薬	83	76	228	94	145	103
抗不整脈薬	0	0	0	0	0	0
メトトレキサート	53	143	158	163	135	71
テオフィリン	6	3	14	1	1	1
アミノグリコシド	23	24	17	0	13	4
バンコマイシン	36	74	83	48	65	70
テイコプランニン	53	118	104	59	53	34
シクロスポリン	100	101	105	22	41	18
イマチニブ					10	
タクロリムス					13	
合計	354	539	709	387	476	301

※抗てんかん薬としては、フェノバルビタール、カルバマゼピン、バルプロ酸、フェニトインを測定しています。
 ※抗不整脈薬としては、ジソピラミド、アプリンジン、リドカインを測定しています。

6-2 薬剤管理指導料実施患者数

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
実施患者数(人)	6,246	5,262	5,427	5,704	7,169	7,985

6-3 治験事務局取扱件数

区分 \ 年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
第Ⅰ相	1	1	2	1	3	6
第Ⅱ相	8	15	9	7	15	8(2)
第Ⅲ相	27(7)	24(5)	22(2)	12	22	32(1)
第Ⅳ相	43(1)	30	39	29(1)	1	27(1)
合計	79(8)	70	72(2)	49(1)	41	73(4)

第Ⅲ・Ⅳ相の値は、市販後臨床試験も含む。()内は、市販後臨床試験の件数。
 第Ⅳ相の値は、特別調査・使用成績調査である。

7. 年度別手術件数

区分 \ 年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
手術件数(A)	3,702	3,848	4,296	4,058	3,866	4,469
悪性新生物再掲件数(B)	1,618	1,662	1,558	1,669	1,615	2,995
比率(B/A)	43.7	43.2	36.3	41.1	41.8	67.0

[再掲]

手術室以外件数	975	702	942	674	989	1,391
外来分件数	600	628	599	550	537	793

8. 臨床検査件数

平成27年度

	区分	院内検査件数				外部委託検査件数 (別掲)		
		入院	外来	総件数	研究			
件 数 統 計	合計	1~8	617,960	953,158	1,571,118	128,178	23,892	
	尿・便等検査	1A、1B	5,240	26,764	32,004	0	0	
	髄液・精液等	1C、1Z	13	0	13	0	0	
	血液学的検査	2A~2C・2Z	75,439	85,689	161,128	10,978	36	
	生化学的検査	3A~3M・3Z	462,079	700,837	1,162,916	73,875	3,357	
	内分泌学的検査	4A~4H・4Z	1,656	11,704	13,360	4,005	2,817	
	免疫学的検査	5A~5K	52,670	113,353	166,023	30,109	16,255	
	微生物学的検査	6A~6C・6Z	9,875	2,311	12,186	696	148	
	病理組織検査	7B・7C・7D	8,121	3,593	11,714	6,726	8	
	細胞診検査	7A	2,638	8,907	11,545	1,789	0	
	機能検査	8A	229	0	229	0	23	
	染色体検査	8B	0	0	0	0	341	
	遺伝子検査	8C・8Z・7Z	0	0	0	0	907	
生理機能 検査	合計	9	臨床検査技師実施件数				技師以外 実施件数 (別掲)	出張件数 (再掲)
			入院	外来	総件数	研究		
			10,955	13,793	24,748	0	68,965	405
	心電図検査等	9A	3,518	4,469	7,987	0	0	162
	脳波検査等	9B	54	14	68	0	172	22
	呼吸機能検査等	9C	3,474	3,284	6,758	0	0	0
	前庭・聴力機能検査等	9D	136	63	199	0	7	199
	眼科関連機能検査等	9E	0	0	0	0	5,687	0
	超音波検査等	9F	3,773	5,955	9,728	0	11,786	22
	その他	9I・9G・9Z	0	8	8	0	23,955	0
穿刺・採取料等	9J	0	0	0	0	27,358	0	
			総数	*****	*****	計上内容等		
MRI件数			0	臨床検査技師が実施したMRI件数				
内視鏡件数			0	臨床検査技師が介助した件数				
病理解剖件数	7Z	全身	4	脳解剖を含む病理解剖数				
		一部のみ	0	脳解剖を含まない、または脳解剖のみの病理解剖数。ただし、屍検は含まない。				
輸血管理部門の取扱い状況			*****					
入庫数	製剤数	3,160	入庫した血液製剤バッグ数					
出庫数	製剤数	3,234	輸血管理室から出庫した血液製剤バッグ数					
輸血済み血液製剤数	製剤数	3,150	輸血が実施された血液製剤バッグ数					
血液製剤廃棄率	%	0	当月の全血液製剤バッグ廃棄率					
病理組織ブロック数	個	37,027	病理解剖を除くブロック数					
免疫染色枚数(病理)	枚	4,454	のべ染色枚数(組織および細胞)					
特殊染色枚数(病理)	枚	1,873	のべ染色枚数(組織および細胞)					
医療機器保守点検件数	件数	381	検査部門内外の医療機器点検件数					
各種チーム医療連携業務	件数	90	ICT、NSTラウンド等への参加回数や地域医療連携業務等の件数					
各種指導・教室等実施状況	件数	0	DM教室、新人職員または臨地実習などのオリエンテーション					
治験取扱い患者人数	患者数	478	採血、生理機能検査、検体前処理等の回数に関係なく1患者1件					
実習・研修等受入れ状況	単位	396	計算式=受け入れ日数(1日を8時間として)×人数					
			入院	外来	総件数			
ホルター心電図等解析件数	件数	91	81	172	ホルダー ECG・血圧計、PSG、SASなどの解析件数			
超音波検査等所見記載件数	件数	4,888	4,503	9,391	計測、解析や超音波検査や脳波検査などの所見を記載した件数			
小児・重心・筋ジス・精神患者検査件数	患者数	0	0	0	小児(14歳以下)、重心・筋ジス・精神患者を検査した件数(項目限定)			
検査説明・相談件数	件数	0	0	0	説明あるいは相談に5分以上を要した件数			
採血管準備患者数	患者数	24,086	4,478	28,564	検査部門で採血管準備した患者数。(職員健診分は除く)			
静脈採血患者数	患者数	849	8,768	9,617	検査技師が静脈採血した患者数。(職員健診や接触者健診分などは除く)			

9. 輸血検査取扱件数

検査項目		23年	24年	25年	26年	27年
1. 総数	2 - 9	16,206	15,888	14,336	13,224	15,047
2. ABO式血液型		4,264	3,923	3,725	3,446	3,696
Rh式	3. D因子	4,264	3,923	3,725	3,446	3,696
	4. その他	28	21	15	7	22
5. その他の血液型		27	21	15	7	16
6. 不規則抗体検査		4,159	4,916	4,621	4,427	5,800
タームス試験	7. 直接	129	182	186	230	211
	8. 間接	143	183	183	217	194
9. 交差適合試験		3,192	2,719	1,866	1,444	1,070

5. その他の血液型：不規則抗体同定時のRh因子以外の血液型検査件数

10. 年度別内視鏡検査件数

項目		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
上部消化管内視鏡検査		2,363	2,570	2,642	2,675	2,834
食道	ESD	7	14	5	22	10
	EMR	0	0	1	0	8
	EVL・EIS	13	4	5	7	6
	拡張・ステント	20	18	19	21	15
胃	ESD	27	35	38	21	37
	EMR	4	6	5	0	2
	止血等処置	48	49	36	16	43
	PEG	6	3	7	6	16
	異物除去	10	19	19	22	5
	内視鏡的イレウス管留置	27	29	26	41	32
下部消化管内視鏡検査		1,176	1,230	1,238	1,226	1,598
大腸	EMR	211	186	206	176	200
	ESD	6	9	18	14	21
	止血等処置	23	29	33	28	39
	拡張・ステント	4	0	3	3	9
	経肛門イレウス管	8	6	8	7	7
小腸	カプセル内視鏡	75	35	26	46	49
	小腸内視鏡	2	21	6	21	22
胆膵	ERCP/関連処置	63	63	82	65	121
EUS		33	26	20	15	28
EUS-FNA/ドレナージ		10	12	22	15	121

11. 放射線業務集計報告書

平成27年度

項目		内容	番号	台数	患者数		
放射線業務総計		番号02+20+27の加算結果	01		83,565		
画像診断	画像診断総計		番号03+07+08+09の加算結果	02	59,983		
	エックス線 断	計	番号04～06の合計	03		34,647	
		単純・特殊撮影・乳房など単純すべて	単純X線撮影、歯科、パノラマ、マンモ、ポータブル撮影等、骨塩定量（X線、超音波）	04		31,982	
		造影検査（血管以外）	MDL、注腸、PTCD等消化管造影、泌尿器造影、子宮卵管造影、ミエロ等	05		2,318	
		血管造影	頭部血管、心カテ、腹部血管、四肢血管等	06	2	347	
	核医学診断	部分（静態）部分（動態）全身、SPECT	SPECT、Uptake等	07	2	1,531	
		PET、PET/CT	PET、PET/CT	08		1,140	
	断	計		CTとMRIの合計（番号10+番号13）	09	22,665	
		C T	計	CT人数（番号11と同じ）	10	17,827	
			CT撮影	通常CT、心臓CT、CTC、脳槽CT等	11	3	17,827
			造影剤使用加算	造影剤使用人数（再掲）	12		(11,609)
		コンピューター 断層撮影 断	計		MRI人数（番号14と同じ）	13	4,838
			MRI撮影	通常MRI、心臓MRI、MRCP等	14	1	4,838
			造影剤使用加算	造影剤使用人数（再掲）	15		(4,117)
			CT紹介患者数	CT紹介患者数（再掲）	16		
			MRI紹介患者数	MRI紹介患者数（再掲）	17		
			時間外撮影患者数	時間外の撮影患者数（再掲）	18		(2,264)
		ポータブル撮影	ポータブル撮影患者数（再掲）	19		(3,301)	
	放射線治療	計		番号22～25の合計	20	23,582	
		放射線治療管理料	放射線治療管理料	21	1,575		
		放射性同位元素内用療法	放射性同位元素内用療法患者数	22	14		
		体外照射、定位放射線治療、全身照射	体外照射、定位放射線治療、全身照射患者数、ガンマナイフ、陽子線治療、中性子線治療	23	3	23,451	
		温熱療法	温熱療法患者数	24			
		密封小線源治療	密封小線源治療患者数（シード、RALS）	25		117	
		血液照射	血液照射数	26		1,140	
検査	超音波検査	放射線技師実施超音波患者数（骨塩除く）	27				
	骨塩定量検査（X線・超音波）	骨塩定量検査（再掲）	28		(140)		
他	実習・研修等受入れ状況	実習生・研修生の延べ人数	29		(95)		
	診療放射線技師数（人）		30		22		
	グループ区分（入力セルに移動して▼をクリックし表示されるリストから選択）		31		一般中心		
	病床数（床）		32		520		

V 研究業績

循環器内科

〈学会発表・講演など〉

井上仁喜、山本清二、明上卓也、竹中 孝、長谷部直幸

トラスツズマブにより心機能障害を呈した症例の検討より－抗がん剤心障害データベースの必要性

第114回日本循環器学会北海道地方会

2015.11.28 札幌市

口頭発表

当施設

井上仁喜、山本清二、明上卓也、竹中 孝

がん化学療法による心機能障害の評価には左室駆出率（LVEF）が有用である－故きを温ねて新しきを知る可能性

第35回北海道心・冠血管 イメージング研究会

2016.2.13 旭川市

口頭発表

当施設

〈論文発表・著書など〉

長谷部直幸 編集、井上仁喜 他（共著者）

脱脳卒中のための血圧管理の極意（一次予防）

糖尿病を合併した高血圧

高血圧治療で極める脳卒中治療の医師力－脱・

脳卒中の極意

58－64, 2015

フジメディカル出版

著書

当施設

呼吸器内科

〈学会発表・講演など〉

藤田結花、大泉聡史、菅原俊一、湊 浩、原田敏之、井上 彰、前門戸任、吉澤弘久、伊藤和彦、弦間昭彦、西辻 雅、原田眞雄、磯部 宏、木下一郎、森田智視、小林国彦、萩原弘一、栗原 稔、貫和敏博

EGFR遺伝子変異陽性nonSq-NSCLCにおけるゲフィチニブ/化学療法の比較第二相試験 (NEJ005/TCOG0902)

第55回日本呼吸器学会

2015.4.17 東京都

口演

他施設

菊池 創、横内 浩、西原広史、浦本秀隆、原田眞雄、秋江研志、原田敏之、西村正治、棟方 充
分子発現及び遺伝子変異プロファイリングによる小細胞肺癌切除例の臨床病理解析 (FIGHT 002BおよびHOT1301B)

第55回日本呼吸器学会

2015.4.17 東京都

口演

他施設

菅谷文子、横内 浩、山崎成夫、浦本秀隆、菊池 創、中野浩輔、秋江研志、藤田結花、福原達朗、西村正治、棟方 充

小細胞肺癌切除例に関する臨床的検討 (FIGHT 002AおよびHOT1301A)

第55回日本呼吸器学会

2015.4.17 東京都

口演

他施設

渡辺 洋、森川直人、菅原俊一、前門戸任、原田敏之、原田眞雄、井上 彰、藤田結花、加藤晃史、貫和敏博

伸展型小細胞肺癌に対するカルボプラチン+イ

リノテカンとカルボプラチン+アムルピシンとの無作為化第2相試験 (NJLCOG0901) : 最終解析

第55回日本呼吸器学会

2015.4.18 東京都

口演

他施設

福元伸一

結節影～良性or悪性?～

第504回札幌肺を診る会

2015.5.19 札幌市

講演

当施設

Y Ohe, M Nishio, K Kiura, T Seto, K Nakagawa, M Maemondo, A Inoue, T Hida, H Yoshioka, M Harada, N Nogami, H Murakami, K Takeuchi, T Shimada, H Kuriki, T Tanaka, T Tamura

A phase I/II study with a CNS-penetrant, selective ALK inhibitor alectinib in ALK-raranged nin-small cell lung cancer (ALK +NSCLC) patients pts) : Updates on progress in free survival (PFS) and safety results from AF-001JP

第51回米国臨床腫瘍学会

2015.5.29 Chicago, U.S.A

ポスター

他施設

H Horinouchi, I Sekine, M Sumi, T Soejima, M Satouchi, H Nagakur, H Isobe, N Nishiyama, M Harada, N Ishizuka, T Tamura, Y Ohe

Final overall survival (OS) analysis of a multicenter phase II study of concurrent high-dose (72Gy) three-dimensional conformal radiotherapy (3D-RT) without selective nodal

irradiation with chemotherapy using cisplatin (CDDP) and vinorelbine (VNR) in patients with stage III non-small cell lung cancer (NSCLC).

第51回米国臨床腫瘍学会
2015.5.29 Chicago, U.S.A
ポスター
他施設

福元伸一

非喫煙or女性の肺がん

第35回北海道がん講演会
2015.6.28 札幌市
講演
当施設

M Watanabe, T Takashima, H Asahina, T Amano, H Yokouchi, K Takamura, T Harada, O Honjo, N Morikawa, I Kinoshita

A phase II study of carboplatin/pemetrexed/bevacizumab followed by bevacizumab /erlotinib maintenance for non-squamous non-small cell lungcancer with wild-type EGFR (HOT1101)

第13回日本臨床腫瘍学会
2015.7.17 札幌市
口演
当施設

Y Urata, M Satouchi, H Isobe, M Harada, H Horinouchi, M Sumi, I Sekine, T Tamura, Y Ohe

Final OS analysis from phase II study of high-dose (72Gy)3D-conformal radiotherapy with chemotherapy for stage III NSCLC

第13回日本臨床腫瘍学会
2015.7.17 札幌市
口演
他施設

K Ito, S Fukumoto, M Harada, S Oizumi, K Takamura, Y Fujita, T Harada, K Akie, H Isobe, M Nishimura

A Radomized phase II trial of adjuvant chemotherapy (platinum+gemcitabine) in completely resected NSCLC : HOT0703

第13回日本臨床腫瘍学会
2015.7.18 札幌市
口演
他施設

原田眞雄

EGFR変異陽性肺がんの治療 (2)

第13回日本臨床腫瘍学会
2015.7.18 札幌市
ポスター発表
当施設

原田眞雄

肺がん治療の最前線：肺がんの薬物療法

第13回日本臨床腫瘍学会／難治がん啓発
キャンペーン共同開催市民公開講座
Stride for Hope
2015.7.18 札幌市
講演
当施設

K Takamura, H Yokouchi, H Nishihara, H Suzuki, H Uramoto, S Yamzaki, H Kikuchi, K Akie, F Sugaya, Y Fujita, M Harada, T Harada, M Higuchi, T Kojima, T Fukuhara, Y Matsuura, O Honjo, Y Minami, N Watanabe, H Dosaka-Akita, H Isobe, M Nishimura, M Munakata

Clinical and molecular profiling of surgically resected smallcell lung cancer

第16回世界肺癌学会
2015.9.7 Denver, U.S.A
口演
他施設

H Yokouchi, T Takashima, H Asahina, N Yamada, M Harada, K Nakano, K Kanazawa, K Takamura, T Ogi, T Harada, O Honjo, N Morikawa, I Kinoshita, R Honda, T Amano, H Dosaka-Akita, H Isobe, M Nishimura

A phase II study of carboplatin/pemetrexed/bevacizumab followed by bevacizumab/erlotinib maintenance for non-squamous non-small cell lung cancer with wild-type EGFR (HOT1101)

第16回世界肺癌学会

2015.9.8 Denver, U.S.A

ポスター

他施設

T Takashima, H Asahina, N Yamada, M Harada, K Nakano, H Yokouchi, K Kanazawa, K Takamura, T Ogi, T Harada, O Honjo, N Morikawa, I Kinoshita, R Honda, T Amano, H Dosaka-Akita, H Isobe, M Nishimura

A phase II study of carboplatin, pemetrexed, and bevacizumab followed by bevacizumab and erlotinib maintenance for non-squamous non-small cell lung cancer with wild-type EGFR

第18回欧州癌学会（第40回欧州臨床腫瘍学会）

2014.9.27 Vienna, Austria

ポスター

他施設

藤田結花、福元伸一、原田眞雄、藤内 智、藤兼俊明、中野浩輔、須甲憲明、榊原 純、高村 圭、原田敏之、小島哲弥、秋江研志、大泉聡史、秋田弘俊、磯部 宏、西村正治

非小細胞肺癌術後補助化学療法（platinum+GEM）の無作為化第Ⅱ相試験：HOT0703

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2 札幌市

口演

他施設

原田眞雄

進行肺癌の治療－基本から最新トピックスまで－

Medical Oncology 薬剤師勉強会

2015.10.23 函館市

講演

当施設

中野浩輔、高橋宏典、渡邊雅弘、福元伸一、原田眞雄

脳放射線壊死を合併した肺癌に対するBevacizumabの使用経験

第56回日本肺癌学会

2015.11.26 横浜市

口演

当施設

原田眞雄

集検成績報告と肺癌検診の現状

第512回札幌肺を診る会

2016.3.15 札幌市

講演

当施設

〈論文発表・著書など〉

S Sugawara, S Oizumi, K Minato, T Harada, A Inoue, Y Fujita, M Maemondo, H Yoshizawa, K Ito, A Gemma, M Nishitsuji, M Harada, H Isobe, I Kinoshita, S Morita, K Kobayashi, K Hagiwara, M Kurihara, T Nukiwa

Randomized phase II study of concurrent versus sequential alternating gefitinib and chemotherapy in previously untreated non-small cell lung cancer with sensitive EGFR mutations : NEJ005/TCOG0902

Annals of Oncology

26 (5) : 888-894, 2015

原著

他施設

N Morikawa, Y Minegishi, A Inoue, M Maemondo, K Kobayashi, S Sugawara, M Harada, K Hagiwara, S Okinaga, S Oizumi, T Nukiwa, A Gemma & North-East Japan Study Group

First-line gefitinib for elderly patients with advanced NSCLC harboring EGFR mutations. A combined analysis of North-East Japan Study Group studies.

Expert Opin Pharmacother

16 (4) : 465–472, 2015

原著

他施設

A Inoue, S Sugawara, M Maemondo, Y Mori, S Oizumi, M Harada, K Taima, N Morikawa, T Ishida, I Kinoshita, H Watanabe, T Suzuki, T Nakagawa, R Saito, T Nukiwa

Randomized phase II trial comparing amrubicin with re-challenge of platinum doublet in patients with sensitive-relapsed small cell lung cancer : North Japan Lung Cancer Study Group Trial 0702

Lung Cancer

89 (1) : 61–65, 2015

原著

他施設

中川栄志、宮崎 杏、荒井雅昭、南川浩二、福原健司、千葉敏也、中野浩輔、福元伸一、磯部 宏、原田眞雄

肺がんCT検診認定技師による一次読影を最終目標とした読影トレーニング

J Thorac CT Screen

22 (2) : 30–36, 2015

原著

他施設

H Yokouchi, T Ishida, S Yamazaki, H Kikuchi, S Oizumi, H Uramoto, F Tanaka, M Harada, K

Akie, F Sugaya, Y Fujita, T Fukuhara, K Takamura, T Kojima, T Harada, M Higuchi, Y Matsuura, O Honjo, Y Minami, N Watanabe, H Nishihara, H Suzuki, H Dosaka-Akita, H Isoe, M Nishimura, M Munakata

Prognostic impact of clinical variables on surgically resected small-cell lung cancer : Results of a retrospective multicenter analysis (FIGHT002A and H0T1301A)

Lung Cancer

90 : 548–553, 2015

原著

他施設

消化器内科

〈学会発表・講演など〉

Tamotsu Sagawa, Hidetoshi Ohta, Yasushi Sato, Yasuhiro Sato, Tsuyoshi Hayashi, Tokiko Nakamura, Koshi Fujikawa, Yasuo Takahashi

Mo1586 Assessment Tool to Evaluate Competency of Capsule Endoscopy Pre-Reader

米国消化器病週間 (DDW2015)

2015.5.16-19 Chicago, U.S.A

ポスター発表

当施設

2015.5.29 名古屋市

口頭発表

当施設

太田英敏、勝木伸一、佐川 保

被験者に許容されるカプセル内視鏡による全消化管検査用前処置の検討

第89回日本消化器内視鏡学会総会

2015.5.29 名古屋市

口頭発表

他施設

Hidetoshi Ohta, Shinichi Katsuki, Tamotsu Sagawa

562 Higher Acceptability and Higher Completion Rate for Colon Capsule Endoscopy

米国消化器病週間 (DDW2015)

2015.5.16-19 Chicago, U.S.A

ポスター発表

他施設

佐川 保、高橋康雄、藤川幸司、太田英敏、佐藤康裕、中村とき子

当院におけるカプセル内視鏡読影支援の現状と読影精度向上への試み

第89回日本消化器内視鏡学会総会

2015.5.30 名古屋市

口頭発表

当施設

Yasuo Takahashi, Koshi Fujikawa, Tamotsu Sagawa, Kan Yonemori, Kenji Tamura, Makoto Kodaira, Taito Esaki, Tsuyoshi Shirakawa, Fumihiko Hirai, Yuki Yokoi, Toshio Kawata and Ben Hatano

Safety and tolerability of the olaparib tablet formulation in Japanese patients (pts) with advanced solid tumors (ASTs).

米国臨床腫瘍学会 (ASCO/51)

2015.5.29-6.2 Chicago, U.S.A

ポスター発表

当施設

小野道洋、石渡裕俊、植村尚貴、林 毅、佐藤勉、宮西浩嗣、佐藤康史、瀧本理修、小船雅義、今村将史、木村康利、加藤淳二

術後膺液瘻に対する超音波内視鏡下嚢胞ドレナージの成績

第89回日本消化器内視鏡学会総会

2015.5.30 名古屋市

口頭発表

他施設

濱口京子

当院における十二指腸非乳頭部腺腫の経過の検討

第89回日本消化器内視鏡学会総会

武澤梨央、萱原隆久、山本 博、木口賀之、古林麻美、日野真太郎、山崎辰洋、杉浦香織、三谷洋介、濱口京子、下立雄一、土井 颯、清輔良江、西村直之、石田悦嗣、毛利裕一、松枝和宏

当院での悪性大腸閉塞に対する大腸ステントの治療成績

第89回日本消化器内視鏡学会総会

- 2015.5.30 名古屋市
口頭発表
他施設
- 杉浦香織、下立雄一、三谷洋介、濱口京子、土井
顕、西村直之、毛利雄一、松枝和宏、山本 博
当院の早期胃癌ESD症例から検討したH. pylori
除菌後胃癌特徴
第89回日本消化器内視鏡学会総会
2015.5.30 名古屋市
口頭発表
他施設
- 石渡裕俊、林 毅、浦田孝広
ERCP後膵炎予防におけるdiclofenac経口剤の
有用性に関する多施設共同無作為化二重盲検比
較試験
第89回日本消化器内視鏡学会総会
2015.5.31 名古屋市
シンポジウム
他施設
- 石渡裕俊、林 毅、河上 洋
膵腫瘍を対象とした22G針を用いたEUS-FNA
におけるsideport有無による診断能に関する多
施設共同前向き比較試験
第89回日本消化器内視鏡学会総会
2015.5.31 名古屋市
ワークショップ
他施設
- 河上 洋、阿部容子、林 毅
充実性病変に対する22G穿刺針を用いたEUS-
FNAの組織採取率に与えるスタイレットの影響
第89回日本消化器内視鏡学会総会
2015.5.31 名古屋市
ワークショップ
他施設
- 中村 透、河上 洋、高橋邦幸、木村康利、林
毅、石渡裕俊、本谷雅代、後藤拓磨、山北圭介、
真口宏介、平野 聡
切除可能膵癌に対する術前S-1補助療法の多施
設共同第Ⅲ相臨床試験
第46回日本膵臓学会大会
2015.6.20 名古屋市
シンポジウム
他施設
- 田村文人
すい臓のがん
札幌市市民公開講座
2015.6.27 札幌市
講演
当施設
- 佐川 保
切除不能大腸がんにおける最新のトピックス～
大腸がんにおけるKRASとNRASのNew RAS
mutationの臨床的意義～
2015.6.4 室蘭市
講演
当施設
- K. Hatanaka, S. Yuki, H. Nakatsumi, A.
Hosokawa, M. Nakamura, O. Muto, T.
Meguro, I. Iwanaga, Y. tsuji, A. Sato, K. Eto,
K. Fujikawa, M. Onodera, M. Tateyama, Y.
Takahashi, M. Dazai, S. Yokoyama, T. Honda,
H. Okuda, M. Kudo, Y. Sakata, Y. Komatsu
Phase II trial of Irinotecan/S-1(IRIS) with
Cetuximab (IRIS/Cet) as second line treat-
ment in patients with KRASWT metastatic
colorectal cancer : HGCSG0902. -Comparison
of administration interval in Cetuximab
treatment-
欧州臨床腫瘍学会世界消化管癌会議 (ESMO-
WCGI/17)
2015.7.1-4 Madrid, Spain
ポスター発表

他施設	2015.8.29 札幌市
林 毅	口頭発表
膵癌の診断と治療	他施設
対がん協会小舟会	岡川 泰、佐川 保、田村文人、林 毅、藤川幸司、高橋康雄
2015.7.24 札幌市	Clinical biomarkerからみた大腸癌における抗EGFR抗体薬の治療成績
口頭発表	消化器病・消化器内視鏡合同分科会
当施設	2015.8.30 札幌市
田村文人	口頭発表
B. C型肝炎の治療	当施設
札幌市市民公開講座	Y. Takahashi, K. Fujikawa, T. Sagawa, N. Sugeno, H. Tsuno
2015.7.25 札幌市	A Phase 1 Study to Assess the Safety and Tolerability of Tremelimumab Alone and in Combination with Durvalumab (MEDI4736) in Japanese Patients with Advanced Solid Malignancies
講演	欧州臨床腫瘍学会 (ECCO/18-ESMO/40)
当施設	2015.9.25-29 Vienna, Austria
林 毅	ポスター発表
胆管深部挿管困難例における対処法	当施設
第2回北陸胆膵内視鏡セミナー	Michio Nakamura, Satoshi Yuki, Hiroshi Nakatsumi, Osamu Muto, Ayumu Hosokawa, Takashi Kato, Ichiro Iwanaga, Kazuteru Hatanaka, Yasushi Tsuji, Atsushi Sato, Kazunori Eto, Koichi Furukawa, Hiroyuki Okuda, Manabu Onodera, Koshi Fujikawa, Mineo Kudo, Sachio Yokoyama, Takuya Honda, Yuh Sakata, Yoshito Komatsu
2015.7.31 金沢市	Phase II trial of Irinotecan plus S-1 (IRIS) with Cetuximab (IRIS/Cet) in pre-treated patients with KRAS wild type of metastatic colorectal cancer (mCRC) : HGCSG0902
口頭発表	欧州臨床腫瘍学会 (ECCO/18-ESMO/40)
当施設	2015.9.25-29 Vienna, Austria
河野 剛、木村泰利、石渡裕俊、今村将史、伊東竜哉、小野道洋、信岡隆幸、林 毅、水口 徹	ポスター発表
化学・放射線療法後に根治術を施行した局所進行胆嚢癌の1例	当施設
第117回日本消化器病学会北海道支部例会	2015.8.29 札幌市
2015.8.29 札幌市	口頭発表
口頭発表	他施設
他施設	石渡裕俊、久居弘幸、矢根 圭、小野寺学、林毅、江藤和範、羽場 真、奥田敏徳、庵原秀之、荃津武大、松本隆佑、河上 洋、北岡慶介、坂本直哉、加藤淳二
石渡裕俊、久居弘幸、矢根 圭、小野寺学、林毅、江藤和範、羽場 真、奥田敏徳、庵原秀之、荃津武大、松本隆佑、河上 洋、北岡慶介、坂本直哉、加藤淳二	総胆管結石に対する内視鏡下排石におけるバスケット及びバルーンカテーテルの排石能に関する多施設共同前向き比較試験
消化器病・消化器内視鏡合同分科会	消化器病・消化器内視鏡合同分科会

他施設

林 毅、小野道洋、石渡裕俊

上部消化管通過困難例に対する ERCP の工夫
— 回転把持鉗子先行法の有用性の検討 —

JDDW 2015

2015.10.8-11 東京都

ワークショップ

他施設

林 毅、小野道洋、石渡裕俊

EUS-FNA による膵嚢胞性病変の組織診断

JDDW 2015

2015.10.8-11 東京都

ワークショップ

他施設

川畑修平、木暮宏史、向井 強、土井晋平、岩下
拓司、坂 哲臣、伊藤由紀子、河上 洋、林 毅、
笹平直樹、窪田賢輔、外川 修、加藤博也、岡部
義信、松原三郎、八木岡浩、斎藤友隆、伊佐山浩
通

胆管大結石に対する EPLBD alone vs. EST の
多施設共同無作為化比較試験 (MARVELOUS
Trial)

JDDW 2015

2015.10.8-11 東京都

ポスター発表

他施設

石渡裕俊、久居弘幸、矢根 圭、小野寺学、林
毅、江藤和範、羽場 真、奥田敏徳、庵原秀之、
荃津武大、松本隆佑、河上 洋、北岡慶介

総胆管結石に対する内視鏡下排石におけるバス
ケット及びバルーンカテーテルの排石能に関す
る多施設共同前向き比較試験

JDDW 2015

2015.10.8-11 東京都

ポスター発表

他施設

Taito Esaki, Tsuyoshi Shirakawa, Fumihiko
Hirai, Kan Yonemori, Kenji Tamura, Makoto
Kodaira, Yasuo Takahashi, Koshi Fujikawa,
Tamotsu Sagawa, Yuki Yokoi, Toshio Kawata
and Ben Hatano

日本人進行固形悪性種患者を対象としたオラパ
リブ錠の安全性及び忍容性

第53回日本癌治療学会学術集会

2015.10.29 横浜市

ポスター発表

他施設

佐川 保、岡川 泰、田村文人、濱口京子、林
毅、藤川幸司、高橋康雄

Multi-Line Chemotherapy が奏効し、Conver-
sion therapy にて治癒切除が得られた Stage IV
胃癌の 1 例

第547回札幌胃と腸を診る会

2015.11.21 札幌市

口頭発表

当施設

佐川 保

チームで取り組む大腸がん化学療法

宮城県北セミナー

2015.11.4 大崎市

講演

当施設

Ayumu Hosokawa, Satoshi Yuki, Yasuyuki
Kawamoto, Takayuki Ando, Osamu Muto,
Michio Nakamura, Takashi Kato, Ichiro
Iwanaga, Kazuteru Hatanaka, Yasushi Tsuji,
Atsushi Sto, Kazunori Eto, Koichi Furukawa,
Hiroyuki Okuda, Koshi Fujikawa, Mineo
Kudo, Takuya Honda, Yuh Sakata, Yoshito
Komatsu

Phase II trial of Irinotecan plus S-1 (IRIS)
with Cetuximab (IRIS/Cet) in pre-treated pa-
tients with KRAS wild type of metastatic co-

lorectal cancer (mCRC) : HGCSG0902
欧州臨床腫瘍学会アジア会議 (ESMO
ASIA/1)
2015.12.18-21 Singapore
ポスター発表
他施設

Tamotsu Sagawa, Yutaka Okagawa, Fumito
Tamura, Tsuyoshi Hayashi, Koshi Fujikawa,
Yasuo Takahashi and Yasushi Sato
The prognostic factor and the optimal tim-
ing of conversion surgery in unresectable
stage IV gastric cancer : A retrospective
analysis.
2016消化器癌シンポジウム (ASCO-GD)
2016.1.21-23 San Francisco, U.S.A
ポスター発表
当施設

Masato Nakamura, Hironaga Satake, Akihito
Tsuji, Tamotsu Sagawa, Akinori Takagane,
Takashi Sekikawa, Wataru Ichikawa,
Kazuhiro Oguchi, Tomohito Kaji, Mitsugu
Kochi, Masashi Fujii, Masahiro Takeuchi and
Toshifusa Nakajima
Phase II study for determining usefulness of
FDG-PET as imaging biomarker in regoraf-
enib treatment for metastatic colorectal can-
cer (JACCRO CC-12).
2016消化器癌シンポジウム (ASCO-GD)
2016.1.21-23 San Francisco, U.S.A
ポスター発表
他施設

林 毅

Convex型EUSを用いた診断と治療
北海道消化器内視鏡技師会集中講義
2016.1.24 札幌市
口頭発表
当施設

佐川 保、岡川 泰、田村文人、濱口京子、林
毅、藤川幸司、高橋康雄
1st-line治療としての坑EGFR抗体薬おける効
果予測因子としての原発巣部分と性別
第12回日本消化器学会総会学術集会
2016.2.26-27 東京都
口頭発表
当施設

岡川 泰、佐川 保、濱口京子、田村文人、林
毅、藤川幸司、高橋康雄
小腸腫瘍におけるカプセル内視鏡検査と造影
CTの病変発見率の検討
第9回日本カプセル内視鏡学会学術集会
2016.2.28 東京都
シンポジウム
当施設

佐川 保

がん化学療法における病診薬連携 副作用マ
ネージメント がん化学療法：外来・保険薬局
さんとの連携をめざして
第239回薬剤師臨床セミナー
2016.2.4 札幌市
講演
当施設

岡川 泰、佐川 保、濱口京子、田村文人、林
毅、藤川幸司、高橋康雄
S-1、イリノテカン、シスプラチン、タキサン製
剤に耐性となった進行胃癌患者に対するXE-
LOX療法の有用性
第88回日本胃癌学会総会
2016.3.18 別府市
ポスター発表
当施設

大沼啓之、佐藤康史、佐川 保、高橋康雄、伸岡
隆幸、高山哲治、加藤淳二
進行胃癌に対するDCS術前化学療法の長期成績

第88回日本胃癌学会総会
2016.3.18 別府市
ポスター発表
他施設

佐川 保、岡川 泰、濱口京子、田村文人、林
毅、藤川幸司、高橋康雄
切除不能進行胃癌に対するConversion ther-
apyの予後因子と至適手術時期についての検討
第88回日本胃癌学会総会
2016.3.19 別府市
ポスター発表
当施設

植村尚貴、菊地尚平、佐藤康史、大沼啓之、佐川
保、藤川幸司、高橋康雄、奥田敏徳、南 伸弥、
飯島一飛、宇佐美信、館越鮎美、早 尚貴、佐藤
勉、宮西浩嗣、小船雅義、高山哲治、加藤淳二
HER2陰性切除不能進行胃癌に対するmodi-
fied Docetaxel+Cisplatin+S-1(mDCS)療法の
第Ⅱ相試験
第112回日本消化器内視鏡学会
2016.3.5 札幌市
口頭発表
他施設

佐川 保、松野鉄平、櫻田 晃、佐藤康裕、中村
とき子、藤川幸司、高橋康雄
周術期化学療法を施行した大腸癌肝転移切除症
例の術前肝障害予測因子および背景肝障害度
についての病理組織学的検討
第112回日本消化器内視鏡学会
2016.3.5 札幌市
口頭発表
当施設

岡川 泰、佐川 保、濱口京子、田村文人、林
毅、藤川幸司、高橋康雄
カプセル内視鏡検査および造影CTにおける小
腸腫瘍性病変の発見率の検討

第112回日本消化器内視鏡学会
2016.3.6 札幌市
口頭発表
当施設

〈論文発表・著書など〉

Fumito Tamura, Yasushi Sato, Masahiro
Hirakawa, Makoto Yoshida, Michihiro Ono,
Takahiro Osuga, Yutaka Okagawa, Naoki
Uemura, Yohei Arihara, Kazuyuki Murase,
Yutaka Kawano, Satoshi Iyama, Kohichi
Takada, Tsuyoshi Hayashi, Tsutomu Sato,
Koji Miyanishi, Masayoshi Kobune, Rishu
Takimoto, Junji Kato

RNAi-mediated gene silencing of ST6Gal-
NAc I suppresses the metastatic potential in
gastric cancer cells

Gastric Cancer

19 (1) : pp85-97, 2016

原著

当施設

Sato Y, Ohnuma H, Hirakawa M, Takahashi
M, Osuga T, Okagawa Y, Murase K, Takada
K, Kawano Y, Iyama S, Hayashi T, Sato T,
Miyanishi K, Takimoto R, Kobune M, Okita
K, Mizuguchi T, Furuhashi T, Hirata K, Kato J.
A dose-escalation study of oxaliplatin/cape-
citabine/irinotecan (XELOXIRI) and beva-
cizumab as a first-line therapy for patients
with metastatic colorectal cancer.

Cancer Chemother Pharmacol

75 : 587-94, 2015

原著

他施設

Ishiwatari H, Hayashi T, Yoshida M, Ono M,
Sato T, Miyanishi K, Sato Y, Takimoto R,
Kobune M, Kato J.

Phase I trial of oral S-1 combined with he-

patric arterial infusion of gemcitabine in unresectable biliary tract cancer.

Cancer Chemother Pharmacol

75 : 805–12, 2015

原著

他施設

Yasuhiro Mitsui, Yasushi Sato, Hiroshi Miyamoto, Yasuteru Fujino, Toshi Takaoka, Jinsei Miyoshi, Miwako Kagawa, Hiroyuki Ohnuma, Masahiro Hirakawa, Tomohiro Kubo, Takahiro Osuga, Tamotsu Sagawa, Yasuhiro Sato, Yasuo Takahashi, Shinich Katsuki, Toshinori Okuda, Rishu Takimoto, Masayoshi Kobune, Takayuki Nobuoka, Koichi Hirata, Junji Kato, Tetsuji Takayama

Trastuzumab in combination with docetaxel /cisplatin/S-1(DCS) for patients with HER2-positive metastatic gastric cancer : feasibility and preliminary efficacy

Cancer Chemother Pharmacol

76 : 375–382, 2015

原著

他施設

Takahiro Goji, Tetsuo Kimura, Hiroshi Miyamoto, Masanori Takehara, Kaizo Kagemoto, Yasuyuki Okada, Jun Okazaki, Yoshifumi Takaoka, Yoshihiko Miyamoto, Yasuhiro Mitsui, Sayo Matsumoto, Tatsuhisa Sueuchi, Kumiko Tanaka, Yasuteru Fujino, Toshi Takaoka, Shinji Kitamura, Koichi Okamoto, Masako Kimura, Masahiro Sogabe, Naoki Muguruma, Toshiya Okahisa, Yasuhiro Sato, Tamotsu Sagawa, Koshi Fujikawa, Yasushi Sato, Hitoshi Ikushima, Tetsuji Takayama

A phase I/II study of fixed-dose-rate gemcitabine and S-1 with concurrent radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer

Cancer Chemother Pharmacol

76 : 615–620, 2015

原著

他施設

Eto K, Kawakami H, Haba S, Yamato H, Okuda T, Yane K, Hayashi T, Ehira N, Onodera M, Matsumoto R, Matsubara Y, Takagi T, Sakamoto N ; Hokkaido Interventional EUS/ERCP study (HONEST) group.

Single-stage endoscopic treatment for mild to moderate acute cholangitis associated with choledocholithiasis : a multicenter, non-randomized, open-label and exploratory clinical trial.

J Hepatobiliary Pancreat Sci.

22 (12) : 825–30, 2015

原著

他施設

Yasuo Hirayama, Kunihiko Ishitani, Yasushi Sato, Satoshi Iyama, Kohichi Takada, Kazuyuki Murase, Hiroyuki Kuroda, Yasuhiro Nagamachi, Yuichi Konuma, Akihito Fujimi, Tamotsu Sagawa, Kaoru Ono, Hiroto Horiguchi, Takeshi Terui, Kazuhiko Koike, Toshiro Kusakabe, Tsutomu Sato, Rishu Takimoto, Masayoshi Kobune, Junji Kato

Effect of duloxetine in Japanese patients with chemotherapy-induced peripheral neuropathy : a pilot randomized trial

Int J Clin Oncol

20 : 866–871, 2015

原著

他施設

Ohnuma H, Sato Y, Hirakawa M, Okagawa Y, Osuga T, Hayashi T, Sato T, Miyanishi K,

Kobune M, Takimoto R, Sagawa T, Hori M, Someya M, Nakata K, Sakata K, Takayama T, Kato J.

A Phase 1/2 Study of Definitive Chemoradiation Therapy Using Docetaxel, Nedaplatin, and 5-Fluorouracil (DNF-R) for Esophageal Cancer.

Int J Radiat Oncol Biol Phys.

93 (2) : 382–90, 2015

原著

他施設

Ishiwatari H, Hayashi T, Yoshida M, Ono M, Sato T, Miyanishi K, Sato Y, Takimoto R, Kobune M, Masuko H, Miyamoto A, Sonoda T, Kato J.

EUS-guided celiac plexus neurolysis by using highly viscous phenol-glycerol as a neurolytic agent (with video).

Gastrointest Endosc

81 (2) : 479–83, 2015

原著

他施設

Abe Y, Kawakami H, Oba K, Hayashi T, Yasuda I, Mukai T, Isayama H, Ishiwatari H, Doi S, Nakashima M, Yamamoto N, Kuwatani M, Mitsunashi T, Hasegawa T, Hirose Y, Yamada T, Tanaka M, Sakamoto N ; Japan EUS-FNA Stylet Study Group.

Effect of a stylet on a histological specimen in EUS-guided fine-needle tissue acquisition by using 22-gauge needles : a multicenter, prospective, randomized, controlled trial.

Gastrointest Endosc

82 (5) : 837–844, 2015

原著

他施設

Ishiwatari H, Hayashi T, Kawakami H,

Isayama H, Hisai H, Itoi T, Ono M, Kawakubo K, Yamamoto N, Tanaka M, Itokawa F, Oshiro H, Sonoda T, Hasegawa T ; Japan EZ port Study Group.

Randomized trial comparing a side-port needle and standard needle for EUS-guided histology of pancreatic lesions.

Gastrointest Endosc

17.Mar.20, 2016

原著

他施設

Sato Y, Sagawa T, Hirakawa M, Ohnuma H, Osuga T, Okagawa Y, Tamura F, Horiguchi H, Takada K, Hayashi T, Sato T, Miyanishi K, Takimoto R, Kobune M, Kato J.

Clinical utility of capsule endoscopy with flexible spectral imaging color enhancement for diagnosis of small bowel lesions.

Endosc Int Open

2 (2) : E80–7, 2015

原著

他施設

Kurihara T, Yasuda I, Isayama H, Tsuyuguchi T, Yamaguchi T, Kawabe K, Okabe Y, Hanada K, Hayashi T, Ohtsuka T, Oana S, Kawakami H, Igarashi Y, Matsumoto K, Tamada K, Ryozaawa S, Kawashima H, Okamoto Y, Maetani I, Inoue H, Itoi T.

Diagnostic and therapeutic single-operator cholangiopancreatography in biliopancreatic diseases : Prospective multicenter study in Japan.

World J Gastroenterol

7 ; 22 (5) : 1891–901, 2016

原著

他施設

Hayashi T, Kawakami H, Osanai M,

Ishiwatari H, Naruse H, Hisai H, Yanagawa N, Kaneto H, Koizumi K, Sakurai T, Sonoda T.
No benefit of endoscopic sphincterotomy before biliary placement of self-expandable metal stents for unresectable pancreatic cancer.

Clin Gastroenterol Hepatol
13 (6) : 1151–8, 2015

原著
他施設

林 毅、小野道洋、石渡裕俊、植村尚貴、荻野次郎、長谷川匡、加藤淳二

EUS-FNAの最新テクニックと迅速病理診断の実際

日本消化器内視鏡学会雑誌
57 : 54–65, 2015

症例報告
当施設

田村文人、河野 豊、宮西浩嗣、久保智洋、神原悠輔、岡川 泰、石川和真、高田弘一、林 毅、佐藤 勉、佐藤康史、小船雅義、瀧本理修、川本雅樹、目黒 誠、水口 徹、荻野次郎、長谷川匡、米田憲秀、佐々木素子、加藤淳二

肝生検で高分化型肝細胞癌との鑑別が困難であった多発肝細胞腺腫の1切除例

肝臓
56 (11) : 584–595, 2015

症例報告
当施設

日本肝臓学会、東京

Sakurada A, Hayashi T, Ono M, Ishiwatari H, Ogino J, Kimura Y, Kato J.

A case of curatively resected gastric wall implantation of pancreatic cancer caused by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration.

Endoscopy

47 Suppl 1 UCTN : E198–9, 2015

症例報告
他施設

Miura S, Ono M, Hayashi T, Ishiwatari H, Kato J.

EUS-guided choledochoduodenostomy for cholangitis caused by mucin derived from intraductal papillary-mucinous neoplasms penetrating the bile duct.

Gastrointest Endosc

81 (5) : 1266–7, 2015

症例報告
他施設

Hiroyuki Ohnuma, Yasushi Sato, Masahiro Hirakawa, Yutaka Okagawa, Takahiro Osuga, Tsuyoshi Hayashi, Tsutomu Sato, Koji Miyanishi, Masayoshi Kobune, Rishu Takimoto, Tamotsu Sagawa, Masakazu Hori, Masanori Someya, Kensei Nakata, Koh-ichi Sakata, Tetsuji Takayama and Junji Kato

A Phase 1/2 Study of Definitive Chemoradiation Therapy Using Docetaxel, Nedaplatin, and 5-Fluorouracil (DNF-R) for Esophageal Cancer

Int J Radiation Oncol Biol Phys

93(2) : pp.382e390, 2015

症例報告
他施設

血液内科

〈学会発表・講演など〉

米積昌克、日高大輔、鈴木左知子、黒澤光俊

骨原発ホジキンリンパ腫の1例

第50回日本血液学会春季北海道地方会

2015.4.4 札幌市

口頭発表

当施設

Michinori Ogura, Kensei Tobinai, Taro Shibata, Kiyoshi Ando, Mitsutoshi Kurosawa, Hiroshi Gomyo, Naokuni Uike, Norifumi Tsukamoto, Noriko Fukuhara, Tatsu Shimoyama, Masafumi Taniwaki, Kisato Nosaka, Yoshihiro Matsuno, Tomomitsu Hotta, Kunihiro Tsukasaki, Yasuo Morishima, Kazuhito Yamamoto, Lymphoma Study Group of Japan Clinical Oncology Group (JCOG)

Phase III study of rituximab plus high-dose AraC (HDAC)-containing chemotherapy (CTX) followed by ASCT in untreated Mantle cell lymphoma (MCL): Japan Clinical Oncology Group study (JCOG0406)

American Society of Clinical Oncology (ASCO) Annual Meeting.

2015.5.29 Chicago, USA"

ポスター発表

他施設

宮内あずさ、米積昌克、鈴木左知子、黒澤光俊、佐藤誠弘

乳腺悪性リンパ腫8症例の検討

第57回日本血液学会秋季北海道地方会

2015.9.12 札幌市

口頭発表

当施設

Dai Maruyama, Kazuhito Yamamoto, Taro

Shibata, Kensei Tobinai, Kiyoshi Ando, Mitsutoshi Kurosawa, Hiroshi Gomyo, Naokuni Uike, Norifumi Tsukamoto, Noriko Fukuhara, Tatsu Shimoyama, Masafumi Taniwaki, Kisato Nosaka, Yoshihiro Matsuno, Tomomitsu Hotta, Kunihiro Tsukasaki, Yasuo Morishima, Michinori Ogura, Japan Clinical Oncology Group-Lymphoma Study Group (JCOG-LSG)

Phase II study of R-High-CHOP/CHASER followed by LEED therapy with ASCT in untreated MCL (JCOG0406)

第77回日本血液学会学術集会

2015.10.16 金沢市

口頭発表

他施設

宮内あずさ、黒澤光俊、鈴木左知子、米積昌克

Clinical usefulness of the NCCN-IPI for patients with DLBCL in our institution

第77回日本血液学会学術集会

2015.10.17 金沢市

ポスター発表

当施設

前森雅世、酒井 基、鳥本悦宏、盛 暁生、堤 豊、太田秀一、石田禎夫、近藤 健、野島正寛、黒澤光俊

A retrospective study of acquired hemophilia in Hokkaido

第77回日本血液学会学術集会

2015.10.17 金沢市

ポスター発表

他施設

黒澤光俊

血液がんとは？

北海道血液市民セミナー

2015.10.10 札幌市

口頭発表

当施設

〈論文発表・著書など〉

Hayase E, Kurosawa M, Suzuki H, Kasahara K, Yamakawa T, Yonezumi M, Suzuki S, Teshima T.

Primary Bone Lymphoma: A Clinical Analysis of 17 Patients in a Single Institution.

Acta Haematol

134 : 80–85, 2015

原著

当施設

Shiratori S, Kosugi-Kanaya M, Shigematsu A, Kobayashi H, Yamamoto S, Kobayashi N, Iwasaki H, Mori A, Kunieda Y, Yutaka T, Kurosawa M, Kakinoki Y, Endo T, Kondo T, Hashino S, Teshima T; for the North Japan Hematology Study Group (NJHSG).

Ultra-high level of serum soluble interleukin-2 receptor at diagnosis predicts poor outcome for angioimmunoblastic T-cell lymphoma.

Leuk Lymphoma

24 : 1–6, 2015

原著

他施設

Kusumoto S, Tanaka Y, Suzuki R, Watanabe T, Nakata M, Takasaki H, Fukushima N, Fukushima T, Moriuchi Y, Itoh K, Nosaka K, Choi I, Sawa M, Okamoto R, Tsujimura H, Uchida T, Suzuki S, Okamoto M, Takahashi T, Sugiura I, Onishi Y, Kohri M, Yoshida S, Sakai R, Kojima M, Takahashi H, Tomita A, Maruyama D, Atsuta Y, Tanaka E, Suzuki T, Kinoshita T, Ogura M, Mizokami M, Ueda R.

Monitoring of Hepatitis B Virus (HBV)

DNA and Risk of HBV Reactivation in B-

Cell Lymphoma : A Prospective Observational Study.

Clin Infect Dis

61 : 719–29, 2015

原著

他施設

Iwaki N, Fajgenbaum DC, Nabel CS, Gion Y, Kondo E, Kawano M, Masunari T, Yoshida I, Moro H, Nikkuni K, Takai K, Matsue K, Kurosawa M, Hagihara M, Saito A, Okamoto M, Yokota K, Hiraiwa S, Nakamura N, Nakao S, Yoshino T, Sato Y.

Clinicopathologic analysis of TAFRO syndrome demonstrates a distinct subtype of HHV-8-negative multicentric Castleman disease.

Am J Hematol

91 : 220–226, 2016

原著

他施設

消化器外科

〈学会発表・講演など〉

前田好章、篠原敏樹、二川憲昭、濱田朋倫

外科医は根治不能患者のQOL改善へどこまで
貢献できるのかー癌性イレウス・瘻孔に対する、
症状緩和手術158例の経験からー

第115回日本外科学会定期学術集会

2015.4.16 名古屋市

パネル

当施設

二川憲昭、前田好章、篠原敏樹、濱田朋倫

膵術後膵液瘻発生の予測因子の検討

第115回日本外科学会定期学術集会

2015.4.16 名古屋市

口演

当施設

二川憲昭、前田好章、篠原敏樹、濱田朋倫

自動縫合器を用いた尾側膵切除は膵液瘻発生率
を低下させる

第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会プロ
グラム

2015.6.11 東京都

口演

当施設

前田好章、篠原敏樹、片山知也、二川憲昭、濱田
朋倫

術前3D-CTを用いた腹腔鏡下IMA温存左側大
腸癌手術から得られた外科的解剖学

第21回北海道内視鏡外科研究会

2015.6.27 札幌市

口演

当施設

I Iwanaga, S Yuki, H Fukushima, N Takahashi,
T Shichinoh, T Kusumi, F Nakamura, S
Sogabe, K Hatanaka, K Oomori, K Misaw, N

Senmaru, K Iwai, T Shinohara, M Koike, K
Miyashita, T Amano, Y.M. Ito, N Sakamoto, A
Taketomi, S Hirano and Y Komatsu

Safety analysis of FOLFOX as adjuvant che-
motherapy for stage III colon cancer in
phase II study (NORTH/HGCSG1003)- an
analysis of surgeons vs oncologists.

第17回ESMO World Congress on Gas-
trointestinal Cancer 2015

2015.7.1 Barcelona, Spain

ポスター

他施設

前田好章、篠原敏樹、二川憲昭、濱田朋倫

Coagulation Abnormalities in Gastroenterol-
ogical Surgery (消化器外科における凝固線溶
異常)

第70回日本消化器外科学会総会

2015.7.15 浜松市

ワーク

当施設

Yoshiaki Maeda, Toshiki Shinohara, Noriaki
Futakawa, Tomonari Katayama, Tomonori
Hamada

Short- and long-term outcomes of IMA-pre-
serving laparoscopic lymph node dissection
using 3D-CT angiography for rectal or left
sided colon cancer.

SLS Annual Meeting & Endo Expo

2015.9.2 New York, U.S.A

ポスター

当施設

片山知也、前田好章、二川憲昭、篠原敏樹、濱田
朋倫

直腸肛門部悪性黒色腫に対して腹腔鏡下腹会陰
式直腸切断術を行った1例

第36回日本大腸肛門病学会北海道支部会
2015.9.19 札幌市
口演
当施設

篠原敏樹、前田好章、濱田朋倫、二川憲昭、長津
明久

Stage IV大腸癌手術の治療成績および長期生存
例の検討

第13回日本消化器外科学会大会
2015.10.8 東京都
ポスター
当施設

前田好章、篠原敏樹、二川憲昭、濱田朋倫
転移性肝腫瘍に対する肝切除術のSurvival
benefitへの貢献. 大腸癌以外の肝転移59例の
治療成績

第13回日本消化器外科学会大会
2015.10.8 東京都
ポスター
当施設

前田好章、篠原敏樹、片山知也、二川憲昭、濱田
朋倫

術前3D-CTを用いた腹腔鏡下IMA温存左側結
腸・直腸癌手術の短期・長期成績

第28回日本内視鏡外科学会総会
2015.12.10 大阪市
口演
当施設

片山知也、前田好章、二川憲昭、篠原敏樹、濱田
朋倫

80歳以上高齢大腸癌患者に対する腹腔鏡下手術
の検討

第28回日本内視鏡外科学会総会
2015.12.10 大阪市
口演
当施設

〈論文発表・著書など〉

Toshiki Shinohara, Yoshiaki Maeda, Tomonori
Hamada, Noriaki Futakawa

Survival Benefit of Surgical Treatment for
Liver Metastases from Gastric Cancer

Journal of Gastrointestinal Surgery
19 (6) : 1043–1051, 2015

原著
当施設

Yoshiaki Maeda, Toshiki Shinohara, Akihisa
Nagatsu, Noriaki Futakawa, Tomonori
Hamada

Long-Term Outcomes of Conversion He-
patectomy for Initially Unresectable Colorec-
tal Liver Metastases

Annals of Surgical Oncology
23 (2) : 242–248, 2016

原著
当施設

篠原敏樹、前田好章、濱田朋倫、武田広子

肝転移伴うS状結腸癌に対し腹腔鏡下結腸癌切
除術施行後に門脈血栓を認めた1例

日本大腸肛門病学会雑誌
68 (7) : 494–500, 2015

症例報告
当施設

Maeda Y, Shinohara T, Katayama T,
Futakawa N, Hamada T.

Hepatectomy for liver metastases in non-co-
lorectal, non-neuroendocrine cancer pa-
tients. The survival benefit in primary
unresectable cases.

Int J Surg.
22 : 136–142, 2015

原著
当施設

乳腺外科

〈学会発表・講演など〉

高橋将人

乳癌の内分泌治療における現状と課題

Scientific Exchange Meeting in Sapporo

2015.4.3 札幌市

当施設

高橋将人

閉経後ER陽性進行・再発乳癌の臨床および今後の展望

Scientific Exchange Meeting in Osaka

2015.4.4 大阪市

講演

当施設

高橋将人

Systemic treatment for early breast cancer - news and future perspective

St.Gallen TV シンポジウム

2015.4.7 名古屋市

講演

当施設

高橋将人

ケーススタディから考える閉経後進行・再発乳癌のホルモン療法

AstraZeneca BC TV セミナー

2015.4.23 東京都

講演

当施設

高橋将人

乳腺外科医としてのエキスパンダー挿入術
乳腺外科医向けエキスパンダー勉強会

2015.5.10 札幌市

講演

当施設

高橋将人

ケーススタディから考える閉経後進行・再発乳癌のホルモン療法

Astra Zeneca BC TV セミナー

2015.5.13 東京都

講演

当施設

渡邊健一

乳がんについて～知っていただきたいこと～

JCHO北海道病院 健康フェア

2015.5.21 札幌市

講演

当施設

渡邊健一

乳癌治療Update～薬物療法の役割～

第2回北海道Breast Care Nursing 研究会

2015.5.23 札幌市

講演

当施設

高橋将人

ER陽性進行・再発閉経後乳癌における臨床的課題と求められる臨床データ

AstaraZeneca Breast Cancer Advisory Board Meeting in ASCO

2015.6.1 Chicago, U.S.A

ディスカッサント

当施設

渡邊健一、小畑慶子、萩尾加奈子、馬場 基、五十嵐麻由子、佐藤雅子、富岡伸元、高橋将人
北海道がんセンターにおける、HBOCに対するリスク低減乳房切除術（RRM）

第21回日本家族性腫瘍学会

2015.6.5 さいたま市

ポスター

当施設

高橋将人

カドサイラの治療経験と乳癌治療最近の話題

乳癌薬剤師セミナー in Sapporo

2015.6.23 札幌市

講演

当施設

高橋将人

乳癌化学療法マネジメント

ジーラスタ発売記念講演会

2015.6.25 室蘭市

講演

当施設

高橋将人

遺伝性乳癌卵巣癌治療の今後の展望

第23回日本乳癌学会学術総会イブニングセミナー 5

2015.7.2 東京都

当施設

高橋将人

遺伝性乳癌卵巣癌に対する北海道地区での取り組み

第23回日本乳癌学会学術総会イブニングセミナー 5

2015.7.2 東京都

講演

当施設

富岡伸元、馬場 基、萩尾加奈子、佐藤雅子、五十嵐麻由子、渡邊健一、山城勝重、高橋将人

トリプルネガティブ乳癌 (TNBC) における腫瘍リンパ球浸潤 (TILs) と術前化学療法の治療効果および予後との関係

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.2 東京都

ポスター

当施設

萩尾加奈子、五十嵐麻由子、馬場 基、佐藤雅子、富岡伸元、渡邊健一、高橋将人

当院における若年性乳癌の検討

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.2 東京都

ポスター

当施設

市之川一臣、石田直子、郭 家志、山本 貢、細田充主、山下啓子

エストロゲンレセプター陽性早期乳癌患者の術後補助内分泌療法の完遂率の検討

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.2 東京都

ポスター

他施設

加藤扶美、工藤興亮、水戸寿々子、森 祐生、海谷佳孝、山下啓子、Jeff Wang、細田充主、菅野宏美、山本 貢、三村理恵、藪崎哲史、坂本圭太、真鍋徳子、白土博樹

3T MRIにおけるPMViewを用いた乳腺腫瘍の血流解析と病理学的因子に関する検討

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.2 東京都

ポスター

他施設

石田直子、畑中 豊、菅野宏美、細田充主、山本 貢、市之川一臣、郭 家志、山下啓子

免疫組織化学法でHER2陰性と判定されたER陽性乳癌の早期再発症例におけるHER2遺伝子増幅の検討

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.2 東京都

ポスター

他施設

郭 家志、山下啓子、細田充主、山本 貢、市之川一臣、石田直子

乳癌サブタイプの年齢別年次推移についての検討

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.2 東京都

ポスター

他施設

長谷川美樹、小山 諭、永橋昌幸、土田純子、諸和樹、辰田久美子、利川千絵、萬羽尚子、五十嵐麻由子、岩井俊文

乳房切除後疼痛症候群に対する胸筋ブロック(PECSB)の有効性の検討ー前向き二重盲検無作為化比較試験

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.2 東京都

講演

他施設

日紫喜万理子、長谷川美樹、小山 諭、永橋昌幸、土田純子、諸和樹、辰田久美子、萬羽尚子、五十嵐麻由子、若井俊文

手術により精神症状の著明な改善を認めた傍腫瘍性神経症候群合併乳癌の一例

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.2-4 東京都

e-Poster

他施設

諸和樹、小山 諭、永橋昌幸、土田純子、長谷川美樹、利川千絵、辰田久美子、萬羽尚子、五十嵐麻由子、若井俊文

術後に傍腫瘍性神経症候群が強く疑われた乳癌の1例

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.2-4 東京都

e-Poster

他施設

高橋將人

乳がんの総合診断・治療とは？～症例から読み解く～

第23回日本乳癌学会学術総会共催イブニングセミナー 12

2015.7.3 東京都

講演

当施設

渡邊健一、吉波哲大、原文堅、相良安昭、川口英俊、松並展輝、長谷川善枝、岩本充彦、四元大輔、高橋將人、水谷麻紀子、増田慎三、中山貴寛、大谷彰一郎

エリブリン隔週投与方法の有効性と安全性の検討ーJUST-STUDYー

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.3 東京都

ポスター

当施設

佐藤雅子、萩尾加奈子、森彩絵未、矢ヶ部りな、坂名美子、五十嵐麻由子、馬場 基、富岡伸元、渡邊健一、山城勝重、高橋將人

当科でステレオガイド下マンモトーム生検を施行した乳房石灰化病変の検討

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.3 東京都

ポスター

当施設

五十嵐麻由子、萩尾加奈子、馬場 基、佐藤雅子、富岡伸元、渡邊健一、高橋將人、山城勝重、武田広子

当院における乳腺葉状腫瘍外科治療の検討

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.3 東京都

ポスター

当施設

高橋由美、渡邊健一、富岡伸元、馬場 基、佐藤

雅子、萩尾加奈子、五十嵐麻由子、玉木慎也、高田慎也、高橋將人

化学療法時の口腔内冷却法(クライオセラピー)施行における口腔粘膜障害の予防効果

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.3 東京都

ポスター

当施設

山本 貢、細田充主、市之川一臣、石田直子、郭家志、畑中 豊、山下啓子

変異p53蛋白発現がアロマターゼ阻害剤投与後再発乳癌症例の予後に及ぼす影響の検討

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.3 東京都

ポスター

他施設

細田充主、山本 貢、市之川一臣、石田直子、郭家志、山下啓子

ER陽性HER2陰性閉経後乳癌患者における骨密度の検討

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.3 東京都

ポスター

他施設

小山 諭、永橋昌幸、諸 和樹、土田純子、長谷川美樹、利川千絵、辰田久美子、萬羽尚子、五十嵐麻由子、若井俊文

高齢者 Triplenegative 乳癌の治療－若年者との比較

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.3 東京都

ポスター

他施設

向井博文、光山昌珠、福田治彦、河野範男、後藤功一、岩田広治、高橋將人、岩瀬弘敬

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.4 東京都

パネリスト

他施設

山下啓子、萩谷朗子、枝園忠彦、堀本義哉、増田慎三、稲尾瞳子、堀井理絵、山崎希恵子、三好雄一郎、八十島宏行、大佐古智文、高橋將人、富岡伸元、萩尾加奈子、遠藤友美、細田充主、石田直子

2013年度日本乳癌学会班研究最終報告「晩期再発乳癌の生物学的特徴と予測因子に関する研究」

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.4 東京都

講演

他施設

中村力也、林 直輝、新倉直樹、増田慎三、高嶋成輝、渡邊健一、神林智寿子、石田真弓、佐治重衡、岩田広治

HER2陽性脳転移乳癌症例の予防予測因子の検討 多施設共同後ろ向きコホート研究

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.4 東京都

講演

他施設

早川昌子、渡邊健一、高橋由美、橋本直樹、成田富美子、川嶋啓明、河野 勤、下田愛衣、渡辺亨、宮本康敬、天野一恵、岩本充彦、小野ひとみ、相原智彦、杉本健樹、藤原キミ、相良安昭、戸畑利香、宮良球一郎、海野利恵

Web会議方式で行う多地点多職種参加の看護カンファレンスの実際と成果

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.4 東京都

ポスター

他施設

永橋昌幸、土田純子、辰田久美子、利川千絵、長

谷川美樹、萬羽尚子、五十嵐麻由子、小山 諭、
山田顕光、青柳智義

がん微小環境中にはスフィンゴシ-1-リン酸 (S
1P) が高濃度で存在する

第23回日本乳癌学会学術総会

2015.7.4 東京都

講演

他施設

高橋將人

HER2陽性乳がん治療の現状～パージェタ・カ
ドサイラの役割

2015.7.5 東京都

当施設

渡邊健一、萩尾加奈子、馬場 基、五十嵐麻由子、
佐藤雅子、富岡伸元、高橋將人

HER2陽性転移・再発乳癌に対する抗HER2療
法～レジメンと治療成績～

第13回日本臨床腫瘍学会

2015.7.16 札幌市

ポスター

当施設

高橋將人

Eribulin 検討会

2015.7.26 東京都

ディスカッサント

当施設

高橋將人

乳癌化学療法のマネジメント

道南乳腺疾患研究会学術講演会

2015.7.31 函館市

講演

当施設

高橋將人

乳がんの診断と治療

Bone Image-Step to Cooperating on In-

terpretation (BISCO2015)

2015.8.1 東京都

講演

当施設

高橋將人

チームサージャリーによる安全で整容性の高い
乳房再建治療

函館乳房再建治療普及講演会

2015.8.8 函館市

講演

当施設

高橋將人

デジタルマンモグラフィの最新情報2015

FUJIFILM LADIES' SEMINAR 2015 in 北海
道

2015.8.23 札幌市

当施設

高橋將人

乳癌薬物療法の最前線～抗HER2どうでしょう～

第3回日本乳房オンコプラスチックサー
ジャリー学会

ランチョンセミナー3

2015.9.3 札幌市

講演

当施設

高橋將人

乳がんよもやま話ー守って欲しいこと、避けて
欲しいこと

札幌市医師会家庭医学講座

2015.9.5 札幌市

講演

当施設

高橋將人

乳がん治療薬の開発の現状と今後の展開

2015.9.6 東京都

当施設	富岡伸元
高橋將人	症例-2
チーム医療実践のための認定・専門看護師の役割と課題	第13回日本乳癌学会北海道地方会
第13回日本乳癌学会北海道地方会	2015.9.12 札幌市
2015.9.12 札幌市	当施設
パネルディスカッション	富岡伸元、東 学、萩尾加奈子、五十嵐麻由子、山本 貢、佐藤雅子、渡邊健一、山城勝重、高橋將人
当施設	TNBCにおけるTILsやPD-L1の発現は、PSTの治療効果や予後と関連する
渡邊健一	第13回日本乳癌学会北海道地方会
乳癌患者の不眠と気持ちのつらさに対応するためのコツ	2015.9.12 札幌市
第13回日本乳癌学会北海道地方会	口頭発表
2015.9.12 札幌市	当施設
ランチョンセミナー	佐藤雅子、萩尾加奈子、五十嵐麻由子、山本 貢、富岡伸元、渡邊健一、山城勝重、高橋將人
当施設	当科における男性乳癌の臨床病理学的検討
渡邊健一	第13回日本乳癌学会北海道地方会
特殊病態	2015.9.12 札幌市
第13回日本乳癌学会北海道地方会	口頭発表
2015.9.12 札幌市	当施設
当施設	山本 貢、萩尾加奈子、五十嵐麻由子、佐藤雅子、富岡伸元、渡邊健一、高橋將人
渡邊健一	トリプルネガティブ浸潤性小葉癌の検討
治療部門	第13回日本乳癌学会北海道地方会
第13回日本乳癌学会北海道地方会 教育セミナー	2015.9.12 札幌市
2015.9.12 札幌市	口頭発表
講演	当施設
当施設	五十嵐麻由子、萩尾加奈子、山本 貢、佐藤雅子、富岡伸元、玉木慎也、渡邊健一、高橋將人
渡邊健一、萩尾加奈子、五十嵐麻由子、山本 貢、佐藤雅子、富岡伸元、玉木慎也、高橋將人	乳癌化学療法におけるPegfilgrastim予防的投与の経験
Pegfilgrastim併用によるDose-dence EC療法の安全性と忍容性	第13回日本乳癌学会北海道地方会
第13回日本乳癌学会北海道地方会	2015.9.12 札幌市
2015.9.12 札幌市	口頭発表
口頭発表	当施設
当施設	

小畑慶子、渡邊健一、萩尾加奈子、山本 貢、五十嵐麻由子、佐藤雅子、富岡伸元、高橋將人

BRCA1/2遺伝子変異予測モデルの有用性の検討

第13回日本乳癌学会北海道地方会

2015.9.12 札幌市

口頭発表

当施設

木野田直也、市村 亘、竹井俊樹、田中 七、朴貞恩、渡邊健一、山城勝重

乳腺原発印環細胞癌の1例

第13回日本乳癌学会北海道地方会

2015.9.12 札幌市

口頭発表

当施設

朴 貞恩、市村 亘、竹井俊樹、田中 七、木野田直也、富岡伸元、山城勝重

両側乳腺に巨大嚢胞性腫瘤を認めた1例

第13回日本乳癌学会北海道地方会

2015.9.12 札幌市

口頭発表

当施設

矢島和宜、野平久仁彦、新富芳尚、高橋將人、秦庸壯、三上俊彦、増岡秀次、鈴木康弘、細川正夫、山本有平

一次再建（エキスパンダー挿入術）を前提とした乳腺全摘術における切除手順の提案

第13回日本乳癌学会北海道地方会

2015.9.12 札幌市

口頭発表

他施設

高橋將人

HER2陽性乳癌の現在のエビデンス

京滋乳がん井戸端会議

2015.9.25 京都市

講演

当施設

Nobumoto Tomioka, Azuma Manabu, Kanako Hagio, Mayuko Ikarashi, Mitsugu Yamamoto, Masako Sato, Kenichi Watanabe, Kastushige Yamashiro, Masato Takahashi

Tumor infiltrating lymphocytes (TILs) and the expression of programmed death ligand 1 (PD-L1) as predictors for the response rate of preoperative systemic therapy (PST) and prognosis in triple-negative breast cancer (TNBC)

ASCO BREAST CANCER SYMPOSIUM

2015.9.26 San Francisco, U.S.A

ポスター

当施設

高橋將人

乳がん初期治療の考え方

第69回国立病院総合医学会 ランチョンセミナー 23

2015.10.3 札幌市

当施設

高橋將人

閉経後ER陽性進行・再発乳癌の臨床および今後の展望

第10回 中国Breast Cancer Workshop

2015.10.10 岡山市

講演

当施設

高橋將人

ものづくりが拓く乳がん医療～再発乳がん治療戦略と意思決定支援～

Taiho Breast Cancer Forum in Sapporo

2015

2015.10.17 札幌市

当施設

佐藤雅子

当科におけるHER2陽性転移・再発乳癌に対す

る T-DM1 の使用経験

第53回日本癌治療学会学術集会

2015.10.29 京都市

ポスター

当施設

高橋将人

乳腺 8 : 乳がん手術療法の新展開

第53回日本癌治療学会学術集会

2015.10.30 京都市

当施設

高橋将人

乳房再建手術～乳腺外科医の役割～

第29回北海道乳腺疾患研究会学術集会

2015.11.6 札幌市

当施設

Masako Sato, Kanako Hagio, Mayuko Ikarashi, Motoi Baba, Nobumoto Tomioka, Kenichi Watanabe, Jun Arikura, Hirofumi Adachi, Keishi Kondo, Katsusige Yamashiro, Masato Takahashi

Heterogeneity in the expression of hormone receptors and HER2 between the primary breast cancer and pulmonary metastasis

Advanced Breast Cancer Third International Consensus Conference

2015.11.6 Lisboa, Portuguesa

ポスター

当施設

高橋将人

乳癌薬物療法の現状と課題～抗HER2どうでしょう～

Hokusetsu Breast Cancer Conference

2015.11.13 大阪市

講演

当施設

高橋将人

今、最良の乳がん治療とは

道民のための乳がんフォーラム in SAP-PORO 2015～がんに負けない社会の実現を目指して～

2015.11.15 札幌市

講演

当施設

高橋将人

抗HER2療法の最新の話

北海道乳癌治療戦略を語る会

2015.11.17 札幌市

講演

当施設

高橋将人

がん支持療法としての口腔ケアの重要性～FN改善効果も含めて～

ジーラスタ発表1周年記念講演会～FNマネジメントの重要性～

2015.11.21 札幌市

当施設

高橋将人

この患者さんの治療法は？先生ならどうしますか
札幌ことに乳腺クリニック講演会

自分と家族を守るために一学んで知ろう乳がんの話ー

2015.12.5 札幌市

パネリスト

当施設

Masato Takahashi, Toshikazu Ito, Shoji Oura, Shinji Nagamine, Naohito Yamamoto, Noboru Yamamichi, Mitsuharu Earashi, Hiroyoshi Doihara, Shigeru Imoto, Shoshu Mitsuyama and Kohei Akazawa

RadioFrequency Ablation (RFA) is a promising treatment option for primary breast

cancer : experience in 386 Japanese breast cancer patients

2015 SAN ANTONIO BREAST CANCER SYMPOSIUM

2015.12.10 San Antonio, U.S.A

ポスター

当施設

Sagara Y, Sawaki M, Taira N, Saito T, Kashiwaba M, Iwata H, Kobayashi K, Nakayama T, Bando H, Mizuno T, Yamamoto Y, Tsuneizumi M, Takahashi M, Yamaguchi M, Kawashima H, Takashima T, Uemura Y, Hozumi Y, Sagawa N, Mukai H, Ohashi Y

A randomized clinical trial of postoperative adjuvant therapy for elderly breast cancer patients: Conditions of obtaining informed consent and reasons for declining participation

2015 SAN ANTONIO BREAST CANCER SYMPOSIUM

2015.12.11 San Antonio, U.S.A

ポスター

他施設

高橋将人

北海道での予防的手術

遺伝性乳がん卵巣がんーがんと遺伝を正しく知ろうー

2016.1.10 札幌市

講演

当施設

高橋将人

乳癌治療とG-CSF製剤適正使用について

Sapporo Pharmacy Seminar

2016.2.2 札幌市

講演

当施設

高橋将人

再発乳癌治療におけるQOLの意義

群馬エリブリンカンファレンス2016

2016.2.4 前橋市

講演

当施設

高橋将人

再発乳癌治療におけるQOLの意義

ハラヴェン Meet The Expert

2016.2.18 川崎市

講演

当施設

高橋将人

乳がんーみんなが知りたいこと、医者がみんなに知って欲しいと思っていることー

第3回地域健康教室

2016.2.19 札幌市

講演

当施設

高橋将人

第28回北海道癌治療研究会学術講演会

2016.2.27 札幌市

当施設

高橋将人

Bone Health in Sapporo

2016.3.3 札幌市

当施設

富岡伸元

当科における薬剤関連性顎骨壊死 (MRONJ)

症例の検討

Bone Health in Sapporo

2016.3.3 札幌市

講演

当施設

高橋将人
乳癌化学療法における治療強度の維持～Dose-Denseという新しい選択肢の可能性～
第13回日本乳癌学会九州地方会 ランチョンセミナー 2
2016.3.5 福岡市
講演
当施設

高橋将人
再発乳癌治療におけるQOLの意義
ハラヴェン講演会
Meet the expert in Hakodate
2016.3.12 函館市
講演
当施設

高橋将人
再発乳癌治療におけるQOLの意義
Halaven Meet the expert
2016.3.18 長久手市
講演
当施設

高橋将人
再発乳癌治療におけるQOLの意義
Meet the expert in Sapporo
2016.3.26 札幌市
講演
当施設

〈論文発表・著書など〉
高橋将人、大村東生、北田正博、九富五郎、細田充主、増岡秀次、渡邊健一、渡部芳樹、山下啓子、平田公一
乳がん周術期内分泌療法アンケート調査ー地域での検討と有用性ー
癌と化学療法
42 (5) : 575-579, 2015
〈株癌と化学療法社

原著
当施設

高橋将人
ケーススタディから考える閉経後進行・再発乳癌のホルモン療法
Faslodex® Key Opinion Leader Leaflet
その他刊行物
当施設

高橋将人、池田由加利、櫻井晃洋、萩尾加奈子、五十嵐麻由子、馬場 基、佐藤雅子、富岡伸元、渡邊健一
ハイリスク女性に対する検診をどうするか
北海道での若年性検診状況とHBOC（遺伝性乳癌卵巣癌症候群）への対策の現状
日本乳癌検診学会誌
24 (2) : 224-227, 2015
その他刊行物
当施設

高橋将人
転移・再発乳癌治療に求められる評価指標とは？ーQALYの考え方と実臨床における治療選択のポイントー
Faslodex® Key Opinion Leader Leaflet
その他刊行物
当施設

高橋将人
Brest cancer
医師・薬剤師向け説明会用スライド
監修
当施設

Hiroyasu Yamashiro, Hiroji Iwata, Norikazu Masuda, Naohito Yamamoto, Reiki Nishimura, Shoichiro Ohtani, Nobuki Sato, Masato Takahashi, Takako Kamio, Kosuke Yamazaki, Tsuyoshi Saito, Makoto Kato,

Tecchuu Lee, Shinji Ohno, Katsumasa Kuroi,
Toshimi Takano, Masahiro Takada, Shinji
Yasuno, Satoshi Morita, Masakazu Toi

Outcomes of trastuzumab therapy in HER2-
positive early breast cancer patients

International Journal of Clinical Oncol-
ogy

20 : 709–722, 2015

Springer

原著

他施設

Seigo Nakamura, Masato Takahashi,
Mitsuhiro Tozaki, Takahiro Nakayama,
Tadashi Nomizu, Yoshio Miki, Yoshie
Murakami, Daisuke Aoki, Takuji Iwase,
Seiichiro Nishimura, Hideko Yamauchi, Shozo
Ohsumi, Shinichi Baba, Tadao Shimizu

Prevalence and differentiation of hereditary
breast and ovarian cancers in Japan

Breast Cancer

22 : 462–468, 2015

Springer

原著

他施設

呼吸器外科

〈学会発表・講演など〉	2015.6.27 札幌市
安達大史、水上 泰、有倉 潤、近藤啓史	口演
臨床病期 (c) N2IIIA 期非小細胞癌に対する外科治療成績の検討	当施設
第115回日本外科学会定期学術集会	安達大史、水上 泰、有倉 潤、近藤啓史
2015.4.16 名古屋市	男性の肺がん、女性の肺がん
口頭発表	第11回市民のための北海道がんフォーラム
当施設	肺がんに効く、肺がんの話の聞く会
	2015.7.4 札幌市
安達大史、水上 泰、有倉 潤、近藤啓史	口頭発表
胸腔鏡手術時の肺動脈からの出血、原因と対策	当施設
第32回日本呼吸器外科学会総会	
2015.5.14 高松市	水上 泰
口頭発表	高齢者の肺がんの特徴
当施設	第11回市民のための北海道がんフォーラム
	肺がんに効く、肺がんの話の聞く会
有倉 潤、水上 泰、安達大史、近藤啓史	2015.7.4 札幌市
肺癌術後有癭性膿胸開窓後に筋弁充填術を施行した2例	口演
第32回日本呼吸器外科学会総会	当施設
2015.5.15 高松市	
ポスター発表	有倉 潤、上田宣仁、水上 泰、安達大史、近藤啓史
当施設	肺がんの外科治療の役割
	第11回市民のための北海道がんフォーラム
水上 泰、上田宣仁、安達大史、有倉 潤、近藤啓史	肺がんに効く、肺がんの話の聞く会
当センターにおける80歳以上の高齢者肺癌手術症例の検討	2015.7.4 札幌市
第32回日本呼吸器外科学会総会	口頭発表
2015.5.15 高松市	当施設
示説	
当施設	安達大史、上田宣仁、水上 泰、有倉 潤、近藤啓史
	左背部滑膜肉腫の治療から29年後に右肺に発生した滑膜肉腫の1例
水上 泰、上田宣仁、安達大史、有倉 潤、近藤啓史	第103回北海道外科学会
当センターにおける呼吸器外科術後の乳糜胸症例の検討	2015.9.19 札幌市
第21回北海道内視鏡外科研究会	口頭発表
	当施設

安達大史、上田宣仁、水上 泰、有倉 潤、近藤啓史

原発性肺癌手術症例に対するFDG-PETによる
ステージの有用性の検討

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2 札幌市

口頭発表

当施設

有倉 潤、上田宣仁、水上 泰、安達大史、近藤啓史

IV期非小細胞肺癌に対する肺切除症例の検討

第68回日本胸部外科学会定期学術集会

2015.10.20 神戸市

口頭発表

当施設

安達大史、上田宣仁、水上 泰、有倉 潤、近藤啓史

性別による原発性肺癌手術症例の検討

第95回北海道医学大会肺癌分科会・第41回

日本肺癌学会北海道支部会

2015.10.24 札幌市

口頭発表

当施設

上田宣仁、水上 泰、有倉 潤、安達大史、近藤啓史

当科における悪性胸膜中皮腫21例の検討

第6回日本中皮腫研究会

2015.11.14 北九州市

口頭発表

当施設

有倉 潤、上田宣仁、水上 泰、安達大史、近藤啓史

縦隔脂肪肉腫の1例

第56回日本肺癌学会学術集会

2015.11.26 横浜市

ポスター発表

当施設

安達大史、上田宣仁、水上 泰、有倉 潤、近藤啓史

原発性肺癌手術症例におけるFDG-PETの有用性

第56回日本肺癌学会学術集会

2015.11.27 横浜市

口頭発表

当施設

水上 泰、上田宣仁、安達大史、有倉 潤、近藤啓史

当センターにおける血管処理とLigasure Marylandの使用経験

第15回呼吸器胸腔鏡手術研究会例会

2015.12.9 大阪市

口演

当施設

有倉 潤、上田宣仁、水上 泰、安達大史、近藤啓史

左B1+2分岐異常を有する肺癌に対するS3+舌区切除の1例

第28回日本内視鏡外科学会総会

2015.12.10 大阪市

口頭発表

当施設

安達大史、上田宣仁、水上 泰、有倉 潤、近藤啓史

多房性胸腺嚢胞と考えられた一例

第35回日本胸腺研究会

2016.2.6 徳島市

口頭発表

当施設

安達大史、上田宣仁、水上 泰、有倉 潤、近藤啓史

いわゆる早期肺癌の外科治療

第111回日本呼吸器学会北海道支部学術集
会

2016.2.27 札幌市

口頭発表

当施設

腫瘍整形外科

〈学会発表・講演など〉

Hiroaki Hiraga, Shunji Takahashi, Nobuhito Araki, Hideshi Sugiura, Takafumi Ueda, Tsukasa Yonemoto, Mitsuru Takahashi, Hideo Morioka, Toru Hiruma, Toshiyuki Kunisada, Akihiko Matsumine, Akira Kawai

FINAL RESULTS OF TWO PHASE II STUDIES, A RANDOMIZED COMPARATIVE STUDY AND A SINGLE ARM STUDY, OF TRABECTEDIN IN PATIENTS WITH TRANSLOCATION-RELATED SARCOMAS (TRS)

CTOS (Connective Tissue Oncology Society)

2015.11.4-7 Salt Lake City, U.S.A

ポスター発表

当施設

森 智章、遠藤 誠、深瀬直政、平賀博明、富田雅人、小林英介、篠田裕介、上田孝文、森岡秀夫、戸山芳昭

骨原発性平滑筋肉腫の治療成績－骨軟部肉腫治療研究会 (JMOG) 多施設共同研究－

第88回日本整形外科学会学術総会

2015.5.21-24 神戸市

口頭発表

他施設

小倉浩一、藤原智洋、平賀博明、石井 猛、米本司、鴨田博人、尾崎敏文、西田佳弘、小澤英史、川井 章

骨肉腫における無転移生存率を予測する予後予測ノモグラムの開発

第88回日本整形外科学会学術総会

2015.5.21-24 神戸市

口頭発表

他施設

小山内俊久、平賀博明、相馬 有、井須和男

がん専門病院における骨・軟部腫瘍患者に対するリハビリテーションの現状と課題

第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会

2015.7.9-10 高松市

口頭発表

当施設

松田浩一、平賀博明、綿貫宗則、秋山 達、河野博隆、岩田慎太郎、比留間徹、五嶋孝博、阿部哲士、西田佳弘、橋本伸之、岩本幸英、小田義直、元井 亨、山口 類、松原大祐、植田幸綱、平田真、津田祐輔、中川英刀

骨・軟部腫瘍ゲノムコンソーシアムの構築とゲノム解析に向けた取り組み

第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会

2015.7.9-10 高松市

口頭発表

他施設

小倉浩一、藤原智洋、松居宏樹、康永秀生、平賀博明、石井 猛、米本 司、鴨田博人、尾崎敏文、小澤英史、西田佳弘、森岡秀夫、比留間徹、角永茂樹、上田孝文、荒木信人、中 紀文、津田祐輔、河野博隆、川井 章

骨肉腫における全生存率を予測する予後予測ノモグラムの開発

第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会

2015.7.9-10 高松市

口頭発表

他施設

森岡秀夫、高橋俊二、荒木信人、杉浦英志、上田孝文、高橋 満、米本 司、平賀博明、比留間徹、国定俊之、松峯昭彦、須佐美知郎、中山ロバート、

西本和正、菊田一貴、川井 章

骨外性粘液型軟骨肉腫および間葉性軟骨肉腫に
対するトラベクテジンの治療成績

第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術
集会

2015.7.9-10 高松市

ポスター発表

他施設

平賀博明

軟部腫瘍の鑑別診断

第12回MOS会 (Monday Orthopedics
Seminar)

2016.2.15 札幌市

講演

当施設

小山内俊久

活動性が低下したがん患者の骨密度と骨折リス
ク評価

第33回日本骨代謝学会学術集会

2015.7.23-25 東京都

口頭発表

当施設

小山内俊久

骨転移の診療－ガイドラインを読込む

第25回弘前大学整形外科夏の研修会 (日本
整形外科学会教育研修講演)

2015.8.8 弘前市

講演

当施設

〈論文発表・著書など〉

Hiroaki Hiraga

Neoadjuvant Chemotherapy Developed in Ja-
pan

Osteosarcoma

Part III pp83-96, 2016

著書

当施設

荒木信人、石井 猛、石黒直樹、大塚隆信、大野
貴敏、生越 章、尾崎敏文、川井 章、佐藤啓二、
下瀬省二、高橋 満、田仲和宏、土谷一晃、土屋
弘行、戸口田淳也、西田佳弘、播谷勝三、平賀
博明、麩谷博之、別府保男、松本誠一、森岡秀夫、
山本哲司、石田 剛、中嶋安彬、野島孝之

整形外科・病理 悪性骨腫瘍取扱い規約 第4版

2015

著書

金原出版株式会社

当施設

Kawai A, Araki N, Sugiura H, Ueda T,
Yonemoto T, Takahashi M, Morioka H,
Hiraga H, Hiruma T, Kunisada T, Matsumine
A, Tanase T, Hasegawa T, Takahashi S.

Trabectedin monotherapy after standard
chemotherapy versus best supportive care in
patients with advanced, translocation-re-
lated sarcoma : a randomised, open-label,
phase 2 study.

Lancet Oncol

16 (4) : 406-16, 2015

原著

他施設

Nakamura T, Matsumine A, Kawai A, Araki
N, Goto T, Yonemoto T, Sugiura H, Nishida
Y, Hiraga H, Honoki K, Yasuda T, Boku S,
Sudo A, Ueda T.

The clinical outcome of pazopanib treatment
in Japanese patients with relapsed soft tis-
sue sarcoma : A Japanese Musculoskeletal
Oncology Group (JMOG) study.

Cancer

doi:10.1002/cncr.29961.PMID:26970174,

2016

原著

他施設

Ogura K, Fujiwara T, Yasunaga H, Matsui H, Jeon DG, Cho WH, Hiraga H, Ishii T, Yonemoto T, Kamoda H, Ozaki T, Kozawa E, Nishida Y, Morioka H, Hiruma T, Kakunaga S, Ueda T, Tsuda Y, Kawano H, Kawai A.

Development and external validation of nomograms predicting distant metastases and overall survival after neoadjuvant chemotherapy and surgery for patients with nonmetastatic osteosarcoma : A multi-institutional study.

Cancer

121 (21) : 3844–52, 2015

原著

他施設

Kimura T, Wang L, Tabu K, Tsuda M, Tanino M, Maekawa A, Nishihara H, Hiraga H, Taga T, Oda Y, Tanaka S.

Identification and analysis of CXCR4-positive synovial sarcoma-initiating cells.

Oncogene

doi.10.1038/onc.2015.461 PMID:26640147, 2015

原著

他施設

Araki N, Takahashi S, Sugiura H, Ueda T, Yonemoto T, Takahashi M, Morioka H, Hiraga H, Hiruma T, Kunisada T, Matsumine A, Kawai A.

Retrospective inter-and intra-patient evaluation of trabectedin after best supportive care for patients with advanced traslocation-related sarcoma after failure of standdard chemotherapy.

Eur J Cancer

56 : 122–130, 2016

原著

他施設

Akira Kawai, Nobuhito Araki, Hiroaki Hiraga, Hideshi Sugiura, Akihiko Matsumine, Toshifumi Ozaki, Takafumi Ueda, Takashi Ishii, Taito Esaki, Michiko Machida, Nobuaki Fukasawa.

A randomized, double-blind, placebo-controlled, Phase III study of pazopanib in patients with softtissue sarcoma : results from the Japanese subgroup

Jpn J Clin Oncol

46 (3) : 248–53, 2016

原著

他施設

形成外科

〈学会発表・講演など〉

齋藤 亮、山本有平、平賀博明

当科で再建手術をおこなった悪性軟部腫瘍局所
再発症例の検討

第58回日本形成外科学会総会・学術集会

2015.4.8 京都市

口頭発表

当施設

北海道乳房再建研究会2015

2015.11.7 札幌市

口頭発表

当施設

齋藤 亮、山本有平、平賀博明

当科で再建手術をおこなった悪性軟部腫瘍un-
planned excision 後追加切除症例の検討

第58回日本形成外科学会総会・学術集会

2015.4.8 京都市

口頭発表

当施設

齋藤 亮、有倉 潤、安達大史、水上 泰、近藤
啓史

有瘻性膿胸開窓後の気管支断端瘻閉鎖において
骨膜パッチ移植を併用した1例

第7回日本創傷外科学会総会・学術集会

2015.7.24 東京都

ポスター発表

当施設

齋藤 亮、平賀博明、小山内俊久、相馬 有

当科で再建手術をおこなった軟部肉腫un-
planned excision 後追加切除症例の検討

第90回北日本形成外科学会北海道地方会

2015.9.26 札幌市

口頭発表

当施設

齋藤 亮、星野善允、高橋将人、渡邊健一、富岡
伸元、佐藤雅子、山本 貢、五十嵐麻由子、萩尾
加奈子

当施設における乳房再建術 一次自家組織

皮膚科

〈学会発表・講演など〉

Masahiro Sato, Shinya Tamaki

Successful 3TO Brace[®] Treatment For Onychocryptosis And Paronychia Induced By Chemotherapeutic Agents.

MASCC/ISOO 2015

2015.6.27 Copenhagen, Denmark

ポスター

当施設

佐藤誠弘、倉橋小夜子

新しい臨床指標である Over d2/d1 ratio を用いた北海道がんセンターにおける褥瘡発生状況の分析

第45回日本創傷治癒学会

2015.11.30 東京都

口頭発表

当施設

泌尿器科

〈学会発表・講演など〉

三浪圭太、高田徳容、松浦 忍、原林 透、永森 聡

上部尿路上皮癌における局所進行予測因子としてのシフラ・CA19-9の有用性

第103回日本泌尿器科学会総会

2015.4.19 金沢市

ポスター発表

当施設

原林 透、三浪圭太、松本隆児、松浦 忍、永森 聡

前立腺癌全摘除術症例における晩期生化学的再発の検討

第103回日本泌尿器科学会総会

2015.4.25 金沢市

ポスター発表

当施設

石崎淳司、安部崇重、松本隆児、原林 透、佐澤 陽、望月端吾、千葉智市、秋野文臣、村雲雅史、宮島直人、土屋邦彦、丸山 覚、篠原信雄

Outcome of metastatic urothelial carcinoma in GC era: Prognostic factors from real-world clinical practice in Japan.

米国泌尿器科学会2015

2015.5.16 New Orleans, USA

ポスター発表

他施設

安部崇重、佐澤 陽、原林 透、宮島直人、土屋邦彦、丸山 覚、篠原信雄

Laparoscopic resection of paraaortic or paracaval neurogenic tumors

米国泌尿器科学会2015

2015.5.16 New Orleans, USA

ポスター発表

他施設

三浪圭太、高田徳容、松浦 忍、原林 透、永森 聡、平賀博明

当院におけるサルコーマセンター設立の試み

第395回日本泌尿器科学会北海道地方会

2015.6.13 札幌市

口頭発表

当施設

原林 透、三浪圭太、高田徳容、松浦 忍、永森 聡

ロボット支援前立腺全摘除術におけるパラレル法ドッキングによる術中エコーナビゲーション

第395回日本泌尿器科学会北海道地方会

2015.6.13 札幌市

口頭発表

当施設

原林 透、三浪圭太、高田徳容、松浦 忍、永森 聡

ロボット支援前立腺全摘除術におけるパラレル法ドッキングによる術中エコーナビゲーション

第21回北海道内視鏡外科研究会

2015.6.27 札幌市

口頭発表

当施設

高田徳容、三浪圭太、原林 透、永森 聡

腹腔鏡下膀胱全摘除術における恥骨前アプローチによる尿道合併切除の検討

第21回北海道内視鏡外科研究会

2015.6.27 札幌市

口頭発表

当施設

北原克教、佐賀祐司、原林 透、佐々木寛

腎結石治療に対する腹腔鏡手術の経験

第25回日本尿路結石症学会

2015.8.28 旭川市

口頭発表
他施設

高田徳容、間山郁美、小山敏樹、柏木 明、熊谷章
腹腔鏡下・ロボット支援下腎部分切除術におけるEarly declamping法の検討
第80回日本泌尿器科学会東部総会
2015.9.26 東京都
口頭発表
他施設

原林 透、青田泰博
悪性腫瘍手術へのロボット手術の適応と展望
第69回国立病院総合医学会
2015.10.2 札幌市
当施設

小田嶋洋兵、黒川健太、小島啓司、正木 弦、原林 透
パラレルドッキング法に変更するにあたって臨床工学技士の取り組み
第69回国立病院総合医学会
2015.10.2 札幌市
口頭発表
当施設

三浪圭太、高田徳容、原林 透、永森 聡
前立腺癌骨転移症例におけるBone-modifying agents の効果と副作用
第69回国立病院総合医学会
2015.10.3 札幌市
口頭発表
当施設

高田徳容、三浪圭太、原林 透、永森 聡
腹腔鏡下膀胱全摘除術における恥骨前アプローチによる尿道合併切除の検討
第396回日本泌尿器科学会北海道地方会
2015.10.17 札幌市

口頭発表
当施設

三浪圭太
当院でのカバジタキセルの経験
座談会：去勢抵抗性前立腺ガンの治療戦略
2015.10.24 札幌市
講演
当施設

原林 透、三浪圭太、高田徳容、永森 聡、能中修、柏木 明
前立腺癌全摘除術症例における晩期生化学的再発の検討
第53回日本癌治療学会総会
2015.10.29 京都市
ワークショップ
当施設

高田徳容、三浪圭太、原林 透、永森 聡
CRPCに対するEnzalutamide治療効果における先行DP療法の影響に関する検討
第67回西日本泌尿器科学会総会
2015.11.7 福岡市
口頭発表
当施設

高田徳容、三浪圭太、原林 透、永森 聡
腹腔鏡下膀胱全摘除術における恥骨前アプローチによる尿道合併切除の検討
第29回日本泌尿器内視鏡学会総会
2015.11.20 東京都
口頭発表
当施設

原林 透、三浪圭太、高田徳容、松浦 忍、永森 聡
ロボット支援前立腺全摘除術におけるパラレル法ドッキングによる術中エコーナビゲーション
第29回日本泌尿器内視鏡学会総会

2015.11.20 東京都

ポスター

当施設

三浪圭太、高田徳容、原林 透

腹腔鏡下膀胱全摘術を施行した膀胱癌症例の腹腔内再発の検討

第28回日本内視鏡外科学会総会

2015.12.11 大阪市

口頭発表

当施設

〈論文発表・著書など〉

北原克教、佐賀祐司、原林 透、佐々木寛

腎結石治療に対する腹腔鏡手術の経験

日本尿路結石症学会誌

14 (2) : 232-234, 2015

症例報告

Abe T, Sazawa A, Harabayashi T, Oishi Y, Miyajima N, Tsuchiya K, Maruyama S, Okada H, Shinohara N.

Laparoscopic resection of paraaortic/paracaval neurogenic tumors : surgical outcomes and technical tips.

Surg Endosc.

2015 Dec 29. [Epub ahead of print]

PMID : 26715023 doi : 10.1007/s00464-015-4740-6

原著

Murahashi N, Abe T, Shinohara N, Murai S, Harabayashi T, Sazawa A, Maruyama S, Tsuchiya K, Miyajima N, Hatanaka K, Nonomura K.

Diagnostic outcome of ureteroscopy in urothelial carcinoma of the upper urinary tract : Incidence of later cancer detection and its risk factors after the first examination.

BMC Urol.

15 : 92, 2015

原著

Matsumoto R, Takada N, Abe T, Minami K, Harabayashi T, Nagamori S, Hatanaka KC, Miyajima N, Tsuchiya K, Maruyama S, Murai S, Shinohara N.

Prospective mapping of lymph node metastasis in Japanese patients undergoing radical cystectomy for bladder cancer : characteristics of micrometastasis.

Jpn J Clin Oncol.

45 (9) : 874-80, 2015

原著

当施設

Abe T, Takada N, Matsumoto R, Osawa T, Sazawa A, Maruyama S, Tsuchiya K, Harabayashi T, Minami K, Nagamori S, Hatanaka KC, Tanaka Y, Shinohara N, Nonomura K.

Outcome of regional lymphadenectomy in accordance with primary tumor location on laparoscopic nephroureterectomy for urothelial carcinoma of the upper urinary tract : a prospective study.

J Endourol.

29 (3) : 304-9, 2015

原著

三浪圭太、大澤崇宏、原林 透、永森 聡

下腹部手術既往症例の腹腔鏡下膀胱全摘術の検討

Japanese Journal of Endourology

28 (1) : 96-99, 2015

原著

当施設

竹澤 豊、中山紘史、宮尾武士、村松和道、牧野武朗、悦永 徹、齋藤佳隆、小林幹男、原林 透

腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験

泌尿器外科

28 (6) : 1087-1091, 2015

原著

Kawai Y, Osawa T, Kobayashi K, Inoue R, Yamamoto Y, Matsumoto H, Nagao K, Hara T, Sakano S, Nagamori S, Matsuyama H.

Factors Prognostic for Survival in Japanese Patients Treated with Sunitinib as First-line Therapy for Metastatic Clear Cell Renal Cell Cancer.

Asian Pac J Cancer Prev.

16 (14) : 5687-90, 2015

原著

原林 透

【泌尿器がん患者の看護と治療 チャート・図解で流れが一目でわかる！】

第8章 陰茎がん 治療法の決定・術前ケア
泌尿器ケア

夏季増刊 : 201-209, 2015

解説

当施設

三浪圭太

【泌尿器がん患者の看護と治療 チャート・図解で流れが一目でわかる！】

第8章 陰茎がん 手術 (治療法)
泌尿器ケア

夏季増刊 : 210-225, 2015

解説

当施設

Matsumoto R, Tsuda M, Wang L, Maishi N, Abe T, Kimura T, Tanino M, Nishihara H, Hida K, Ohba Y, Shinohara N, Nonomura K, Tanaka S

Adaptor protein CPK induces epithelial-mesenchymal transition and metastasis of bladder cancer cells through HGF/c-Met feedback loop

der cancer cells through HGF/c-Met feedback loop

Cancer Science

616 (6) : 709-717, 2015

Wiley

原著

当施設

婦人科

〈学会発表・講演など〉

山崎博之、首藤聡子、藤堂幸治、岡元一平、加藤秀則、山城勝重、鈴木宏明、平紀代美、中島真奈美

子宮頸癌リンパ節の術中迅速診断における Tissue rinse liquid-based cytology の有用性

第56回日本臨床細胞学会総会

2015.6.13 松江市

ポスター発表

当施設

加藤秀則、藤堂幸治、山崎博之、岡元一平、見延進一郎、鈴木宏明、山城勝重

尿管癌による転移性卵巣腫瘍の一例

第56回日本臨床細胞学会総会

2015.6.14 松江市

ポスター発表

当施設

藤堂幸治、山崎博之、大場洋子、首藤聡子、見延進一郎、岡元一平、鈴木宏明、山城勝重

腎細胞癌による転移性卵巣腫瘍の一例

第56回日本臨床細胞学会総会

2015.6.14 松江市

ポスター発表

当施設

岡元一平、山崎博之、首藤聡子、見延進一郎、藤堂幸治、加藤秀則、奥山 大、中島真奈美、鈴木宏明、山城勝重

進行卵巣漿液性境界悪性腫瘍の腹水細胞診所見

第56回日本臨床細胞学会総会

2015.6.14 松江市

ポスター発表

当施設

岡元一平、藤堂幸治、山崎博之、竹下 奨、大場洋子、首藤聡子、見延進一郎、加藤秀則

ロボット支援広汎子宮全摘術の導入

婦人科腫瘍セミナー

2015.7.25 札幌市

口頭発表

当施設

見延進一郎

当科におけるセンチネルリンパ節を含む内視鏡下子宮体癌手術の検討

婦人科腫瘍セミナー

2015.7.25 札幌市

口頭発表

当施設

岡元一平、山崎博之、大場洋子、首藤聡子、見延進一郎、藤堂幸治、加藤秀則

進行卵巣癌における完全腫瘍減量手術（CCS Complete cytoreductive surgery）の再発治療へ与える影響

第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会

2015.8.7 盛岡市

ポスター発表

当施設

山崎博之、藤堂幸治、大場洋子、首藤聡子、見延進一郎、岡元一平、加藤秀則

FIGO1B1期子宮頸癌における傍結合織浸潤低危険群の術前予測

第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会

2015.8.8 盛岡市

ポスター発表

当施設

藤堂幸治

QOL維持を考慮した術式の選択・工夫・術後管理

第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会

2015.8.8 盛岡市

シンポジウム

当施設

首藤聡子、服部直也、真鍋 浩、加藤扶美、三村
理恵、孫田憲一、平田健司、櫻木範明、玉木長良

子宮体がんの術前画像評価におけるMRI・FDG
PET/CT併用の有用性に関する検討

第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会

2015.8.8 盛岡市

ポスター発表

当施設

竹下 奨

卵巣癌に対する Bevacizumab の使用経験

札幌産婦人科勤務医会

2015.8.27 札幌市

口頭発表

当施設

山崎博之、岡元一平、竹下 奨、大場洋子、首藤
聡子、見延進一郎、藤堂幸治、加藤秀則

進行卵巣癌治療における完全腫瘍減量手術達成
後の再発症例の検討

第63回北日本産科婦人科学会学術講演会

2015.9.5 福島市

口頭発表

当施設

岡元一平、竹下 奨、山崎博之、大場洋子、首藤
聡子、見延進一郎、藤堂幸治、加藤秀則

卵巣漿液性境界悪性腫瘍の進行症例の治療経験

第63回北日本産科婦人科学会学術講演会

2015.9.5 福島市

口頭発表

当施設

竹下 奨、岡元一平、山崎博之、大場洋子、見延
進一郎、首藤聡子、藤堂幸治、加藤秀則

麻痺症状を呈する胸椎転移を有した子宮体癌IV
期症例の治療経験

第63回北日本産科婦人科学会学術講演会

2015.9.6 福島市

口頭発表

当施設

岡元一平、藤堂幸治、山崎博之、竹下 奨、大場
洋子、首藤聡子、見延進一郎、加藤秀則

ロボット「ダヴィンチ」支援広汎子宮全摘術

第965回北海道医学大会

2015.10.3 札幌市

口頭発表

当施設

首藤聡子、山崎博之、竹下 奨、大場洋子、見延
進一郎、藤堂幸治、岡元一平、加藤秀則

子宮頸管ポリープに発生した子宮頸部漿液性腺
癌の1例

第36回北海道臨床細胞学会

2015.11.1 旭川市

口頭発表

当施設

竹下 奨、岡元一平、山崎博之、大場洋子、見延
進一郎、首藤聡子、藤堂幸治、加藤秀則

卵巣漿液性境界悪性腫瘍Ⅲc期の一例

第36回北海道臨床細胞学会

2015.11.1 旭川市

口頭発表

当施設

Sho Takeshita

Relationship between removal of circumflex
iliac nodes to the distal external iliac nodes
and postoperative lower-extremity lymphede-
ma in uterine cervical cancer

The 4th Biennial Meeting of Asian Soci-
ety of Gynecologic Oncology

2015.11.12 Seoul

ポスター発表

当施設

Yukiharu Todo, Hiroyuki Yamazaki, Sho Takeshita, Hidenori Kato

Relationship between removal of circumflex iliac nodes to the distal external iliac nodes and postoperative lower-extremity lymphedema in uterine corpus malignant tumors

The 4th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology

2015.11.12 Seoul, Korea

ポスター発表

当施設

首藤聡子、藤田博正、佐々木隆之、岡元一平、藤堂幸治、加藤秀則、武田広子、鈴木宏明、山城勝重

子宮内膜細胞診で子宮体部漿液性腺癌前駆病変を疑われた子宮体部類内膜腺癌の2症例

第54回日本臨床細胞学会秋期大会

2015.11.22 名古屋市

ポスター発表

当施設

岡元一平

ロボット支援手術による広汎子宮全摘術に伴う排尿障害の軽減

第8回日本ロボット外科学会学実集会

2016.1.30 米子市

口頭発表

当施設

松宮寛子、藤堂幸治、竹下 奨、大場洋子、見延進一郎、首藤聡子、岡元一平、加藤秀則

子宮頸部癌骨転移症例における骨転移後生存期間予測の試み

第55回北海道婦人科癌化学療法談話会

2016.2.13 札幌市

口頭発表

当施設

竹下 奨、藤堂幸治、松宮寛子、大場洋子、見延

進一郎、首藤聡子、岡元一平、加藤秀則

神経麻痺 (Frankel grade C) を伴った子宮癌胸椎転移に対する脊椎固定術

第55回北海道婦人科癌化学療法談話会

2016.2.13 札幌市

口頭発表

当施設

藤堂幸治、竹下 奨、松宮寛子、大場洋子、見延進一郎、首藤聡子、岡元一平、加藤秀則

子宮体癌骨転移症例における骨転移後生存期間予測の試み

第55回北海道婦人科癌化学療法談話会

2016.2.13 札幌市

口頭発表

当施設

S. Sudo, N. Hattori

Static MR Imaging in Healthy Women to Predict Future Pelvic Floor Dysfunction

EUROPEAN SOCIETY RADIOLOGY
2016

2016.3.2 Vienn. Austria

ポスター発表

当施設

〈論文発表・著書など〉

Hidenori Kato, Yoko Ohba, Hiroyuki Yamazaki, Shin-Ichiro Minobe, Satoko Sudo, Yukiharu Todo, Kazuhira Okamoto, and Katsushige Yamashiro

Availability of tissue rinse liquid-based cytology for the rapid diagnosis of sentinel lymph node metastasis and improved bilateral detection

Japanese Journal of Clinical Oncology
45 (8) : 727-731, 2015

原著

当施設

Todo Y, Kato H, Okamoto K, Minobe S, Yamashiro K, Sakuragi N

Isolated tumor cells and micro metastases in regional lymph nodes in FIGO stage I to II endometrial cancer.

J Gynecol Oncol
27 (1) : e1, 2015

原著

当施設

Yamazaki H, Todo Y, Okamoto K, Yamashiro K, Kato H.

Pretreatment risk factors for parametrical involvement in FIGO stage IB1 cervical cancer.

J Gynecol Oncol.
26 (4) : 255-61, 2015

原著

当施設

Todo Y, Yamazaki H, Takeshita S, Ohba Y, Sudo S, Minobe S, Okamoto K, Kato H.

Close relationship between removal of circumflex iliac nodes to distal external iliac nodes and postoperative lower-extremity lymphedema in uterine corpus malignant tumors.

Gynecol Oncol.
139 (1) : 160-4, 2015

原著

当施設

藤堂幸治

周術期管理の必須知識 リンパ嚢胞の予防と工夫

Obstetric and Gynecologic Surgery
23 : 14-153, 2015

その他

当施設

藤堂幸治、櫻木範明

周術期管理の必須知識 自律神経温存広汎子宮全摘術後の排尿管理

メディカルビュー社
23 : 164-173, 2015

その他

当施設

2014年度

Todo Y, Okamoto K, Minobe S, Kato H.

Clinical Significance of Surgical Staging for Obese Women with Endometrial Cancer : A Retrospective Analysis in a Japanese Cohort.

Japanese Journal of Clinical Oncology
44 (10) : 903-9, 2014

原著

当施設

頭頸部外科

〈学会発表・講演など〉

山田和之、高橋紘樹、永橋立望、田中克彦、西山典明、小野寺俊輔

当科における早期舌癌の臨床的研究

第20回北日本頭頸部癌治療研究会

2015.10.12 仙台市

口頭発表

当施設

耳展

58：補1：50-51, 2015

原著

当施設

高橋紘樹、山田和之、永橋立望

当科におけるソラフェニブの使用経験

第212回日本耳鼻咽喉科学会北海道地方部
会学術講演会

2015.10.18 札幌市

口頭発表

当施設

高橋紘樹、山田和之、永橋立望、田中克彦

当科における甲状腺未分化癌に対するレンバチ
ニブの使用経験

第213回日本耳鼻咽喉科学会北海道地方部
会学術講演会

2016.3.27 札幌市

口頭発表

当施設

〈論文発表・著書など〉

山田和之、鈴木崇祥、田中克彦、永橋立望

耳下腺原発腺様嚢胞癌に対する過去10年間の多
施設観察研究

耳展

58：補1：14-15, 2015

原著

当施設

山田和之、今井 聡、田中克之、永橋立望

北海道がんセンターにおける原発不明頸部転移
癌の臨床的検討

放射線治療科

〈学会発表・講演など〉

湊川英樹

子宮頸癌における傍大動脈リンパ節転移の治療成績の検討

第51回日本医学放射線学会秋季臨床大会

2015.10.2 盛岡市

ポスター発表

当施設

小野寺俊輔、西川 昇、湊川英樹、西山典明

転移性脳腫瘍に対する高線量全脳照射の効果の有無：当院での症例より

第51回日本医学放射線学会秋季臨床大会

2015.10.2 盛岡市

ポスター発表

当施設

西川 昇、小野寺俊輔、湊川英樹、西山典明

当院における下咽頭癌、強度変調放射線治療例の急性期障害についての検討

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

ポスター発表

当施設

小野寺俊輔、西川 昇、湊川英樹、西山典明

強度変調放射線治療により治療した巨大顔面神経鞘種の一例

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

ポスター発表

当施設

吉村高徳、木下留美子、小野寺俊輔、寅松千枝、鈴木龍介、伊藤陽一、高尾聖心、松浦妙子、松崎有華、清水伸一、梅垣菊男、白土博樹

NTCP Modeling Analysis of Acute Hematologic Toxicity in Whole Pelvic Radiation

Therapy for Gynecologic Malignancies-Asymmetric Comparison of IMRT and Spot-Scanning Proton Therapy

57th ASTRO annual meeting

2015.10.18 San Antonio, U.S.A

Poster session

他施設

小野寺俊輔、中村公則、西山典明、綾部時芳、白土博樹

放射線腸炎の指標としての便中 α ディフェンシンの可能性～マウスでの研究から～

第133回日本医学放射線学会北日本地方会

2015.10.22 仙台市

口演

当施設

〈論文発表・著書など〉

Yae Harada, Kenji Hirata, Naoki Nakayama, Shigeru Yamaguchi, Michiharu Yoshida, Shunsuke Onodera, Osamu Manabe, Tohru Shiga, Satoshi Terae, Hiroki Shirato and Nagara Tamaki

Improvement of cerebral hypometabolism after resection of radiation-induced necrotic lesion in a patient with cerebral arteriovenous malformation

Acta Radiologica Open

6 (4) : 1-4, 2015

原著論文

他施設

放射線診断科

〈学会発表・講演など〉

田中 七、加藤扶美、市村 亘、竹井俊樹
葉状腫瘍の組織学的悪性度予測に対するMRI
の有用性
第23回日本乳癌学会学術総会
2015.7.4 東京都
ポスター発表
当施設

竹井俊樹
当院（がん専門病院）におけるAiについての初
期経験と展望について
第13回オートプシーイメージング学会学術
総会
2015.8.22 東京都
口頭発表
当施設

木野田直也、市村 亘、竹井俊樹、田中 七、朴
貞恩、渡邊健一、山城勝重、武田広子、加藤扶
美
乳腺原発印環細胞癌の1例
第13回日本乳癌学会北海道地方会
2015.9.12 札幌市
口頭発表
当施設

朴 貞恩、市村 亘、竹井俊樹、田中 七、木野
田直也、富岡伸元、山城勝重、武田広子、加藤扶
美
両側乳腺に巨大嚢胞性腫瘍を認めた1例
第13回日本乳癌学会北海道地方会
2015.9.12 札幌市
口頭発表
当施設

中川純一、加藤扶美、田中 七、水戸寿々子、真
鍋徳子、工藤興亮、細田充主、山下啓子

乳腺造影ダイナミックMRIにおける早期相の
検討
第13回日本乳癌学会北海道地方会
2015.9.12 札幌市
口頭発表
他施設

木野田直也、市村 亘、竹井俊樹、田中 七、朴
貞恩
当院における上大静脈症候群に対するステント
留置症例の検討
第133回日本医学放射線学会北日本地方会
2015.10.23 仙台市
口頭発表
当施設

脳神経外科

〈学会発表・講演など〉

伊林至洋

脳腫瘍の病理学2015

札幌医科大学脳神経外科専門医講演会

2015.4.23 札幌市

講演

当施設

森岡悠紀、田中寛之、遠藤雅之、伊林至洋

徐放性バルプロ酸製剤の後発品から先発品への
切り替えに伴う血中濃度の変動に対する要因分
析

第29回北海道TDM研究会

2015.12.5 札幌市

口頭発表

当施設

伊林至洋

単純CTで転移性脳腫瘍を診断できるか

北海道がんセンター外来看護師講演会

2016.2.26 札幌市

講演

当施設

病理診断科

〈学会発表・講演など〉

鈴木宏明、武田広子、山城勝重、黒澤光俊
多発性骨髄腫におけるサイトケラチンの異所性
発現の検討
第104回日本病理学会総会
2015.4.30 名古屋市
口頭発表
当施設

鈴木宏明、小山内俊久、相馬 有、平賀博明、武
田広子、山城勝重、野島孝之
肺転移を来した臀部軟部腫瘍
第54回日本骨軟部腫瘍研究会
2015.5.30 福岡市
口頭発表
当施設

山城勝重

Z軸ビデオ細胞画像 (Zavic) データベースを利用
した細胞診コンサルテーションの実現可能性
の検証研究—第二報—
第11回日本テレパソロジー・バーチャルマ
イクロスコピー研究会
2015.9.11 倉敷市
口頭発表
当施設

山城勝重

がんの診断とテレパソロジー
第69回国立病院総合医学会
2015.10.3 札幌市
シンポジウム
当施設

Hiroaki Suzuki, Toshihisa Osanai, Tamotsu
Soma, Hiroaki Hiraga, Hiroko Takeda,
Katsushige Yamashiro, Takayuki Nojima,
Akifumi Ooi.

Tumor of the left thigh.

The 14th Korean-Japanese conjoint slide
conference of international academy of
paghology. The 11th Korea-Japan jint
slide conference of bone and soft tissue
pathology
2015.10.31 ソウル市
口頭発表
当施設

加藤高子、田中信一、高木芳武、山崎博之、鈴木
宏明
高悪性度子宮内膜間質肉腫の1例
第54回日本臨床細胞学会秋期大会
2015.11.22 名古屋市
ポスター発表
他施設

〈論文発表・著書など〉

武田広子、鈴木宏明、山城勝重、中西勝也
血管肉腫様の形態を示した子宮癌肉腫の骨転移
の1例
診断病理
32 (2) : 146-150, 2015
症例報告
当施設

山城勝重

日本臨床細胞学会編 細胞診ガイドライン1 婦
人科・泌尿器 泌尿器各論D. その他の組織型
190-192, 2015
金原出版
著書
当施設

山城勝重

日本臨床細胞学会編 細胞診ガイドライン4 呼
吸器・胸腺・体腔液・リンパ節 体腔液総論F.

LBC検体の取り扱いと細胞診像

127-129, 2015

金原出版

著書

当施設

緩和ケア内科

〈学会発表・講演など〉

松山哲晃

痛みをこわがらないで！

北海道がんセンターがんと闘う医療フェスタ

2015.9.5 札幌市

講演

当施設

松山哲晃

患者の安全を確保するための早期せん妄対応

清和会医療セミナー

2015.9.15 札幌市

講演

当施設

松山哲晃

外来がん化学療法中の患者が抱えるつらさー精神心理的側面ー

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2 札幌市

シンポジウム

当施設

松山哲晃

がん患者にみられるせん妄とその対策について

北海道中央労災病院緩和ケア研修会

2016.2.18 岩見沢市

講演

当施設

臨床検査科

〈学会発表・講演など〉

中島真奈美、阿部珠美、小関美穂、東 学、平紀代美

腫瘍穿刺細胞診

第287回細胞検査士会北海道支部道央地区
会例会

2015.5.29 札幌市

口頭発表

当施設

平紀代美

スライドカンファレンス

呼吸器科症例

第56回日本臨床細胞学会総会

2015.6.13 松江市

当施設

中島真奈美、阿部珠美、小関美穂、奥山 大、東
学、平紀代美、鈴木宏明、山城勝重、望月抄苗、
我孫子光春、丸川活司、松野吉宏

体腔液検体の液状化細胞診～これまでの使用経
験と分子生物学的検索への応用にむけて～

第56回日本臨床細胞学会総会

2015.6.14 松江市

シンポジウム

当施設

鮫川正美

ハーセプチン治療中に心機能障害を合併した2
例の検討

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2 札幌市

ポスター発表

当施設

原真希子

肺癌術前検査で偶然に発見された左房粘液腫の
一例

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2 札幌市

ポスター発表

当施設

古川郁子

Volume Navigationを用いた乳腺超音波の有
用性

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

口頭発表

当施設

若松亜由子

皮膚科領域の血流評価

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

口頭発表

当施設

飯田岳陽、若月香織、志保裕行

イアトロ ALPの試薬性能評価

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

口頭発表

当施設

舩本 和、志保裕行、若月香織、飯田岳陽

院内導入に向けたBNP測定試薬の基礎的検討

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

口頭発表

当施設

平紀代美

Liquid-Based Cytology－体腔液－

第4回びわ湖細胞病理チュートリアル

2015.10.3 大津市

講演
当施設

岸 千夏、松谷香奈子、阿部珠美、小関美穂、中島真奈美、東 学、平紀代美、志保裕行
廃棄予定密閉式自動包每装置を活用した脱脂プログラムの運用
平成27年度日臨技北日本支部学会
2015.10.17 札幌市
口頭発表
当施設

今川 誠、東 学、中島真奈美、小熊貴光、丸川活司
北臨技病理細胞部門第15回病理染色サーベイ報告～セルブロック作製法の精度管理及び手技に関する調査～
平成27年度日臨技北日本支部学会
2015.10.17 札幌市
口頭発表
他施設

東 学、中島真奈美、今川 誠、小熊貴光、丸川活司
北臨技病理細胞部門第11回細胞診フォトサーベイ報告
平成27年度日臨技北日本支部学会
2015.10.18 札幌市
口頭発表
当施設

東 学、松谷香奈子、岸 千夏、阿部珠美、中島真奈美、平紀代美、武田広子、鈴木宏明、山城勝重
サイトリッチレッドTM固定体腔液セルブロック標本を用いた免疫細胞化学染色による腫瘍特異性マーカの検証
第36回北海道臨床細胞学会総会並びに学術集会
2015.11.1 旭川市

口頭発表
当施設

平紀代美
バーチャルスライドセミナー LBC尿細胞診HGUC vs LGUC
第54回日本臨床細胞学会秋季大会
2015.11.21 名古屋市
当施設

平紀代美
Liquid-Based Cytology –体腔液を中心に–
第290回細胞検査士会道央地区会例会
2015.11.27 札幌市
講演
当施設

平紀代美
尿細胞診の問題点とは
第28回細胞診従事者講習会
2016.3.6 札幌市
講演
当施設

〈論文発表・著書など〉
中島真奈美、阿部珠美、小関美穂、奥山 大、東 学、平紀代美、鈴木宏明、山城勝重、望月抄苗、我孫子光春、丸川活司、松野吉宏
Liquid-based cytology (LBC) の呼吸器領域細胞診への応用と分子生物学的適応についての検討
北海道臨床細胞学会会報
24：15–20, 2015
原著
当施設

診療放射線科

〈学会発表・講演など〉

北尾友香、島 勝美、林 隆司、平田健司、玉木長良

肺がんのFDG集積の定量的指標の再現性について：SUV, MTV, TLGを中心に

第7回日本核医学技術学会北海道地方会

2015.5.16 札幌市

口頭発表

当施設

島 勝美

国立病院機構における放射線治療の現状と課題

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

平成27年度第1回岡山大学がん放射線科学

コースFDセミナー 岡山大学医学物理士

インテンシブコース

2015.9.26 岡山市

シンポジウム

当施設

齋藤優一、岩井光弘、島 勝美、田中 知、長内秀憲、松下典弘、柴山航平、矢ヶ部りな、関澤充規、小野寺俊輔

海馬回避全脳放射線治療における治療計画の作成と評価

第69回国立病院機構総合医学会

2015.10.2 札幌市

ポスター

当施設

柴山航平、岩井光弘、島 勝美、田中 知、長内秀憲、松下典弘、齋藤優一、矢ヶ部りな、関澤充規

当院における患者固定精度の評価

第69回国立病院機構総合医学会

2015.10.2 札幌市

ポスター

当施設

北尾友香、鈴木崇久、船山恭祐、林 隆司、関澤充規

がんFDG-PET/CT撮像法ガイドラインに準じた当院FDG-PETの臨床画像評価

第69回国立病院総合医学会

2015.10.5 札幌市

ポスター発表

当施設

北尾友香、平田健司、島 勝美、林 隆司、竹井俊樹、市村 亘、玉木長良

非小細胞性肺がんFDG PETにおけるMTVとTLGのuptake timeの検討

第55回日本核医学会学術総会

2015.11.6 東京都

口頭発表

当施設

katsumi shima, hitoshi tanaka, yuichi saito, hidenori osanai, norihiro matsushita, mitsuhiro iwai, kouhei shibayama, rina yakabe, mitsunori sekizawa

Evaluation of Ionization chamber array for patient-specific quality assurance with IMRT and VMAT

第28回日本放射線腫瘍学会学術大会

2015.11.20 前橋市

口頭発表

当施設

〈論文発表・著書など〉

takuya nakazawa, kunihiko tateoka, yuichi saito, tadanori abe, masaki yano, yuji yaegashi, hirokazu narimatsu, kazunori fujimoto, akihiro nakata, kensei nakata, masanori someya, masakazu hori, masato hareyama, koichi sakata

Analysis of prostate deformation during a

course of radiation therapy for prostate cancer

PLoS ONE

10 (6) : e0131822

原著

他施設

リハビリテーション科

- 〈学会発表・講演など〉
- 井上由紀
問題にどう対応するか
第2回札幌がんのリハビリテーション研修会
2015.7.5
札幌市
講演
当施設
- 井上由紀
問題にどう対応するか
平成27年度日本理学療法士協会主催
がんのリハビリテーション研修会
2015.8.23 札幌市
講演
当施設
- 菅原啓祐、肥田理恵、井上由紀、田中朋子、藤嶋亮太
乳がん術後ドレーン排液量に影響を与える因子の検討
第13回日本乳癌学会北海道地方会
2015.9.12 札幌市
口頭発表
当施設
- 菅原啓祐、平賀博明
Hip transposition法で患肢温存を行った右腸骨骨肉腫の一例
第69回国立総合医学会
2015.10.3 札幌市
ポスター
当施設
- 明庭圭吾、井上由紀、菅原啓祐、肥田理恵、増井慎志、小山内俊久、相馬 有、平賀博明
骨転移を有する患者における理学療法介入による日常生活活動の変化についての比較・検討
第69回国立総合医学会
2015.10.3 札幌市
ポスター
当施設
- 増井慎志、井上由紀、菅原啓祐、明庭圭吾、渡邊健一、小山内俊久
乳癌脊髄内転移の対麻痺患者に対する理学療法経験
第66回北海道理学療法学会
2015.11.1 旭川市
口頭発表
当施設
- 菅原啓祐、肥田理恵、井上由紀、田中朋子、藤嶋亮太
乳がん術後ドレーン排液量に影響を与える因子の検討
第5回日本がんリハビリテーション研究会
2016.1.9 神戸市
口頭発表
当施設
- 明庭圭吾、井上由紀、菅原啓祐、肥田理恵、増井慎志
脊椎腫瘍を有する患者における理学療法介入による移動能力についての調査報告
第5回日本がんリハビリテーション研究会
2016.1.9 神戸市
口頭発表
当施設

薬剤部

- 〈学会発表・講演など〉
- 玉木慎也
がん患者指導管理料3の実際
第3回がん専門薬剤師全体会議
2015.5.16 東京都
シンポジウム
当施設
- 田中寛之、森岡悠紀、深井雄太、武隈 洋、川口啓之、遠藤雅之、平賀博明、菅原 満
骨肉腫MAP療法における2-Compartment modelによる非タンパク結合型Platinum CmaxとCDDP腎毒性の予測
第32回日本TDM学会・学術大会
2015.5.23 松本市
ポスター
当施設
- 高田慎也、玉木慎也、菊地美香、大場洋子、松山哲晃、遠藤雅之
アセトアミノフェンとワルファリンの相互作用の事例検討
第20回緩和医療学会
2015.6.18 横浜市
ポスター発表
当施設
- 玉木慎也
カドサイラの副作用対策
乳癌薬剤師セミナー in Sapporo
2015.6.23 札幌市
講演
当施設
- 高田慎也、玉木慎也、高橋将人、遠藤雅之
乳がん外来化学療法実施患者への指導と今後の課題について
乳癌学会地方会
- 2015.8.6 札幌市
口頭発表
当施設
- 玉木慎也
分子標的薬による副作用と支持療法
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 筆記試験対策講座
2015.8.9 東京都
講演
当施設
- 田中寛之
イリノテカン塩酸塩のTDM
日本TDM学会学会共催北海道TDM研究会
2015.8.22 札幌市
口頭
当施設
- 玉木慎也
大腸がん
第3回がん専門薬剤師アドバンス研修会
2015.9.5 札幌市
ワークショップ
当施設
- 玉木慎也、村上寛知、渡邊健一、高橋将人、遠藤雅之
トラスツズマブエムタンシンの副作用発現状況
第13回日本乳癌学会北海道地方会
2015.9.12 札幌市
口頭発表
当施設
- 森岡悠紀、田中寛之、伊林至洋
除放射性バルプロ酸製剤の後発品から先発品への切替に伴う血中濃度の変動に対する要因分析
第68回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

ポスター発表

当施設

北海道若手がん専門薬剤師講演会

2015.10.24 札幌市

ワークショップ

当施設

玉木慎也

副作用対策の実際～皮膚障害対策を中心に～

Taiho Breast Cancer Forum in Sapporo

2015

2015.10.17 札幌市

講演

当施設

高田慎也、玉木慎也、遠藤雅之

精巣腫瘍患者の5日間シスプラチンレジメンに

対するアプレピタント併用時のパロノセトロン

とラモセトロンの比較

第25回日本医療薬学会

2015.11.21 横浜市

口頭発表

当施設

三浦清文

腎細胞癌患者における腎機能とパゾパニブ誘発

性蛋白尿の関連性について

平成27年度北海道地区国立薬剤師会秋の学

術大会

2019.10.17 札幌市

口頭発表

当施設

元茂拓法、菊地美香、野崎志寿加、長澤真由美、

藤川幸司

担癌患者の倦怠感に対する当院NSTの取り組み

カルニチンカンファレンス

2015.11.28 札幌市

講演

当施設

村上寛知、玉木慎也、川口啓之、遠藤雅之

トラスツズマブエムタンシンの安全性と忍容性

の検討

平成27年度北海道地区国立薬剤師会秋の学

術大会

2015.10.17 札幌市

口頭発表

当施設

高田慎也

抗がん剤使用患者における退院時薬薬連携

薬薬連携

2015.11.30 札幌市

講演

当施設

黒田真希

当院における病棟薬剤業務への取り組み

平成27年度北海道地区国立薬剤師会秋の学

術大会

2015.10.17 札幌市

口頭発表

当施設

田中寛之

イリノテカン塩酸塩の副作用予測

第4回室蘭がんセミナー

2015.12.4 札幌市

口頭

当施設

玉木慎也

症例サマリのポイント～膵がん～

元茂拓法、田中寛之、森岡悠紀、武隈 洋、遠藤

雅之、菅原 満、黒澤光俊

イマチニブのTDMにより副作用軽減と治療継

続が可能となった二重癌の一症例

第29回北海道TDM研究会
2015.12.5 札幌市
口頭発表
当施設

認容性の評価
第136回日本薬学会
2016.3.28 横浜市
口頭発表
他施設

森岡悠紀、田中寛之、伊林至洋

除放射性バルプロ酸製剤の後発品から先発品への
切替に伴う血中濃度の変動に対する要因分析

第29回北海道TDM研究会
2015.12.5 札幌市
口頭発表
当施設

〈論文発表・著書など〉

高田慎也
レスキュー製剤自己管理に向けて
月刊薬事
57 (4) : 45-49, 2015
著書
当施設

玉木慎也、高田慎也、村上寛知、遠藤雅之

Body Mass Index (BMI) の違いによる乳がん
FEC100療法の副作用の比較検討

日本臨床腫瘍薬学会学術大会2016
2016.3.12 鹿児島市
口頭発表
当施設

高田慎也
がん専門薬剤師の活躍を追う
The Journal of Oncology Pharmacy
8 (6) : 3-14, 2015
じほう社
著書
当施設

高田慎也、玉木慎也、遠藤雅之

外来指導非専任体制における「がん患者指導料
3」の算定の現状と課題

日本臨床腫瘍薬学会学術大会2016
2016.3.12 鹿児島市
ポスター発表
当施設

高田慎也
分子標的治療薬UP TO DATE 腎がん
Oncology nurse
8 (7) : 26-33, 2015
日総研
著書
当施設

森岡悠紀、田中寛之、伊林至洋

除放射性バルプロ酸製剤の後発品から先発品への
切替に伴う血中濃度の変動に対する要因分析

第136回日本薬学会
2016.3.28 横浜市
口頭発表
当施設

高田慎也
がん薬物療法アップデート
がん薬物療法UP DATE
58 (1) : 149-159, 2016
著書
当施設

伊佐治麻里子、元茂拓法、田中寛之、遠藤雅之

悪性リンパ腫に対するShort Hydration法を用
いたGDP療法の外来治療への移行を見据えた

高田慎也、玉木慎也、永森 聡、遠藤雅之
去勢抵抗性前立腺癌患者に対するドセタキセル
+プレドニゾン併用療法による骨髄抑制の予

測因子の検討

癌と化学療法

42 (5) : 591-594, 2015

原著

当施設

高田慎也、玉木慎也、永森 聡、遠藤雅之

尿路上皮癌におけるGC療法の4週レジメンと
3週レジメンの比較検討

癌と化学療法

43 (2) : 219-222, 2016

原著

当施設

看護部

〈学会発表・講演など〉

高濱杏実、畑中陽子、岡部直美

新人看護師が抱える看護実践上の困難について
の実態調査

第14回北海道東北地区看護研究学会

2015.6.13 仙台市

口述

当施設

木村優衣、佐々木あゆみ、村松眞由美

プライマリーナースの意識の向上を図る取り組み

第14回北海道東北地区看護研究学会

2015.6.13 仙台市

口述

当施設

菊地美香、松山哲晃

がんとして診断された時からの緩和ケアの提供
を目指して～質問紙を用いた苦痛のスクリーニ
ングの評価と課題～

第20回日本緩和医療学会学術集会

2015.6.18-20 横浜市

ポスター

当施設

高橋由美、渡邊健一、富岡伸元、馬場 基、佐藤
雅子、萩尾加奈子、五十嵐真由子、玉木慎也、高
田慎也、高橋将人

化学療法時の口腔内冷却法(クライオセラピー)
施行における口腔粘膜障害の予防効果

第23回日本乳癌学会学術集会

2015.7.2-4 東京都

ポスター

当施設

畑中陽子

乳房全摘出後一次乳房再建術を行った乳がん患
者の体験－乳がん患者の一事例の語りから－

札幌第3支部看護研究発表会

2015.7.11 札幌市

口述

当施設

倉橋小夜子、鈴木綾子、元茂拓法、川合彩絵、菅
原啓祐、佐藤誠弘

褥瘡治癒日数に影響する要因の検討－がん治療
との関連に注目して－

第17回日本褥瘡学会学術集会

2015.8.28-29 仙台市

口述

当施設

畑中陽子、渡邊健一、高橋将人、三好康子

がん看護専門看護師が実践する「がん看護外来」
チーム医療への取り組み

第13回日本乳癌学会北海道地方会

2015.9.12 札幌市

口述

当施設

高橋由美、高橋真弓、関谷幸子、川端真澄、岡田
絵里香

化学療法時の口腔内冷却法(クライオセラピー)

施行における口腔粘膜障害の予防効果

第13回日本乳癌学会北海道地方会

2015.9.12 札幌市

口述

当施設

高森晴美

外来化学療法を継続する乳がん患者の治療と就
労の両立のための支援

第13回日本乳癌学会北海道地方会

2015.9.12 札幌市

口述

当施設

宮崎絢香

乳がん看護認定看護師教育課程を経験して

第13回日本乳癌学会北海道地方会

2015.9.12 札幌市

口述

当施設

高森晴美、田中仁美、伊勢修江、伊藤有希子、大塚保子、梶谷智美、小田嶋洋平、正木 弦、小島啓司、黒川健太、藤川幸司

内視鏡の安全で効果的な洗浄・消毒への取り組みーチームで行う洗浄・消毒ー

第41回北海道消化器内視鏡技師研究会

2015.9.19 札幌市

口述

当施設

今城由里亜、朝日千紘、山野下祐子

婦人科開腹術後の腹帯廃止の検討

第46回日本看護学会（急性期看護）

2015.9.29-30 松山市

ポスター

当施設

川戸望園、太田絢子

小枕を用いた小さな動きによるポジショニングの看護師の意識調査

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2-3 札幌市

口述

当施設

東谷富美子、村上陽子、松岡直美

自家組織による乳房再建術を受けた患者の体験から看護支援を考える

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2-3 札幌市

ポスター

当施設

田所由妃

せん妄の患者対応から学んだこと～不穏の原因を追究して～

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2-3 札幌市

口述

当施設

相生洋子、菊地美香、水野智美

がん専門病院における看護師のがん看護研修を考える～がん看護に関する困難感調査から～

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2-3 札幌市

ポスター

当施設

水野智美

筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者における人工呼吸器装着の意思決定に関する看護師の思い

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2-3 札幌市

ポスター

当施設

畑中陽子

がん看護外来の実践ーMargret Newman理論に基づく実践

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2-3 札幌市

ポスター

当施設

倉橋小夜子、鈴木綾子、元茂拓法、川合彩絵、菅原啓祐、佐藤誠弘

放射線治療部位に含まれる範囲に発生した褥瘡の検討

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2-3 札幌市

口述

当施設

朝倉かおり、倉橋小夜子、植杉みゆき、二川憲昭、
中野浩輔、西山典明

がん治療中のリンパ漏に気育する創傷ケア

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2-3 札幌市

ポスター

当施設

口述

当施設

高森晴美

外来化学療法を継続する乳がん患者の治療と就
労の両立のための支援

第13回国立病院看護研究会学会学術集会

2015.11.28 東京都

口述

当施設

樋口清美

当院治験管理室における臨床研究コーディネー
ター教育プログラムの作成と活用について

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2-3 札幌市

ポスター

当施設

佐々木希美、尾田沙織

新人看護師が効果的な支援であると感じた支援
と求める支援

第13回国立病院看護研究会学会学術集会

2015.11.28 東京都

口述

当施設

高森晴美、田中仁美、伊勢修江、伊藤有希子、大
塚保子、梶谷智美、小田嶋洋平、正木 弦、小島
啓司、黒川健太、藤川幸司

内視鏡の安全で効果的な洗浄・消毒への取り組
みーチームで行う洗浄・消毒ー

第75回日本消化器内視鏡技師学会

2015.10.10 東京都

口述

当施設

中辻 彩、秋葉沙織、倉橋小夜子、窪田明子、濱
田朋倫、篠原敏樹、二川憲昭、前田好章、片山知
也

がん化学療法中におこる手指の巧緻性の低下と
ストーマ周囲皮膚障害の検討

第33回日本ストーマ・排泄リハビリテー
ション学会総会

2016.2.19-20 甲府市

口述

当施設

星 亜紀

呼吸器外科手術体位の標準化前後の比較

第29回日本手術看護学会

2015.10.9-10 札幌市

ポスター

当施設

倉橋小夜子、秋葉沙織、中辻 彩、窪田明子、濱
田朋倫、篠原敏樹、二川憲昭、前田好章、片山知
也

ベバシズマブを用いた化学療法中のストーマ粘
膜障害の検討

第33回日本ストーマ・排泄リハビリテー
ション学会総会

2016.2.19-20 甲府市

口述

当施設

畑中陽子

遺伝性乳がん・卵巣がん症候群と診断された乳
がん患者への意思決定支援ー乳房の予防切除・
一次乳房再建術を決断した乳がん患者への支援
ー

第13回国立病院看護研究会学会学術集会

2015.11.28 東京都

秋葉沙織、片山かおり、中辻 彩、加島美穂
症状緩和手術を受けるがん患者の看護に対する
看護師の困難感

第30回日本がん看護学会学術集会

2016.2.20-21 千葉市

ポスター

当施設

相生洋子、菊地美香、水野智美

看護師のがん看護に対する困難感に関する調査
～がん専門病院に勤務する2年目看護師に対す
るアンケート調査から～

第30回日本がん看護学会学術集会

2016.2.20-21 千葉市

ポスター

当施設

畑中陽子

乳房の予防切除後一次乳房再建術を行った乳が
ん患者の体験－HBOC陽性と診断された乳が
ん患者の語り－

第30回日本がん看護学会学術集会

2016.2.20-21 千葉市

ポスター

当施設

高瀬たまき

がん化学療法看護認定看護師が不安を抱える外
来肺がん患者に対して行った面談の実態～がん
看護外来での支援の現状～

第30回日本がん看護学会学術集会

2016.2.20-21 千葉市

ポスター

当施設

感染対策室

〈学会発表・講演など〉

栗山陽子、一戸真由美、高橋 学、渡邊はるか、
田中寛之、前田好章、黒澤光俊

院内ラウンドの指摘事項からみる感染防止対策
の取り組みの現状評価

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

ポスター発表

当施設

渡邊はるか、田中寛之、高橋 学、栗山陽子、一
戸真由美、前田好章、黒澤光俊

MRSA 遺伝子型解析（POT法）による院内感
染伝播経路の予測と啓蒙活動

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

ポスター発表

当施設

〈論文発表・著書など〉

一戸真由美

手指衛生テクニックの基本～現場事情に合った
手法の選び方

感染対策ICTジャーナル

Vol.11.No.1.2016

ヴァン メディカル

治験管理室

〈学会発表・講演など〉

高津和哉、菊池和彦、山岸佳代、川口啓之、遠藤雅之、高橋康雄

放射線同位元素内用療法の治験を経験して

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

ポスター発表

当施設

樋口清美、田島宏恵、佐藤好美、高津和哉、宇野麻美、宗方淳子、菊池和彦、山岸佳代、遠藤雅之、高橋康雄

当院治験管理室における臨床研究コーディネーター教育プログラムの作成と活用について

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

ポスター発表

当施設

田島宏恵、遠藤雅之

がん領域の治験に関わる薬剤師

平成27年度第63回東北地区国立病院薬学研究会

2015.11.14 仙台市

口頭発表

当施設

がん相談支援情報室

〈学会発表・講演など〉

木川幸一

「がん治療と医療費」がん患者・家族が本当に
知りたいこと～がん相談支援の現場から

メットライフ札幌代理店会釧路・帯広地区
春のセミナー

2015.4.15 弟子屈町

講演

当施設

講演

当施設

木川幸一

地域包括ケアシステムと地域連携

当院の相談支援を通じて考える

第16回がん診療連携症例検討会

2015.7.29 札幌市

講演

当施設

木川幸一

北海道のがん支援体制を知る③

メットライフ旭川代理店会4月度特別セミ
ナー

2015.4.23 旭川市

講演

当施設

金澤友紀、木川幸一、深堀香織、西山麻未、加藤
秀則

当院におけるがん患者家族のための就労相談の
現状と課題

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2 札幌市

口頭発表

当施設

木川幸一

北海道におけるがん就労支援の現状

第17回日本医療マネジメント学会学術総会

2015.6.12 大阪市

口頭発表

当施設

金澤友紀、木川幸一、深堀香織、西山麻未、加藤
秀則

がん専門相談員のネットワーク形成と相談支援
センターの広報の取り組み

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

ポスター発表

当施設

木川幸一

知っておきたい社会資源

フレッシュ医療ソーシャルワーカー1日研
修(大阪会場)

2015.6.14 大阪市

講演

当施設

木川幸一

がん患者の現状・相談状況について

長期療養者雇用管理セミナー

2015.10.9 札幌市

講演

当施設

木川幸一

知っておきたい社会資源

フレッシュ医療ソーシャルワーカー2日研
修(長崎会場)

2015.6.28 長崎市

木川幸一

乳がん治療における経済的支援

Sapporo breast cancer seminar

2015.10.10 札幌市

講演

当施設

当院におけるがん患者家族のための就労相談の
現状

国立病院ソーシャルワーカー協議会誌第5号

5：13-15, 2015

報告

当施設

木川幸一

がん相談支援センターへの相談内容 北海道の
がん患者への支援

アフラック道央アソシエイツ会・アフラック
合同研修会

2015.12.3 札幌市

講演

当施設

木川幸一

ソーシャルワーク業務改善・開発とマネジメント
山形県医療ソーシャルワーカー協会H27基
幹研修Ⅱ

2015.12.12 山形市

講演

当施設

木川幸一

医療分野で働くソーシャルワーカーの立場から
北海道医療大学臨床福祉学科キャリアガイ
ダンス「働く卒業生の講話」

2016.1.22 当別町

講演

当施設

木川幸一

セカンドオピニオン

拓北あいの里ケア施設町内会月例研修会

2015.3.15 札幌市

講演

当施設

〈論文発表・著書など〉

木川幸一、金澤友紀、金橋美咲、菊池久美子、一
戸真由美、加藤秀則

医療情報管理室

〈学会発表・講演など〉

杉山 聡、盛永 剛、川吉晶子、原 新、高橋将
人

スキャン文書における取り込み前点検業務の必
要性について

第41回日本診療情報管理学会学術大会

2015.9.18 岡山市

口頭発表

当施設

杉山 聡、盛永 剛、川吉晶子、原 新、高橋将
人

スキャン文書における精度管理について

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

口頭発表

当施設

栄養管理室

〈学会発表・講演など〉

長澤真由美

当院でのがん患者へのNSTの取り組み
がんサポーターズ・ケアを考える会
2015.7.14 札幌市
講演
当施設

川合彩絵

褥瘡予防を目的とした低栄養患者への介入
第69回国立病院総合医学会
2015.10.2 札幌市
口頭発表
当施設

長澤真由美

がん予防に役立つ食事について
公益財団法人北海道対がん協会主催
平成27年度がん予防学級
2015.11.11 札幌市
講演
当施設

臨床工学室

〈学会発表・講演など〉

小田嶋洋兵、正木 弦、小島啓司、黒川健太、原
林 透

パラレルドッキング法に変更するにあたっての
臨床工学技士の関わり

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

口頭発表

当施設

正木 弦、小島啓司、小田嶋洋兵、黒川健太

緊急内視鏡に対する臨床工学技士の取り組み

第69回国立病院総合医学会

2015.10.3 札幌市

ポスター発表

当施設

小島啓司、正木 弦、小田嶋洋兵、黒川健太

テルモ社製横型輸液ポンプTE-LM700を使用
して～看護師アンケート調査を踏まえての検討

第69回国立病院総合医学会

2015.10.2 札幌市

口頭発表

当施設

小田嶋洋兵、正木 弦、小島啓司、黒川健太、原
林 透

パラレルドッキング法に変更するにあたっての
臨床工学技士の関わり

第8回日本ロボット外科学会学術集会

2016.1.30 米子市

口頭発表

当施設

VI 各種研究参加状況

平成27年度（2015年度）各種研究参加状況

1. がん研究開発費

研究者名	班長の氏名及び所属	研究課題名	分担研究課題名
平賀 博明	飛内 賢正 (国立がん研究センター)	成人固形がんに対する標準治療 確立のための基盤研究	骨軟部腫瘍に対する標準治療確 立のための多施設共同研究

2. 日本医療研究開発機構研究費

研究者名	班長の氏名及び所属	研究課題名	備 考
高橋 将人	麻賀 創太 (国立がん研究センター)	早期乳がんに対するイメージガイド下ラジオ波熱 焼灼療法の標準化に係る多施設共同試験	
平賀 博明	小川 淳 (新潟県立がんセンター新潟 潟病院)	再発小児・AYA (Adolescent and Young Adult) 世代固形腫瘍に対する2剤併用化学療法について の多施設共同臨床研究	
平賀 博明	岩本 幸英 (九州大学)	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のため の研究	
平賀 博明	松田 浩一 (東京大学)	「希少がん・小児がん」軟部肉腫に対するゲノム 解析による新規治療標的分子の探索	

3. 文部科学省関連研究費補助金

研究者名	班長の氏名及び所属	研究課題名	備 考
藤堂 幸治	藤堂 幸治 (北海道がんセンター)	中リスク子宮体癌におけるリンパ節微小転移実態 の解明	
小野寺俊輔	小野寺俊輔 (北海道がんセンター)	便中の α ディフェンシン測定を用いた放射線性腸 炎の定量評価と臨床応用	

4. 独立行政法人国立病院機構共同研究「EBM推進のための大規模臨床研究」

研究者名	班長の氏名及び所属	研究課題名	研究分野
井上 仁喜	尾野 亘 (京都医療センター)	2型糖尿病を併せ持つ高血圧患者におけるメトホル ミンの心肥大・心機能に対する効果の検討	ABLE-MET
安達 大史	松村 晃秀 (近畿中央胸部疾患センター)	喫煙者、非喫煙者の肺癌病因に関する分子疫学的研 究	JME

5. 独立行政法人国立病院機構共同臨床研究

研究者名	班長の氏名及び所属	研究課題名	研究分野
高橋 康雄	高橋 康雄 (北海道がんセンター)	大腸内視鏡治療における新規経口抗凝固剤置換の有用性と安全性に関する多施設共同研究	[消化器疾患]
山城 勝重	山城 勝重 (北海道がんセンター)	病理診断支援システムの質の研究	[多施設共同研究]
原田 眞雄	原田 眞雄 (北海道がんセンター)	非小細胞肺癌患者に対するerlotinib投与時に皮疹軽減のためのminocyclineの有用性の検討するランダム化比較第3相試験	[がん(呼吸器)]
安達 大史	安達 大史 (北海道がんセンター)	75才以上後期高齢者非小細胞肺癌症例の手術成績に関する前向き多施設コホート研究	[がん(呼吸器)]
黒澤 光俊	黒澤 光俊 (北海道がんセンター)	NHO血液・造血器疾患ネットワーク参加施設に新たに発生する多発性骨髄腫の予後に関する臨床的要因を明らかにするコホート研究	[血液疾患]
山城 勝重	山城 勝重 (北海道がんセンター)	細胞診検体を用いた乳癌薬物療法適応決定のための基礎研究	[がん(一般)]
高橋 将人	山城 勝重 (北海道がんセンター)	細胞診検体を用いた乳癌薬物療法適応決定のための基礎研究	[がん(一般)]
平 紀代美	山城 勝重 (北海道がんセンター)	細胞診検体を用いた乳癌薬物療法適応決定のための基礎研究	[がん(一般)]
山城 勝重	山城 勝重 (北海道がんセンター)	国立病院機構における遠隔乳腺病理診断ネットワーク構築	[他施設共同研究]
高橋 将人	山城 勝重 (北海道がんセンター)	国立病院機構における遠隔乳腺病理診断ネットワーク構築	[他施設共同研究]
平 紀代美	山城 勝重 (北海道がんセンター)	国立病院機構における遠隔乳腺病理診断ネットワーク構築	[他施設共同研究]

6. その他研究

研究者名	依頼元	研究課題名	備考
平賀 博明	治験推進研究事業	治験の実施に関する研究 [グルカルピダーゼ]	
高橋 将人	治験推進研究事業	治験の実施に関する研究 [オラパリブ]	
高橋 将人	バブリックヘルスリサーチセンター	HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法におけるトラスツズマブ単剤と化学療法併用に関するランダム化比較試験	
高橋 将人	Japan Breast Cancer Research Group	レトロゾール長期投与試験 (SOLE試験) ホルモン受容体陽性リンパ節転移陽性初期乳がんの閉経後女性における年のアジュバント内分泌療法後のレトロゾールの継続投与と間欠投与の役割を比較評価する第Ⅲ相試験	
高橋 将人	バブリックヘルスリサーチセンター	エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験	
佐川 保	日本がん臨床試験推進機構	標準治療に不応/不耐切除不能進行・再発大腸癌に対しFDG-PET/CTを用いてレゴラフェニブの効果予測を検討する第Ⅱ相試験	

研究者名	依頼元	研究課題名	備考
高橋 将人	CSPOR-BC	転移性乳がん患者におけるアブラキサン（3週毎投与法）の至適用量を検討するランダム化第Ⅱ相臨床試験	
高橋 将人	JBCRG	HER2陰性再発乳癌患者の1次もしくは2次化学療法としてのエリプリンの臨床的有用性に関する検討（ランダム化第Ⅱ相試験）	
渡邊 健一	バブリックヘルスリサーチセンター	エストロゲンレセプター陽性再発乳癌を対象としたエベロリムス使用症例における口内炎予防のための歯科介入無作為化第Ⅲ相試験（乳腺外科）	
秦 浩信	バブリックヘルスリサーチセンター	エストロゲンレセプター陽性再発乳癌を対象としたエベロリムス使用症例における口内炎予防のための歯科介入無作為化第Ⅲ相試験（歯科口腔外科）	
高橋 将人	JBCRG	ホルモン陽性HER2陰性進行再発乳癌に対する、ホルモン療法による維持療法を利用したベバシズマブ＋パクリタキセル療法の治療最適化研究－多施設共同無作為化比較第Ⅱ相臨床試験－	
高橋 康雄	リニカル	RAS遺伝子（KRAS/NRAS遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対するmFOLFOX6＋ベバシズマブ併用療法とmFOLFOX6＋パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相無作為化比較試験（PARADIGM study）	
高橋 康雄	リニカル	RAS遺伝子（KRAS/NRAS遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対するmFOLFOX6＋ベバシズマブ併用療法とmFOLFOX6＋パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相無作為化比較試験における治療感受性、予後予測因子の探索的研究	
高橋 将人	JBCRG	HER2陽性の進行・再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第Ⅲ相臨床研究－ペルツズマブ再投与試験－	
高橋 将人	Japan Breast Cancer Research Group	HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたベバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究	
高橋 将人	国立がん研究センター	トリプルネガティブ乳がんに対する術前化学療法におけるEribulin→FEC療法の第Ⅱ相臨床試験	

VII 平成27年度 病院行事

平成27年度 病院行事

- H27. 4. 1 • 新採用者オリエンテーション（～6日）
- H27. 4. 3 • 新採用職員歓迎会（札幌フローラ）
- H27. 5. 1 • 沖縄県がん診療連携協議会視察
院長 近藤 啓史、医療社会事業専門員 木川 幸一
- H27. 5. 3 • がん相談支援センターPR「博多どんたく」参加
副院長 加藤 秀則、医療社会事業専門員 木川 幸一
- H27. 5. 14 • 医療安全研修会Ⅰ
～パワーポート留置時の注意と造影・管理～
演題：「パワーポートの安全な留置手順と造影」
〈講師〉放射線診断科医長 市村 亘
演題：「パワーポート留置患者の管理と指導」
〈講師〉がん化学療法看護認定看護師 高橋 由美
- H27. 5. 15 • 看護研究研修
演題：「看護研究計画書の作成」
〈講師〉札幌市立大学 看護学部講師 山本 真由美 先生
- H27. 5. 19 • 医療安全研修Ⅱ
【事例要因分析から改善へ】事例分析「ImSAFER」
〈講師〉ImSAFERトレーナー 春日 道也 先生
- H27. 5. 20 • ふれあい看護体験2015
- H27. 5. 22 • 札幌緩和医療講演会2015（がん性疼痛勉強会）
演題：「がん化学療法における神経障害性疼痛とオピオイド」
〈座長〉緩和ケア内科医長 松山 哲晃
- H27. 5. 25 • 職員一般健康診断（～29日）
- H27. 5. 26 • 北海道がんセンター全面建て替え整備工事設計事務所選定委員会
- H27. 5. 27 • 平成27年度 看護師に対する緩和ケア研修（～29日）
- H27. 6. 2 • 第1回多施設合同感染対策カンファレンス
- H27. 6. 20 • 北海道がん診療連携協議会がん登録部会
平成27年度第1回北海道がん登録研修会
〈講師〉福井県立病院 病理診断科主任医長 海崎 泰治 先生
- H27. 6. 22 • 感染管理研修Ⅰ
演題：職業感染とインフルエンザ
〈演者〉一般社団法人Sapporo Medical Academy 代表理事 岸田 直樹 先生
- H27. 6. 25 • 北海道がん相談員スキルアップ（障害年金実践講座）研修
- H27. 6. 26 • 北海道地域連携クリティカルパス部会
- H27. 6. 27 • 第35回北海道がん講演会
「がんの診断・治療における最近のトピックス」
演題：「骨軟部組織のがん」
〈講演者〉サルコーマセンター長／腫瘍整形外科医長 平賀 博明
演題：「すい臓のがん」
〈講演者〉消化器内科医師 田村 文人
演題：「非喫煙の女性の肺がん」
〈講演者〉呼吸器内科医長 福元 伸一
場所：ホテルポールスター札幌

- H27. 7. 4
- ・ 市民のための北海道がんフォーラム
第11回 肺がんに効く肺がんの話を知る会
〈司会〉院長 近藤 啓史
演題：「肺がんの外科治療の役割」
〈講演者〉呼吸器外科医長 有倉 潤
演題：「高齢者の肺がんの特徴」
〈講演者〉呼吸器外科医師 水上 泰
演題：「男性の肺がん、女性の肺がん」
〈講演者〉呼吸器外科医長 安達 大史
- H27. 7. 7
- ・ La Place (ラ・プラス) 勉強会
演題：「肺がんについて学ぼう」
〈講演者〉院長 近藤 啓史
場所：がんサポートセンター
 - ・ 医療安全研修会Ⅲ (輸液ポンプ)
- H27. 7. 8
- ・ 東橋小学校2年1組社会科見学
- H27. 7. 9
- ・ 北海道がん相談員スキルアップ (障害年金実践講座) 研修 (帯広)
- H27. 7. 14
- ・ がんサポーター・ケアを考える会
演題：「当院でのがん患者へのNSTの取り組み」
〈座長〉消化器内科医長 藤川 幸司
〈講演者〉栄養管理室長 長澤 真由美
演題：「消化器がん治療における緩和と栄養」
〈座長〉内科系診療部長 高橋 康雄
- H27. 7. 17
- ・ 北海道がん診療連携協議会 相談・情報部会
 - ・ 難治性がん啓発キャンペーン2015 ストライド・フォー・ホープ
基調講演
演題：「肺がんの薬物療法」
〈講演者〉呼吸器内科医長 原田 眞雄
場所：かでの2. 7
- H27. 7. 23
- ・ 北海道がん相談員スキルアップ (障害年金実践講座) 研修 (旭川)
- H27. 7. 24
- ・ 第7回北海道がん診療連携協議会
- H27. 7. 25
- ・ 市民公開講座「慢性肝炎、肝硬変、肝がんの最新情報」
演題：「B型肝炎とC型肝炎の治療」
〈講演者〉消化器内科医師 田村 文人
演題：「肝がんの内科的治療」
〈講演者〉放射線診断科医長 市村 亘
- H27. 7. 29
- ・ 第16回がん診療連携症例検討会
演題：「地域包括ケアの現状と課題 地域分析を通して医療連携を考える」
〈講演者〉勤医協札幌病院 院長 堀毛 清史 先生
演題：「地域包括システムと地域連携 当院の相談支援を通して考える」
〈講演者〉医療社会事業専門職 木川 幸一
- H27. 7. 30
- ・ 北海道がん相談員スキルアップ (障害年金実践講座) 研修
会場：市立室蘭総合病院
- H27. 8. 6
- ・ 医療安全研修Ⅳ
演題：「チームで取り組むヒューマンエラー対策」
〈講師〉東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理室長 海渡 健 先生
- H27. 8. 8
- ・ 平成28年度国立病院機構看護職員採用試験
- H27. 8. 26
- ・ 勤務時間・休暇制度研修会

- H27. 8. 27 • 北海道がん相談員スキルアップ（障害年金実践講座）研修（函館）
- H27. 9. 1 • 第2回多施設合同感染対策カンファレンス
- H27. 9. 5 • 北海道がんと闘う医療フェスタ2015
演題：「痛みをこわがらないで」
〈講演者〉緩和ケアチーム医師 大場 洋子
演題：「がんのリハビリテーション」
〈講演者〉理学療法士 井上 由紀
演題：「がん治療の薬の話」
〈講演者〉がん専門薬剤師 高田 慎也
演題：「がん登録って何だろう?!」
〈講演者〉院内がん・地域がん登録係長 齋藤 真美
- H27. 9. 7 • 勤務時間・休暇制度研修会
- H27. 9. 18 • 感染防止対策地域連携加算に伴う札幌厚生病院による訪問評価
- H27. 9. 25 • 中学生に対する「がん教育」（北海道のがんの教育総合支援事業）（※Topics 170頁）
演題：「がんのことを知ろう 中学生向（予防編）」
〈講演者〉院長 近藤 啓史
場所：札幌市立簾舞中学校体育館
- H27. 9. 28 • 人工呼吸器研修会
- H27. 10. 2 • 第69回国立病院総合医学会（～3日）（※北海道新聞 平成27年9月27日（日）掲載）
地域でつくる明日の医療 ～まいにちから、まんいちまで～
会場：ロイトン札幌、ニトリ文化ホール・さっぽろ芸術文化の館、札幌市教育文化会館
特別講演1：「発酵の不思議」
〈講演者〉東京農業大学 名誉教授 小泉 武夫 先生
特別講演2：「発酵の不思議」放射線の光と影
〈講演者〉北海道がんセンター 名誉院長 西尾 正道
- H27. 10. 6 • 第2回感染管理研修会
テーマ：「感染対策と環境衛生」
〈講演者〉札幌医科大学附属病院 感染制御部 西 朝江 先生
- H27. 10. 8 • 移動献血車「ひまわり号」による献血受入
- H27. 10. 9 • 第47回がん予防道民大会
演題：「がんを知り、がんに負けない2015」
〈講演者〉院長 近藤 啓史
場所：江別市民会館
- H27. 10. 15 • 避難訓練
- H27. 10. 16 • 平成27年度 看護部講演会
演題：「がん患者さんの心理的支援」
〈講演者〉医療法人啓明会相原病院 早川 昌子 先生
独立行政法人労働者健康福祉機構関西ろうさい病院
リエゾン精神看護専門看護師
- H27. 10. 20 • 医療安全研修Ⅳ（医薬品）
～知っておこう！ やめなきゃならない薬あれこれ～
- H27. 10. 24 • 平成27年度全国共通がん医科歯科連携講習会
- H27. 10. 27 • 道新フォーラム「オール北海道でがんを防ごう」
〈パネリスト〉院長 近藤 啓史
会場：かでの27

- H27. 11. 3
 - ・白石すこやかフェスタ2015
演題：「正常な細胞がどうやってがんに変化するの？」
〈講演者〉副院長 加藤 秀則
会場：札幌コンベンションセンター
 - ・全国がん登録制度市民向け説明会
- H27. 11. 5
 - ・医療安全研修
テーマ：「患者トラブル・クレームの対応」
〈講師〉房川法律事務所 弁護士 房川 樹芳 先生
- H27. 11. 7
 - ・平成27年度 幹部看護師任用候補者選考
- H27. 11. 10
 - ・ハラスメント研修会 ～楽しく仕事をするために～
〈講師〉日本産業カウンセラー協会 理事 桑原 富美恵 先生
 - ・第3回多施設合同感染対策カンファレンス
- H27. 11. 11
 - ・職員等インフルエンザワクチン接種（～13日）
- H27. 11. 13
 - ・第1回日高がん情報講座（浦河町総合文化会館）
- H27. 11. 15
 - ・市民公開講座 市民のためのがんフォーラムSAPPORO2015
～がんに負けない社会の実現を目指して～
演題：「北海道のがんの現状について」
〈講演者〉院長 近藤 啓史
演題：「今、最良の乳がん治療とは」
〈講演者〉統括診療部長 高橋 将人
- H27. 11. 16
 - ・感染防止対策地域連携加算に伴う加算1施設の相互評価（札幌医科大学附属病院）
- H27. 11. 17
 - ・医療安全講演会
テーマ：「医療事故調査制度の概要と院内事故調査の方法」
〈講師〉北海道大学病院 医療安全管理部 部長 南須原 康行 先生
- H27. 11. 19
 - ・医療安全祭（～20日）
- H27. 11. 22
 - ・平成27年度北海道がんセンター緩和ケア研修会（～23日）
- H27. 11. 24
 - ・平成27年度特殊健康診断（～27日）
- H27. 11. 27
 - ・第16回がん専門相談実務者会議（手稲浜仁会病院）
- H27. 11. 30
 - ・平成27年度がん専門分野における質の高い看護師育成研修（～12月18日/北海道委託事業）
- H27. 12. 10
 - ・平成27年度 第1回北海道がん相談研修会
演題：「患者・記者の視点からみたがん相談体制へ期待すること」
〈講師〉読賣新聞東京本社編集局社会保障部 次長 本田 麻由美 先生
- H28. 1. 8
 - ・職員親睦新年会（札幌プリンスホテル）
- H28. 1. 10
 - ・遺伝性乳がん卵巣がん がんと遺伝を正しく知ろう
演題：北海道での予防的手術
〈講演者〉統括診療部長 高橋 将人
会場：ホテル札幌芸文館
- H28. 1. 16
 - ・がん診療連携拠点病院強化事業による婦人科細胞診研修会
テーマ：「子宮頸部病変 腺系病変」
演題：「子宮頸部腺癌の臨床」
〈講演者〉婦人科医長 岡元 一平
演題：「子宮頸部 腺系病変の細胞像」
〈講師〉公益財団法人宮城県対がん協会細胞診センター 検査課 技術副参事 及川 洋恵 先生
- H28. 1. 21
 - ・北海道がん診療連携協議会がん登録部会研修ワーキングチーム会議

- H28. 1. 27
 - 平成27年度「がんの教育」研修会
演題：「がんの理解とその対応」
会場：旭川市ときわ市民ホール
〈講演者〉院長 近藤 啓史
 - 厚生労働省北海道厚生局による施設基準等に係る適時調査
- H28. 1. 28
 - 第17回がん診療連携症例検討会
演題：第1部 「地域医療構想と地域ケアと在宅医」
〈講演者〉坂本医院 院長 坂本 仁 先生
演題：第2部 「在宅医療の実際 – 末期癌の場合を中心に –」
〈講演者〉清明館診療所 院長 矢崎 一雄 先生
- H28. 1. 30
 - いまがんを考える2016
演題：「がん治療における内視鏡外科の現状と将来」
〈座長〉院長 近藤 啓史
- H28. 2. 2
 - 第4回多施設合同感染対策カンファレンス
- H28. 2. 5
 - 監査法人監査
- H28. 2. 11
 - 「がんを防ごう」キャンペーンがんリレー講座
テーマ：「肺がんの予防と治療の最新情報」
〈講師〉院長 近藤 啓史
会場：北海道新聞社本社
- H28. 2. 18
 - がん対策に関する行政評価・監視に関連した調査（総務省 行政評価局）
- H28. 2. 19
 - 「がん」についてのミニ講演会（白石地区連合町内会女性部、札幌医師会白石区支部主催）
テーマ：「乳がん ～みんなが知りたいこと、医者がみんなに知ってほしいと思っていること～」
場所：白石会館
〈講演者〉統括診療部長 高橋 将人
- H28. 2. 20
 - 北海道がん診療連携協議会がん登録部会 平成27年度第2回北海道がん登録研修会
演題：「がん登録の登録対象抽出方法」「全国がん登録の遡り調査について」
「院内がん登録標準登録様式について」
〈講師〉国立がん研究センターがん対策情報センターがん統計研究部部长 西本 寛 先生
- H28. 2. 23
 - 臨床研究部研究発表会（～3月2日）
- H28. 2. 24
 - 平成27年度Cancer Board「がん遺伝子診断部について」
〈講師〉北海道大学大学院 医学研究科病理学講座腫瘍学分野 特任教授 西原 広史 先生
- H28. 2. 25
 - 平成27年度 第2回北海道がん相談研修会
演題：「患者の最善の意志決定支援と相談支援に求められるメンタルサポート」
〈講師〉国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科長 小川 朝生 先生
- H28. 2. 27
 - 第2回後志がんフォーラム ～正しく知ろう！がんのこと～
演題：「聞く・知る がんのこと ～がんの予防から療養までの基礎知識」
〈講演者〉院長 近藤 啓史
場所：倶知安厚生病院
- H28. 3. 9
 - 夜間想定避難訓練
- H28. 3. 14
 - 平成27年度看護研究発表会
- H28. 3. 17
 - 北海道がん診療連携協議会がん登録部会
- H28. 3. 19
 - こばと保育所卒園式
 - 病院送別会（札幌フローラ）
- H28. 3. 24
 - 移動献血車「ひまわり号」による献血受入

近藤院長が簾舞中学校で講演を行いました。

平成27年9月25日札幌市南区にあります札幌市立簾舞中学校において、全校生徒143人を対象に当院 近藤院長が「がん教育」の授業を行いました。

昨年度より始まった北海道のがんの教育総合支援事業に基づき、今年度は札幌市立簾舞中学校が、がんの教育推進校に指定されており、生徒、教職員のほか近隣の住民の方も参加されました。

当日の講演依頼は、「がんに関して正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考える態度の育成」という内容でした。

近藤院長は、がんの専門医としての立場から「がんのことを知ろう 中学生向（予防編）」と題したスライドを用い、普段一般の方向けの講演会よりも、分かりやすい内容を心掛けて授業を行いました。

がんの予防のために、若い年代から心掛けてもらえるよう、食事、運動、喫煙など身近なことを題材にした質問で、たくさんの生徒さんにマイクを向け、ひとりひとりが「がん」について考える授業となりました。

がんになるのは人ごとではなく、早期発見により治せる可能性が確実に高くなることを説き、いま自分に何が出来るのかを問い掛けました。

昨今のテレビ等メディアによる「がん」に対する報道も影響があり、生徒の皆さんの表情は真剣なもので、熱心に聴き入っていました。

当日はがん経験者の方の体験談もあり、生徒の皆さんは「がん」について考えさせられる1日となったことでしょう。



医療最前線

広告



もう国立ではない、国立病院のミッション

菊地誠志 対談 近藤啓史

12年ぶりに札幌で開催される国立病院総合医学会の会長・副会長である二人の院長が語り合う。

地域の人々の安心と健康を支え続ける使命

地域の安全の脅威として、経営改革を果敢とす

2010年、国立病院機構は、医療機関の改革を断行し、医療法人制に転換した。2015年4月には、さらに大きな改革として、国立病院機構を「国立病院機構医療法人」として再編した。これは、国立病院機構の歴史の中で最も大きな変革である。この変革により、国立病院機構は、地域の人々の安心と健康を支え続ける使命を、より一層果たすことができるようになった。

近藤 近藤、国立病院機構が断行した変革とは、どのようなものでしょうか。菊地 国立病院機構は、これまで以上に、地域の人々の安心と健康を支え続ける使命を、より一層果たすことができるようになった。これは、国立病院機構の歴史の中で最も大きな変革である。この変革により、国立病院機構は、地域の人々の安心と健康を支え続ける使命を、より一層果たすことができるようになった。

適切な連携と分担で、よりよい医療体制を目指す

菊地 がん専門病院として、道内全域をカバーする「北海道がんセンター」

がん治療でも複数の医師が揃ってチームアプローチ（腫瘍総論）を繰り返す。患者さんに最適な治療法を探ります。また、患者さんは心身ともに大きな負担を受け、うつ病になる方も少なくありません。そのため、がん治療だけでなく、心身のケアも行うことが重要です。

近藤 北海道がんセンターは、1997年、道内で初めて放射線治療センター（リニアック）を導入し、翌年の開設を目指して、2001年に「北海道がんセンター」を開設しました。2010年には、道内唯一の「北海道がんセンター」に指定されました。

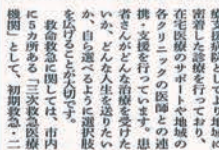
地域に寄り添う「北海道がんセンター」 北海道がんセンターは、2010年に国立病院機構札幌中央病院と、国立病院機構札幌東病院が統合して誕生しました。救命救急が神速な体制を整え、小児がんや高齢がん、がん小児科など、幅広いがん治療に対応しています。

菊地 がん治療でも複数の医師が揃ってチームアプローチ（腫瘍総論）を繰り返す。患者さんに最適な治療法を探ります。また、患者さんは心身ともに大きな負担を受け、うつ病になる方も少なくありません。そのため、がん治療だけでなく、心身のケアも行うことが重要です。

近藤 北海道がんセンターは、1997年、道内で初めて放射線治療センター（リニアック）を導入し、翌年の開設を目指して、2001年に「北海道がんセンター」を開設しました。2010年には、道内唯一の「北海道がんセンター」に指定されました。

地域に寄り添う「北海道がんセンター」 北海道がんセンターは、2010年に国立病院機構札幌中央病院と、国立病院機構札幌東病院が統合して誕生しました。救命救急が神速な体制を整え、小児がんや高齢がん、がん小児科など、幅広いがん治療に対応しています。

救命救急医療 3次救命救急センター（ヘリポート設置） 地域医療 北海道がん診療連携指定病院 地域医療連携指定病院 在宅療養後方支援病院



北海道がんセンター T003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3番54号 TEL:011-811-9111(地域医療連携室:011-811-9117(直通))

北海道医療センター T063-0005 札幌市西区山の手5条7丁目1番1号 TEL:011-611-8111(地域医療連携室:011-611-8116(直通))

救命救急医療 3次救命救急センター(ヘリポート設置) 地域医療 北海道がん診療連携指定病院 地域医療連携指定病院 在宅療養後方支援病院

北海道をカバーする国立病院機構ネットワーク

Map of Hokkaido showing hospital locations and lists of services for various hospitals: 旭川医療センター, 帯広病院, 八雲病院, 函館病院. Services include respiratory, cancer, and emergency care.

Event information for the 69th National Hospital General Medical Association Meeting (10/2-3) and Chikaho Citizen PR Event (10/2-3). Includes details on panel discussions and consultation corners.

独立行政法人 国立病院機構
北海道がんセンター

年 報

平成28年12月発行

発 行 独立行政法人 国立病院機構 北海道がんセンター
札幌市白石区菊水4条2丁目
電 話 011-811-9111
F A X 011-832-0652
発行者 独立行政法人 国立病院機構 北海道がんセンター
院長 近藤 啓史
